堀内新泉君著
精力増進法
◎大版全一冊 ◎正價五拾錢 ◎郵稅六錢

英國ノールソン著 日本海獄生譯
思想健全法
◎中版全一冊 ◎正價三十錢 ◎郵稅四錢

法學博士 松崎藏之助先生序
實業之日本社記者 都倉義一著
最新式記帳法
◎大版全一冊 ◎正價七十錢 ◎郵稅八錢

土屋長吉君新著
最新販賣術
◎中版全一冊 ◎正價卅五錢 ◎郵稅六錢

實業之日本臨時增刊
健康大觀
◎定價廿二錢 ◎郵稅貳錢

英國ゼローム、ケイ、ゼローム著
波多野烏峰著
成功の順路
◎中版全一冊 ◎正價卅五錢 ◎郵稅六錢

蘆川忠雄 山崎清風 兩君共著
克己心の修養
大版上製金文字入 ◎正價壹圓 ◎郵稅八錢

東京朝日新聞記者 杉村縱横君編
肺病全快談
◎中版全一冊 ◎正價五十錢 ◎郵稅六錢

米國マーデン著 波多野烏峰君譯
快活なる精神
◎中版全一冊 ◎正價卅錢 ◎郵稅四錢

文學士 久保天隨君著
儀式文作法
◎中版全一冊 正價四十五錢 ◎郵稅六錢

梅田嬌菓君新著
家庭菓子製法
◎中版美本 ◎正價五十錢 ◎郵稅六錢

山方香峰君著
日常生活 衣食住
大版上製金文字入 正價壹圓廿錢 ◎郵稅八錢

東京市京橋區南紺屋町十二番地 **實業之日本社** （郵便振替貯金口座參貳六番） 賣捌各地書店

實業之日本社發行書目

山方香峰君新著
一國一人近世人傑傳
◎上製金文字入
◎正價八拾錢
◎郵稅八錢

英國リッチー著　山崎梅處君譯
富豪實驗教訓
◎大版一册
◎價六拾錢
◎郵稅八錢

蘆川忠雄君著
處世經濟法
◎袖珍美本
◎價三拾錢
◎郵稅四錢

波多野烏峰君譯著
光榮ある生涯
◎中版一册
◎價四拾錢
◎郵稅六錢

西岡英夫君著
商賈と勘定
◎中版一册
◎價四拾錢
◎郵稅六錢

瀧清君著
商業書簡と書式
◎中版一册
◎價三拾五錢
◎郵稅四錢

報知新聞記者中松千代松君著（近刊）
名家長壽實歷談
◎大版一册
◎正價八十錢
◎郵稅八錢

本間鶴治君著（近刊）
通俗家庭理料
◎大版一册
◎正價七拾錢
◎郵稅八錢

文學士　久保天隨先生著（印刷中）
美文作法
◎金文字入美本
◎價四拾五錢
◎郵稅六錢

矯溢生著
獨笑珍話
◎袖珍美本
（印刷中）

農學博士　玉利喜造先生著
冷水浴の實驗と學理
（印刷中）

米國大統領ルーズベルト著　山崎梅處君譯
ルーズベルト全集
◎大版一册
（印刷中）

明治四十年八月十八日印刷
同　年八月廿二日發行

富豪實驗教訓奥付

定價金六拾錢

不許複製

譯者　山崎梅處
東京市京橋區南紺屋町十二番地

發行者　增田義一
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷人　佐久間衡治
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

印刷所　株式會社秀英舍
東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

發兌元　實業之日本社
東京市京橋區南紺屋町十二番地（電話新橋八百七十四番）

大賣捌所
東京堂、東海堂、北隆館、上田屋、至誠堂、良明堂
大阪盛文館、杉本書店、京都東枝律書房、名古屋川瀨代助、久留米菊竹

トすべし。

△書籍は秩序正しくその位置に列すべし。

△零碎なる費途に注意すべし、滴々の水も終には大船を沈むべし。

△生命保險は最も廉價に且つ安全なる人間生活上の用意なり。

△最良を望んで最惡を得るものと覺悟せよ、而して天の與ふるが儘に之を享けよ。

之を要するに致富の道は主として勤勉節約の外に出でず、貯蓄は一錢にても可なり、明日と云はずして今日より勵行すべし、然らば塵も積つて山となる譬の如く、何時しか相應の資本となり、更に幸運を開拓して、最高級の成功者たるを得べし、古來諸富豪の經歷は皆此單純なる眞理を實行せるに外ならざるなり。

富豪實驗教訓　終

べからず。

△實際的に活動せよ、希望は餘りに卓絶し、若しくは架空なるべからず。

△職務上に就ては友人たりとも餘りに多大の信用を拂ふべからず。

△友人に對しては貸借を愼むべし、金を失ふと同時に友人をも失ふべければなり。

△職業に對しては寡言を可とす、人に言はしむるとも人より言はしめらるゝ勿れ。

△徐ろに熟慮し、斷乎として決行せよ。

△躊躇は禁物なり、熟慮の上の斷行は鬼神も之を避くべし。

△時と金と判斷とは事業に對する三要件なり。

△潮流に逆はずして行くべし。

△人は總て自己よりも怜悧なりと心得べし、是れ人に對して自己を守るの道なり。

△書簡を俟たずして會見せよ、而して眼光を見て對談者の意思那邊に在るかを

△貧窮若し罪惡の母たらば、元氣の欠乏はこれが父たるべし。
△人の奴僕となる能はざるものは、人の主人となる能はず。
△獨立を欲するものは先づ自ら劍を拔くべし。
△大危難に臨みて始めて大勇氣を見る。
△規則は光陰を擒ふるの術なり。
△服裝は資力よりも必ず卑うせよ。

フランクリン又曰く『要するに富者となるの道は唯勤勉と節約とにあるのみ、先づ正直と勤勉とを以て伴侶と爲し、次に入るを量り出るを制すべし』と更に、職業撰擇其他に關する注意十八箇條を敎へて曰く

△職業は自己の性格と嗜好とに適應せるものを選ばざるべからず。
△職業に從事するは猶ほ船に乘るが如し、常に舵機を把て船の方向を定めざるべからず。
△自己を信ずべし、輕々しく他の言に動かさるゝ勿れ。
△假令事業の隆盛に赴くも、徒に外見を衒ひ、若しくば誇張に類することを爲す

年に至れば四片を價すべし。

△身分に應じて生活せよ、軈て鉛は金と化すべし。

△良き果實は徐ろに熟し來る。

△業務のなきは安息にあらず。

△志堅きは殆んど成功に等し。

△布團の上に座し夜具の中に臥して成功するものなし。

△人は皆獨力にて戰はざるべからず。

△機會は鳥の如し、その未だ飛ばざるに捕へよ。

△艱難に遇はざるものは奇蹟の今も尚ほ行はれつゝあるを信ぜず。

△手袋なくんば物に觸れずといふものは、その手淸潔なりとも何かせん。

△準備整はゞ即時に決行せよ。

△職業に力を致せ然らば汝は完全の人たるべし。

△借る人となる勿れ、貸す人となる勿れ。

△正直は最善の方便なり。

△フランクリンの處世訓

フランクリンは健全なる常識の遺憾なく發達せる好典型にして、其一言一行は直に後進青年處世上の教訓と爲すべし、曾て一家の如何にして繁榮すべきかを說いて曰く「屢々移植せらるゝ樹木は枯凋し易く猥りに轉業する者は成功せず」又曰く「農業を以て身を立てんと欲する者は自ら犁鋤を把り且つ牛馬を驅らざるべからず」又曰く「邊幅を修めんと欲する者は禍なり、若し此の如き必要ある時は先づ懷中に貯ふる所幾何なるかを算せよ」と何れも實際的教訓にして、一讀三誦の價あり。

フランクリン曾て青年浮誇の風を戒めんと欲し處世訓二十二箇條を撰んで後進に教ふ、言々其實驗に出でゝ健全なる人間生活の意義を道破す、男子青雲の志ある者は須らく之を坐右銘と爲すべし。

△酒色、賭博及虛言は致富の大敵なり、欠乏立ろに臻らん。

△大船巨船は大冒險に堪ふ、傳馬船は常に海岸に漂ふ。

△浪費を節したる一片の貯金は二片の價あり、一日一本の留針(ピン)も之を積んで一

近代の富豪なるが、初め動もすれば世相を悲觀し、失望境にのみ沈淪せしが、一朝幸運は自ら開拓するものなりとの理を自覺してよりは、常に人事を樂觀し如何なる困難に遭遇するも自若として動かず、逆境の中にも希望を失ふ事なく、遂に成功の域に達して巨萬の富を致せり。

米國シンシンナチの富豪ニコラス、ロングヲースは「一度計畫せる事は最後の成功を見るに至る迄は其手を弛むる勿れ、總べての責任に忠實なれ、幸運は此の覺悟ありて始めて開拓し得べし」との信仰を恪守し、又米國の富豪として知られたるスチーブン、ゼラードは「一弗以上の金錢は何人も之を注意す、然れども大成を期する者は一仙二仙を忽にせざるを要す」といひ、紐育のスチュヤートは「假令材能他に卓越するも、人若し勤勉と忍耐とを缺かば決して幸福なる運命を開拓する能はず」といへり、吾人は此等空拳を揮て成功せる奮鬪家の實驗的敎訓に鑑み、致富の道の寧ろ簡單にして學び易きを感ぜざるを得ず、要は克己力を强うして區々の誘惑を制し、最後の成功を期するに在り。

も、唯惜むらくは忍耐の力を欠けり、故に有爲の材を抱いて無爲にして老いたり。人あり、米國の富豪ロックフエラーに對し、致富の秘訣を問ひたるに、其答ふる所は極めて簡單明快なりき曰く「責任を重んじて勤勉するのみ、余は余の責任を帶びたる一日の事業を完成したるの後にあらざれば決して遊びたる事なし、金錢は入手したる上ならでは消費せず、余は幼時より此習慣を守り、今日に至る迄曾て渝る事なく、萬事に適用したり、余が貨殖の方法は唯此一事に在るのみ、怜悧一片の才人は畢竟爲すあるに足らず」と。

△自家の運命を開拓するの道

世には一種の宿命論者ありて、如何に勤勉し勞働するも、若し幸運に際會する事なければ到底成功するものにあらずとて、奮闘的生活の無意味なるを説き、只管偶然の成功のみを期すと雖も、是れ思はざるも亦甚しきもの、天は自ら助くる者の外何人をも助けず、所謂幸運なるものは自ら助くる者の獨り收むべき結果のみ、換言すれば幸運は自ら之を迎へ自ら之を捉ふべきものなり、ゼームス、ハルフォードは英國

雖も、多くは輕佻浮薄にして忍耐勤勉の精神に乏しく、其目的動もすれば變轉して一定の事業に固着する事難く、齷齪として腦裡に些の餘裕なし、朝夕目擊する他の成功を羨むの結果、根本の用意を忘れて一躍成功者の顰に傚はんと欲するが故に、動もすれば投機事業に關係し、萬一を僥倖せんとして失敗頓挫復た立つ能はざるに至るもの多し。

之に反し田舍に在りて質朴の氣を受けたる者は粗野の中にも悠揚迫らざるの態あり、敢て邊幅を修むるなく動作遲鈍なるも、眞摯にして熱誠あり、忠實にして精力に富み、能く人生運命の歸趣を解し、事に臨んでは終始一貫斃れて後已むの意氣を存す、故に事業は一歩一歩、漸を追うて確乎たる基礎を築き、急進突飛を戒しむるが故に能く最後の勝利者たるを得るのみ。

△怜悧の青年必ずしも成功せず

ジョージ、ムーアは孤腕を揮て一代の富豪となりたる英國近代の奮闘家なり、彼に一人の長兄あり、怜悧にして高等教育を受け博學にして文章に長じたる人なりし

獅子兎を打つに全力を以てするを見ずや、翁は何事にても必ず其精力を傾注し、其完成を告ぐる迄は決して之を中止したることなし、スマイルス曰く「商業家にして成功するは單に漫然取引關係事項の多きを期するの人にあらずして、寧ろ能く事の利害得失を速斷し且つ之を實行する者に在り」と、翁は明敏にして精力に富む故に能く速斷し能く實行するが「故に今日の成功を見たるのみ、獨り翁のみならず、成功せる事業家は皆此資質あり用意あるものにあらざるはなし

△何故に田舍の出身者は成功するか

更に成功せる事業家の實歷を檢するに、其多くは粗野朴訥なる田舍の少年にして都會に人と爲れる子弟に少なし、其理由は何くに存するや、田舍少年は何事にも敏活を欠き、機轉の利かざるを常とし、老熟の時期に達する事遲々たりと雖も、若し其成功せる場合には、富に於ても、地位に於ても、能く都會出身者を壓倒するを例とす。見よ倫敦其他に於ける大會社大銀行の大出資者は何れも田舍出身の人に多きを蓋し都會に成長せるものは少にして世故に老け、小才に長じて機敏なるが如しと

實は極めて容易にして、簡單なる一法則に歸納し得るを發見せん、曰く他なし、支出を收入よりも少なうし、收入は日を追うて益々多からん事を期する即ち是れのみ此法則に基き年々歲々勤勉にして浪費を避け其剩餘を積んで倦むことなくんば不知不識の間に於て若干の富を蓄へ得べし、此粒々苦心の結果たる財產は一圓たりとも之を投機業者の手に委する勿れ、彼等は金錢の價値を知るものにあらず、一朝にして富、一夜にして貧なる投機業者にして一時の暴富を誇る者あるも、未だ曾て大事業の經營に成功せるものなく、縱し外觀成功に類するも、到底名譽ある地位を社會に占むる能はざるを如何せん。

着實なる事業は是れ眞の致富に成功すべき唯一の公道にして假令最低級の事業より其步を起すも營々として怠らずんば、終には必ずや最高點に達するを得ん、吾人は米國現代の成功せる富豪カーネギー翁に於て之を見る、翁は敏活にして精力強く、着實にして果斷に富み、如何なる小事業に對しても曾て之を忽諸に附したることとなし何等の權謀術數を用ひず唯至誠機敏及び勤勉を以て其業に當りたるのみ、從つて放慢怠惰を憎むことは恰も蛇蝎の如く、極力之を攻擊し鞭撻して止まず

の歴死者を生ずるの有樣なりき、金銀は既に缺乏を告げ、更に銅貨を以て支拂ふことゝなりたるも、人民は喜んで之れに應じ、殆んど身動きもならぬ程の重荷を負ひ得々として出で來る者頗る多かりき、然れども紙幣に尙一縷の望を繫ぎ、法定の期日に至るも交換を請求せざるものありしかば、多數の紙幣は好事家の手に蒐集せられ爾來、空しくローの製造せる泡沫的虛榮時代の面影を偲ぶの料に供せられ居るなり。

嗚呼無謀なる經濟政策の恐るべきこと實に此の如し、之に熱注して槿花一朝の榮を夢みたる巴里市民の苦々しき經驗に鑑みる時は、此間に於て無限の敎訓を學ぶ事を得べし

第十六章　結　論

△事業成敗の岐るゝ所

上來反覆列擧せる事實に徵すれば、如何にして貨殖に成功し得べきかを學ぶに於て自ら餘師あるべし、即ち致富の道は頗る困難にして且つ複雜なるに似たるも、其

正金の價格を倍加するか紙幣の價格を半減するかの何れかを採用せざるべからず、ローは前説を固執したるも用ひられず、同年五月廿一日終に紙幣價格半減の勅令は發布せられ、一萬法の紙幣は僅に五千法の價格を以て通用するに至りしかば曾て價格の不變を聲言したる帝國銀行の信用は倏忽地を拂ひ紙幣は一片の廢紙と變じ、十萬金を有する者も衣食に窮するの奇觀を呈するに至れり、三月二十七日帝國銀行は正金の支拂を停止し、同時にローは大藏大臣の職を免ぜられ、暴徒は市街に横行して掠奪を擅にし、形勢頗る不穩なりしかば、軍隊を派遣して要所を警戒し、上下の怨府となれるローの身命最も危險なりしを以て、常に若干の護衛兵を附し、終に必要に迫まられて王宮内に避難するに至れり。

是に於てローの献策に反對せるが爲め斥けられたるダゲッソーは再び起て大藏大臣の職に就き、直に正金支拂停止の敕令を廢止し、從前の紙幣を回收せんが爲め巴里市の收入を擔保とせる二分五厘付銀行券二千五百萬法を發行し、之と引換へたる紙幣は公衆の面前にて燒棄することゝなれり、六月十日正金支拂開始の日は大旱の雲霓を望むが如き巴里の市民爭うて銀行に赴き、門前は雜沓の極日々數人

かゝり、此形勢を看取せる政府は、再び嚴酷なる勅令を發布して正金の支拂を停止し且つ何人も五百法以上の硬貨を所持するを禁じ、之を犯す者は超過額を沒收するのみならず罰金を課するの法を定めたり。

形勢斯の如し、曾て佛國の巨大なる財力を恃んで浮華豪奢に世界の耳目を驚かしめたる巴里の經濟界は、忽ち光明を失うて滿都沈鬱の氣を以て滿され、失望の極一轉して殺氣天を蔽ふの光景を呈し來れり、正金の使用は嚴酷なる法律を以て禁止せられたるもローの發意に成れる紙幣の信用を回復する能はずして人皆之を受理するを欲せず、彼が製造せる一種の泡沫は今將に消え去らんとするの時機に達せるなり、從來ローの勢威を妬みたる佛國の有力者は時到れるを喜び、佛國の零落を招ける惡魔なりとして盛んに之を攻擊し、其計畫を採用せる攝政其他政府の當局者に對しても不平怨恨の聲日に高きを加へたれば、曾てローを以て唯一の股肱と頼みたる攝政其人も、亦自個の地位を危むか故に、勢ひローを疎んぜざるを得ず。

數年來紙幣の流通を奬勵せるの結果、國內に流布せし總額は僅に十三億法の正金に對して實に二十六億法即ち二倍の巨額に達したりされば之を平均するの途唯

光景を呈せるなり、多數の株券を有せるもの皆此繁榮の永續すべきにあらざるを認め、將來の恐慌を豫想して賣却を始むるものあり、或は金銀其他貴重の商品と交換するものあり、コント公の如きは無數の株券に對し、一時に正金の拂渡を迫り、終に三輛の馬車を以て山の如き貨幣を引取りたり、而してローの銀行重役に選抜したる一普魯西人は行金四千萬法を外國に送附して踪跡を晦まし、仲買人等は盛んに正貨を英國に送附し、恐慌來の警報は全國に反響し、佛貨の海外に流出せるもの既に五億法の巨額に達せり。

是に於て當局者は善後の策を講ずるの必要に迫られ、千七百二十年三月勅令を以て正金との交換額を制限し之と同時に其價格の一定不動なる點に於て紙幣の硬貨に優ることを聲言し何人も政府の許可なくして硬貨と交換することを得ざらしめたり、此の姑息なる彌縫策も幾分か其功を奏して紙幣は正貨よりも五分乃至一割の騰貴を示せしかば、人々爭て硬貨を紙幣と交換するに至りたるも、久しく國民を欺くべからず、何れも正貨に信用を措くの念禁ずる能はず、私かに金銀を貯蓄するの風一般に傳播し、將來の成行を懸念して紙幣の處分に苦心せるもの頗る多

倆あり、彼が財産も亦頗る巨額に達し十數箇所の土地を購ひ、邸宅別莊を建築し之が爲め七百萬法を費したるが如き以て其一斑を窺ふべし、彼は巨富を擁すと雖も亦大に博愛心に富み、公共事業に寄附せしもの少なからず、曾てサン、ロック寺院の維持費として五十萬法を投じ、佛國在留英國人の子弟教育費として五十萬法を寄附せしが如きは其顯著なるものにして、其他個人の爲に施與せしもの枚擧に遑あらず、蘇格蘭人は此大人物を産出したるを誇り、貴族も僧侶も軍人も彼と一面識あるを語りて自個の光榮と爲せり、聞く所に據れば、ウエールス親王亦曾て彼に哀求して印度商會の株劵を手に入れたりと傳へらる。

△驚くべき大恐慌の襲來

財界の機運は、既に繁榮の極度に達し、帝國銀行及印度商會の株劵は千七百十九年末より翌年一月に至る間最高の信用を維持して一株何れも一萬法の高値に上り、國庫には正金充滿せるを以て貸出に對しては僅に二分の利子を附せるに過ぎず然れども此時既に大恐慌襲來の兆たる黑雲天の一方に表はれ、山雨欲來風滿樓の

る是なり、從前一エラ（約四尺五寸）の布帛十五法なりしが、俄に五十法に騰貴し、珈琲一封度の價十八法となれり、巴里の一銀器商は三個月にして約七百萬磅の銀皿を製造販賣せりと云ふ、當時巴里の旅舘は投機を試みんとする外國人の占領する所となり、千七百十九年十一月巴里の寄留人は三十萬五千人と注せられ、之を收容すべき場所なきを以て或は倉庫内に就眠するものあるを見るに至りたりと、街頭は金裝燦爛たる天鵞絨の美服を着けたる紳士を以て滿たされ、人皆星と輝くダイヤモンドの指輪を閃かし、華美を競うて榮とせしなり。

△ローの全盛時代

ローは國民崇拜の中心となれり、千七百十九年十二月天主敎徒たるの宣誓を公にしたる爲め更に人民の信用を厚うし、政治的活動に對する唯一の障碍物を打破するを得たりしかば、彼が聲望は頓に加はり、千七百二十年一月一躍して大藏大臣に任ぜられたり、之と同時に巴里大學は、彼を擧げて名譽委員と爲し、國民は雙手を擧げて頌德の辭を捧げたり、他人を富ましむるの手腕ある者は、必ず自から富むの技

めて事の次第を自白せしかば、ローも暫時呆然たりしが婦人の奇抜なる思ひ付きに感じ、株式申込中に其名を加へたりと云ふの類なり。

△嗚呼槿花一朝の夢

印度商會の株券は暴騰の極に達し、一日にして鉅萬の富を致すもの少なからず、曾て一劇場に於て衆目を牽ける盛装の一婦人あり、されど其何人なるやは知る者絶へてなかりしが、觀客中の一少女は其母に囁きて曰く「かれは惜に料理人のメリーなり」と、果してメリーは私かに株式に關係して巨利を占めたるなり、又一紳士の馬丁も之に成功して自から一個の美麗なる馬車を購ひたるが、年來の習慣は容易に脱し難く、動もすれば車背の馬丁臺に乘りて前方を見張るが如き失錯を演じたることあり、麵麭製造人の子一擧して數百萬法の利を博し、食器店に赴きて商品全部を四十萬法にて購入したる者ありき。

此の如き經濟政策が社會の表面に大影響を及ぼし、黄金萬能主義を謳歌せしむるに至るは必然の結果にして、其最も重なる變動は、天下奢侈に流れ物價勞銀暴騰せ

其郷里なるローリストンの園丁に送れる書簡にして、キャベツを植え付くべき場所を指定せるものならんとは、斯くて骨牌を弄ばんとて數番の勝負を試み、然る後來訪の順序を以て面談を開始せりと云ふ、彼に面會を求めんとする貴婦人に關しては珍談少なからず、ブーシエー夫人曾て彼が一瞥を得て株劵を握らんと欲し彼が來訪の約あるシミアニ夫人の居宅を借り受け、彼に對して招待狀を發したり、然るにシミアニ夫人は、ローの其需に應ぜざるべきを知りしかば、奇計を以てブーシエー夫人の目的を達せしめんとし、彼の來訪せる時、ブーシエー夫人の馬車を門前に待たせ時機を見て火事よ〳〵と叫ばしめしかば、彼れ驚て門外に走り出でたりブーシエー夫人、之を見て馳せ寄らんとするを、彼は直に其心を讀みて一散に逃げ出したりと云ふ、又同様の目的を有せる一貴婦人は常に御者に命ずるに、外出中ローの馬車を發見せば馬を躍らして之を追ひ越すべきを以てせり、一日幸にも彼が馬車を驅り來るを認めしかば之に近づくや否や、婦人は御者に向ひて「我を馬車より突き落せと叫び路上に轉びてさも痛ましき態を示せるにぞ、ロー之を見て驚き馳せ寄りて介抱を加へ最寄の旅館に助け入れて、厚き手當を加へたるに、婦人は始

は僅に五人のみなりしと云ふ。

△權威王侯を凌ぐ

ローは今や國民の爲め大富源を開ける恩人として國中の流行兒となり攝政の威嚴も用ふるに處なく、王族、貴族、牧師、法官等爭てローの後塵を拜せるなり、而して彼の應接所は株券を得んが爲め面會を求むる貴婦人群集して立錐の餘地なく、彼は此等株券の需要者を引見するの煩に堪へず、故らに傲然たる態度を示し、時として はやんごとなき王族をして面會を遂ぐる迄に空しく五六時間を費さしめたることあり、されど彼が此の如き傲慢の態度を以て客に接したるは平生權を弄する佛國の貴族に對する反抗的精神に出でたるものにして、自國人若くは尋常用務を帶び來れる者を引見する時は、溫顏以て之を迎ひ辭令極めて懇切なりき、アルジール公曾て彼を訪問せし際、其控所には多數の佛國紳士充滿せしが、公は至急の要件ありし爲め特に其居室に招がれたり、折しも彼は卓に向て頻りに筆を走らせ居たれば、例に依て特使を出すべき緊急の用件ならんと想像したるに、豈に圖らんや、是れ

且つ此地一帶の地主及家主等は自個の土地家屋をば投機師の使用に供し巨額の資產を作りたるもの珍らしからず、即ち平時一個年の家賃八百法のものは忽ち一個月六千法乃至一萬法に騰り、大道の靴工は其露店に椅子と卓子とを備へ付け一時の休憩所に充てたるのみにて一日二百法を得たり、殊に滑稽なるは駝背の一畸人街頭に出でゝ其背部の隆肉を以て書架の用を爲さしめたる爲め終に十五萬法の資產を作りたりと云へり、又オルレアン公の侍醫たりしシラックは一日其患者なる一貴婦人を診察せんとして出發の途中、株券の暴落せんとするを耳にして懸念に絕へず、婦人の脈搏を檢しつゝ悲しげに「アヽ下る、引切りなしに下る」と叫びしかば婦人は大に驚き、悲鳴を擧げたるに、彼は俄に心付き是れ脈搏にあらで株券の下落を獨語せるのみと辨明したるが如き亦當時に於ける狂熱の一斑を示すものなり、又實に笑ふべき一例はテナソン及モンテと呼ぶ二人の學者、學德衆に超えたれば相會して共に國民の狂愚を歎じ、私かに自個の流俗に化せざるを誇れり、されど數日を經て、モンテは取引所所在地の群集中に於て偶然モンテに邂逅したるが、此二人亦共に投機を試みんが爲めに來りしなり、此群集中株式に關係せざるもの

千七百十九年末より翌年に亘りて、佛國は市場狂亂の時代なりき、過度の膨脹と急激の變化とに眩惑したる人民は、極度の熱心を以てローの手腕を崇拜し、一擧巨萬の富を作るは全力を注いで印度商會の株券を所有するに在りとし、一人の賣り手なき有樣なれば、株券は唯暴騰の一方あるのみ、されば一般經濟界は殆んど狂亂の體にて、上は貴族より下職工に至るまで、貴賤僧俗に論なく、軍人も政治家も、將た貴婦人も、餘財を投じて株式に一指を染めざるものなきに至りたれば、先見の明ある株主は此機に乘じて悉く之を賣り出し、莫大の利益を占めて土地を購買し、大厦高樓を建築したるより、當時に於ける富豪の生活狀態は一般人民をして驚嘆羨望の聲を發せしめたるなり、而して曩に銀行劵を以て支拂を受けたる地主等は之を新會社の株券と交換するにあらずんば殆んと使用の途なきが故に株券の暴騰を促すべきは當然にして、千七百十九年十一月には一株一萬法の高値を示し、原價に二十倍するの形勢を呈するに至れり、市場の光景上述の如くなるが故に、其影響は延いて萬般の事物に及ぼし、社會は一種の變調を帶び來り、殊に株式仲買人の群集する市街に於ては雜沓の極絶えず、何等かの事變を生じ混亂喧囂を極むるを常とす

ける富源の開拓を目的としたるなり、其資本は一億法二十萬株より成る、千七百十八年十一月四日烟草販賣の業務に着手せん爲め、總會を開き三月後に至てセ子ガル會社と合併し、千七百十九年五月東印度、支那及南洋に於ける取引の獨占權を取得し、其利益を以て東印度商會に對する債務を辨濟せんとしたるなり、同年更に五萬株を加へ、同時に印度商會と改稱せり、業務の擴張は之に止まらず、千七百十九年七月造幣局を開き、八月に至り全國租稅の徵收事務を依托せられ、同年末に至りては殆んど國民全體の商業的計畫を擔當するの奇觀を呈せり、斯くてローは帝國銀行及印度商會と稱せる巨大なる商事機關の總理兼支配人として其辣腕を縱橫に揮ひ、千七百二十年二月此二大機關は合併することゝなりたれば兩者の創立者たるローの勢力隆々として王者をも凌がんばかりなりき、同年五月帝國銀行は更に十六億九千六百四十萬法の銀行券を增發せしを以て、發行高總計二十六億九千六百四十萬法の巨額に達せり。

△國民狂亂の狀態

融界に及びたり、されば銀行業務は未曾有の繁劇を來たし、株主の配當亦頗る高率なりしかば、時の攝政オルレアン公は其尋常ならざる膨脹の成行を慮り、國家の財政上之を王室の所有とするの得策なるを認めて、ローの献策を實行せんと決心したり。

ロー及其他の株主は公の提議に同意するを欲せざりしも、王室の權力を以て之に臨みたれば反抗せんに由なく、千七百十八年十二月、ロー銀行は終に王室の管理に歸し、帝國銀行と改稱せられ、之と同時にローは帝國銀行の總裁に任ぜられたり。

△未曾有の大會社

若し帝國銀行をして銀行本來の事業のみを經營するに止まらしめば佛國民に一大利益を與へたるなるべし、然るに不幸にして帝國銀行は設立後三年にして種々の計畫に着手し、銀行と云はんより寧ろ一個の雄大なる商事會社たるの觀ありき千七百十七年ローを首領とせるミッシッピー會社なるもの現はれたり、當時西部亞米利加に於けるミッシッピー沿岸の地は佛國の所領にして、同會社は此地に於

立し、耕地其他王室の財產を基礎として紙幣を發行し、內閣總理より任命せられたる委員をして其事務を管理せしめんとするに在り、此提議は直に財政調査會の問題となりたるが、審議の上、目下の形勢は之を實行するに適せずといふに決せり、是に於て彼は私立大銀行を起さんと欲し、自から大部分の資金を投じ、若干の株主を募集し、資本金三十萬磅一萬二千株より成る株式會社ロー銀行を設立せり而して同銀行の特色は銀行劵を發行し、之を引換に當時流通せる金貨と同量同質なる正金を交付せんとするに在り、而して其支拂の迅速なると、租稅其他各種の公納金も其金額相當の銀行劵を以て受理せらるゝ事となりたるとに依り、此銀行劵は忽ち非常の信用を博したり、當時政府發行の貨幣は價格の動搖甚しかりしも、ロー銀行の銀行劵は常に其劵面金額以上の價格を以て通用せらるゝが故に、人爭て貨幣を捨て銀行劵を手にせんと欲するに至りたるより、其結果經濟界は俄に活氣を帶び商工業勃興の機運を促したるのみならず、租稅其他王室の收入は此銀行劵を以て徵收するが故に、硬貨鑄造の費用を要せず、巴里の經濟界に關係を有する外國人も亦新銀行の活動に注目して多大の信用を置くに至りしかば、其影響は終に外國金

ものなり、佛國民の現に使用するルイ貨幣も、詮じ來れば黄金より成れる銀行手形に過ぎず、若し國民自から價値を付したる以上は蠣殼にても可なり、要は唯現今の貨幣と同樣に價値の標章若しくは代表物たらしむるに在るのみ」と。

△帝國銀行の總裁に任ぜらる

彼の幣制意見は一面に於て多少の眞理あらん、金銀は本來富其ものにあらず、されど其實質に於て、紙片よりは多くの價値あり、故に全然國民の公認に依りてのみ其價値を生ずるにあらず、元來金銀は美術上有用なる貴金屬にして其重量及容量に於て富の標章たるに適するものなり、紙片に至ては製造費廉價にして其質金銀に比すれば、貴重ならず、故に之を貨幣として富の價値を代表せしむるには金銀よりも一層確實なる國民の公認を要するのみ。

彼は單に紙幣の價値をのみ論ぜるにあらず、更に其經濟界に及ぼすべき影響を觀察して曰く「金銀貨幣のみを通用する國に於て、紙幣を發行する時は更に其富力を増加するものなり」と、彼が攝政に献言せる救濟方法は、王室の名を以て大銀行を設

れり、而して此利子を支拂ふの方法は當然歲計の剩餘を以て之に充つるの外なしと雖も、其額僅に九百萬法に過ぎざりしかば、到底國民の滿足を買ふに足らず、是に於て同攝政は慘憺たる苦心を以て償還を企てたる結果として國債を二十億法利子を八千萬法までに減却するを得たり、されど是れ實に一時を糊塗して焦眉の急を救ふに過ぎず、此以上は一法の出途もなく、國家の財政は殆んど破綻に歸せんとす、此危機に際し、ロ－は其手腕を揮ふべく猛然として起ち、大膽にも自から危難の衝に當て國運を挽回せんと聲言し、殊に紙幣發行の急務なるを說き、文章に演說に全力を盡して其財政計畫を採用せられんことを求めたり、其意見の要に曰く「金銀銅其他國民の喜んで使用する貨幣は富其ものにあらずして、唯富の標章若しくは代表物たるに過ぎず、而して貨幣の價値は全く國家の信用を得て生ずるものなり、されば貨幣は紙を以て造らるゝも、將た皮を以て造らるゝも、國家が其信用を保證する以上金銀等の硬貨と使用上毫も差別なし、元來硬貨は國民が習慣上價値あるものと認むるが故に價値あるのみ、本來硬貨其ものに特別の價値あるにあらず、故に國民若し紙幣を以て價値ありと認むれば、紙幣は直に金銀と同樣の價値を生ずる

けたるもの丶如く、時の大藏大臣は、曾て路易十四世に說くに國家財政の改革に關するローの意見を採用すべきを以てせり、然るに王はローの新教徒たるを以て斷然之に耳を傾けざりしと傳ふ、蓋しローの動物的元氣及雄大なる材幹と見識とは、動もすれば世人の忌憚を招ぎ易く、其存在は寧ろ國家に對して危險なりとの憂を懷かしむるに至りたるもの其原因ならん、後彼はゼノア及チュリンに赴きたるも亦長く留まる能はざりき、曾てサルヂニアに在るの日、サヴォイ公に說くに紙幣發行の事を以てせしに、公は答て曰く「否、余は此上零落するの餘地なき貧者なり、思ふに佛國民こそ卿をして功名を成さしむべき人民なれ」と。

△ロー猛然として起つ

ローは終にサヴォイ公の忠言に從はざるを得ざりき、彼は千七百十四年再び巴里に赴き、依然上流社會に其勢力を振へり、千七百十五年路易十四世崩じて儲君尙年少なりしかば、オルレアン公は之が攝政の職に就きたるが、當時佛國の財政紊亂の極に達し、國債は三十一億千百萬法を超過し、其利子すら八千六百萬法を算するに至

△財界の惡魔漸く活動せんとす

彼は歐洲に留まること數年、其間各國に於ける商工業の狀況及銀行業の消息を探りて大に得る所あり、私かに本國の形勢を觀望せしが時しも殖民地經營問題起り英國の政治及事業界は物議騷然たりしかば、彼は時機の到來を喜び、私にエヂンバラーに歸り、此動搖に乘じて大活動を試みんとする野心勃々たりしも、ウイルソン事件の餘燄未だ消えざるを見て、再び大陸に走り、和蘭、白耳義、伊太利、及佛蘭西の各國を歷訪し、到る處快活にして才氣ある紳士、機敏なる事業家として、一般社會の注目する所となれり、彼は多年一種の投機的事業家として活動せしも、其本來の目的は、終始國家の財政問題に注意して、一國の經濟の大勢を指導せんと欲するに在り、實際に於て彼は此重任を負ふに適當なる材幹を有したり、而して彼は歐洲の大都に於ける紳士識者と相來往するの際、其經濟問題に關する卓拔なる意見往々談笑の間に表はれたるを以て經濟學者としての名聲は一時上下に喧傳せられたり、殊に佛蘭西に於てはオルレアン公と懇親を結びたる緣故を以て、大に社會の尊敬を

すべき風骨を具したり、學校時代に於てローの最も得意なりしは數學なりき、又其家業たる銀行會社等の業務に關しては、特別の嗜好を有し、少年ながら普通の大人も及ばざる才能を有したり、されど彼は長ずるに及び區々錙銖を算じて勤勉するを忌み、其動物的元氣と非凡の才能を恃んで社會上に權威を振はんと欲し、倫敦に出てゝ浮華豪奢を衒ふ社交界に身を投じ、投機事業に成功して一時ローの勢力財界を風靡するの概ありき、千六百九十四年中彼は時の流行兒たりしウィルソンなるものと端なくも爭端を開きたるが、決鬪の結果對手を殺害したり、是に於てローは捕はれて審問を受け、謀殺罪として死刑の宣告を受けたるも、彼は之に服せず、更に控訴の上一旦保釋せられたり、されど被害者の兄弟等は大に之を不當とし、再び告訴せしかば、彼は復た捕へられて獄に繋がれ、審理の形勢頗る不穩なるものありしが、彼は逸早く之を覺りて大膽にも破獄を企て、私に大陸に逃れ去りたり、千六百九十五年一月七日倫敦ガゼット紙上にはロー逮捕の懸賞廣告現はれ、爾來犯人の所在に關し嚴重なる搜索を繼續せしも、彼は巧みに踪跡を晦まし、警吏をして五里霧中に迷はしめたり。

人は貨殖の法を說くと共に併せて反覆富を散ずるの道を言ふのみ。

第十五章　投機事業の恐るべき實例

△佛國財界を紊亂せしめたる奇傑

吾人は本書の劈頭に於て先づ投機事業の危險なるを說き青年實務家の必ず之に指を染むるなからん事を戒めたり、未だ曾て投機事業を以て其終を全うしたるものなく、其末路は何れも慘狀を極めざるはなし、戰後の事業界に於て投機熱の昂進するは何れの場合に於ても東西符を合するが如し、一個人として投機事業の恐るべきは言ふ迄もなき事なるが、其計畫の大規摸なるに從ひ、其影響の及ぶ所一層廣く、損害亦從て多大にして、終に一國の財政を紊亂せしむるに足るべし、吾人は投機事業の最も恐るべき一例として、曾て佛國の財界を震蕩せしめたる奇傑ジョン、ローの實歷を語らんとす、知らずジョンローとは果して何ものなるか。

彼は千六百七十一年エヂンバラーに生る、富有なる一銀行家の子なり、千六百八十四年父歿して、ローは其後繼者となれり、彼れ天資明敏少にして、將來事業界に雄飛

慾に類し、千萬金、世の需要に應じて散じ、却て自ら快とするカーネギー翁の如き者に對する時は、人物の賢不肖、天地霄壤の差も啻ならざるを見ん、カーネギー翁の如きは能く富の價を知つて之を利用するの道を解すと謂ふべし。

千八百七十五年に歿せる英國のアットウッドはカーネギー翁と其志を同じうしたる富豪なり、其全財産は少なくも一千萬圓に上り、彼の曾て病んで病院に在るや一萬圓の手形を反古の如く取扱うて平然たりしといふを見ても、一代の巨富たりしを想像するに難からざるべし、彼はバーミングハムに於けるユニオン黨の首領たりしトーマス、アットウッドとは兄弟の間柄なり、彼は生前其財産を適當なる方法に依りて、最も有益に使用せんと欲し、純然たる慈善事業に寄附したるものにても三百五十萬圓の多きに上り、更に其一部を割いて親戚に贈り、自ら奉ずる事は至て薄かりき、彼は右手の爲す所、左手をして知らしむる勿れといへる教訓を實行せる高德の君子人にて、曾て世上薄倖者の生涯に多大の同情を表し、倫敦タイムス社に托し無名を以て一萬圓を喜捨したる事ありき、富は社會の共有物なり、富を積むの勞は實に大なりと雖も、富に處するの用意を誤れば、千萬金も亦土塊と撰ばず、故に吾

以上の二三子、致富家としては其目的を達し得たるに相違なし、然れども彼等は其富を如何に利用し活用したるか、嚴格なる人間生活上の意義より見る時は、果して幾何の價ありや、縱し此の如くにして得たるの富を能く利用し活用したとするも致富の道としては危險實に之に過ぐるものなし、此の如き方法に於て成功せる者の少なきは、此の如き方法に於て失敗したる者の多きを反證するなり、吾人は此種人物の致富法を見る毎に幾度かカーネギー翁の「投機を禁ぜよ」との教訓に返らざるを得ず、投機すら既に幾多の弊害あり、況んや恐るべき罪惡を伴ふ賭博に於てをや。

△富の價を知て之を利用するの人

以上の諸富豪は何れも富豪にして乞食の態を學び、若しくは人生の徒勞を歎じたるもの、然らずんば一攫千金の僥倖兒にして、殆ど富其もの丶價を知らざりしもの、致富道より見れば、何れも不健全なる成功者といふを免れず、然れども亦一方に於て、健全なる方法を以て蓄財に成功すると同時に、富其ものに對して淡如たる事無

して弄花に精通するに至りたるか、其平生の用意を見るに、節食主義を實行し、鷄肉燒麵麭及び冷水の外、何ものをも口にせざるより、賭博塲に在りて敵手と相對するや頭腦明快にして判斷頗る精確、敵手の記憶せざるものを能く記憶するの精力を備へたるが故に、每回必ず敵手を破る事を得たるなりと、彼は精力を養ふの法其宜しきを得たるも、惜しむらくは之を活用するの道を知らざりしなり。

此他弄花を以て致富に成功せるものにクロッフォードあり、彼は初め微々たる魚商なりしが、後自ら、賭博塲を開設し、僅々十五六年間に蓄積せる財產實に五百餘萬圓に上りたり、有名なる米國の弄花者モーリセーは曾て一小酒店の主人なりしが致富の希望勃々禁ずべからざるものあり、紐育に出でゝ選擧運動に加はり、若干金を得たるを資本として酒樓を設け、其室內の裝飾及待遇に於て大に意を用ひたるより、一般紳士社會の好評を博し、從て其收むる所の利益亦少小ならざりしが、彼は更にサラトガといへる地に弄花を目的とする倶樂部を設けたるに、朝野の紳士玆に來り遊ぶもの甚だ多く、之が爲にモーリセーは屢々奇利を博し、數年間にして實に三百餘萬圓の巨富とはなれり。

を買ひ、昇進して書記となり、幾何もなく砂糖製造所に轉じ、更に一躍して地方收稅吏たるを得たり。

彼は其在職中各會社の內部に存する秘密を看破したるより之を利用して百方貨殖の道を講じ、少なからぬ資本を蓄積するに及んで自ら砂糖製造業を開業したるが、彼は少年以來の貧生涯に苦しめらるゝ事甚しきより、金錢を見る事重きに過ぎ、勤儉は一變して吝嗇となり、營々として蓄財にかむるの外、何の思ふ所なく何の樂しむ所なく、何の望む所なく、百數十萬圓を蓄積したるまゝ八十六歲を以て歿したり、死に臨み、彼れ釋然として悟る所あり、歎じて曰く「嗚呼われ富を積まんが爲に富を積みたり、今日始めて富を積んで之を用ふるの目的別に存するを知れり、吾が一生の徒勞に屬せるを悲しむ」と、漫然として致富に勞する者蓋し多くは此悔あるを免れず。

△弄花に成功せる富豪

弄花の技に精通して一攫二百萬圓を占め得たるスコットなるものなり、彼は如何に

殆ど稀なり、縦し萬一を僥倖して彼岸に達するものあるも、人生の本義より見れば、決して尊敬すべき成功者にあらざるを記憶せざるべからず、是れカーチギーの口を極めて青年の投機を戒むる所以にして、吾人平生頗る吾が意を得たりと爲す。

△人生の徒勞を歎ぜる富豪

トーマス、クークは千七百二十六年を以て英國クリューワーに生る、其父は琴を大道に彈じ若しくは酒店に歌舞伎を演じて僅に生計を立てたるが、クーク尚ほ幼少の時に歿したるより、彼は祖母の家に寓して其養育を受けたるが、稍長ずるに及んで工塲に入り、少額の賃銀を得て其口を糊したり、當時彼と同工塲に在る職工等は其給料の一部を醵出して會食倶樂部を設けたるも、彼は大に其不經濟なるを知りて之に加入せず、獨り河畔に赴き二三錢の麵麭を喫し、帽子に河水を掬して渴を醫し此の如くにして若干金を貯畜し得たるより、餘暇一小學敎師の家に通學し、孜々として讀書、習字、算術の類を修めたり、後、成年に達するに及び、ノーウィックの倉庫會社に入りて擔夫となりたるが、其勤勉にして忠實なる行爲は、忽ちにして傭主の信用

△投機富豪の懺悔

富は往々意外なる方法に依りて蓄積せらるゝ事あり、英國にグレーといへる一紳商あり、千八百三十二年中ポンテフラクトより議員として選出せられたるか、曾て故ありて獄に投ぜられ、出獄後は大に競馬に熱注し、屢々斯道の勇者を破り、名譽ある賞牌を送られたる事一再に止まらざりしが、此等の動機より彼は競馬大賭博場を設けて其管理者となり、僅々數年にして數十萬圓の富を積み、後ワットの爲に大賭博を起して成功し、是に由て得たる所亦少なからず、斯くては彼は更に石炭に關する投機事業に於て巨利を占め、結局英國有數の富豪として一代の榮華を極めたるが、晩年に至り曾て懺悔して曰く「貨殖は等しく貨殖なり、然れども眞面目なる方法に依り、世を利し自ら利するの方法に依りて富を蓄へ得たるにあらんずんば到底眞に幸福なる生涯を送る事能はざるべし、余は不正にして危險なる手段に依り、若干の富を蓄積したるも、平素所謂人生の滿足なるものを味ふ事能はざりし」と、然り投機は猶ほ丸木橋を踏みて深淵を渡るが如し、轉落して悲慘の最期を遂げざるもの

英國にダンザースなる富豪あり、三代相續の吝嗇家なるが、就中ダニエル、ダンサーは吝嗇の最も甚しきもの、ハローの寒村に住し、約八十エーカーの牧場の外一箇年二千萬圓以上の收入ある良田を有したるが、一日二萬圓の貯金を銀行に托せんと欲し、倫敦に赴きたる時、一紳士あり彼の服裝の見苦るしきより之を目して乞丐と爲し、一錢を投與したるに、彼は恭しく之を受けて其囊中に收めたりと云ふ、彼の死後其財產の總額を搜索するに數週間を費したるが、二萬五千圓は牛小舍の堆糞中に發見せられ、五千圓は古りたる上衣の中に縫ひ込みたるまゝ馬小舍に釘付とせられ、二千圓は烟突中に隱匿し、五千圓は破れたる急須の中に秘められたるを發見したりと、富を積み地を有する事此の如くにして宛然乞食の態を學び、以て快と爲すは竹頭木屑を懷にして自ら富豪の感を爲すと毫も異なる所なし、個人としても社會の一員としても寧ろ富に對する罪人たるを失はざるものと謂ふべし、人間の品位を保ち、人格を高め、以て富の眞價を發揮せんとするか如きは此徒到底思ひも寄らず。

を遂げたるに、豈に圖らんや彼が日夕起臥せる床下より六十萬圓の大財囊を發見せんとは、一同の驚愕一方ならず、協議の結果葬儀費用として一千圓を控除し、殘金は之を二分して一半を英國自由病院に他の一半を海員救濟會に寄附したりと云ふ。

此老爺は如何なる方法を以て此富を蓄へたるか、其消息を詳にせざれども、富其ものゝ性質を誤り、富を利用する所以を知らず、身に襤褸を纏ひ、粗食にすら飽かざるのみか、軒下に他の隣を乞うて僅に其生を送るに至ては其愚や及べからず、此種の富は假令千萬金を積むも土塊と撰ぶ所なし、試みに自ら奉ずるの薄き老爺の如くにして生前悉く其財産を公共の事業に投ぜしめば、彼が一身の光榮は暫らく措いて、社會に及ぼすの感化や實に大なりしなるべし、然るに吝嗇の甚しきが爲にかゝる巨額の富を積みたる苦心も全然無意義に歸し、純然たる乞食漢を以て一生を送るに至れるなり、富を活用する能はずんば寧ろ富を蓄積せざるに若かず。

△三代相續の吝嗇家

第十四章　致富の目的を誤れる富豪

△驚くべき富豪乞食

如何なる場合に於ても致富其物は之を人生最後の目的とすべきものにあらず、致富は人間處世上の一手段にして、自ら他に之を利用すべき目的なかるべからず、然るに往々此目的を忘れ、蓄財せんが爲に蓄財する者あり、斯かる人の生活は果して何事を意味するか、請ふ之を二三富豪の實歷に徵せん。

曾て倫敦に有名なる一老爺あり、人其名を知らず、其人物經歷を詳にせず、頸部より胸腹の間に袋を掛け、日夜市中を彷徨して或は軒下に佇み、或は廢物を拾うて辛くも生計を立つるの狀ありしも、何時しか老爺は決して尋常の貧窮漢にあらず、其實は巨萬の富を蓄ふるものなりとの風說を傳へられ、人彼を呼んで、乞食富豪といへり、此老爺の住宅は倫敦の片隅に在り、見苦しき一棟の茅屋なり、被服は勿論家具の類極めて、粗末にて、實際隣人の救恤を得て生活したるより、人皆乞食爺を以て之を遇したるが、一朝病を得て不歸の客となりたるより、知人等其家に會し、家產の調査

△小賣商より成功せる二大出版業者

ロートレッヂ亦出版業を以て盛名を博せるの人なり、彼れ初めライセスターのライダースカートに一小商店を開業し、廉價なる古本を販賣せるを第一着手として遂に一代の大書籍商となり、マンチェスターのヘイウッド一週間僅に六七十錢の倉庫番人より身を起し、十四歳の時、手織機の職工に傭はれて一週間十五圓の報酬を得、之より蓄積せる資本を以て一商店を開き、盛んに書籍販賣を營み、時の富豪中に算せられたるが、彼れ其人と爲り勤勉にして精力過絶且つ其人格高潔にして大に同業者の尊敬を博したり、ヘンリー、カーウェン其著『出版業者列傳』中に彼を評して曰く「其勤勉と精力とより得たる成功を見よ、マンチェスター人中の典型なり」と。

以上出版業者の實歷に徵するに、總べて逆境の中に希望を描き、其頭上に落下し來る困難苦痛を甘受して最後の勝利を博せるもの、出版業は難業中の難業たるに拘はらず、何れも名譽ある自家の運命を開拓し得たり、眞の成功は何れの場合に於ても匍匐して險阪を攀づるものゝ勞力に對する報酬なりと知らずや。

ケレーは決して尋常一樣の店員にあらず、其人格甚だ高く、尊敬すべき君子なりし事既に其日常の行爲に於て發揮せられたり、聞く彼は當初其俸給の半額を故山の父母に送り、漸次俸給の增加するに及んでは、此割合を以て增額したりと、彼は二十箇年二ヶ月の久しき其職を勤續したるが、此間彼の俸給は一箇年八百圓以上に達したる事なかりしも、其父の借地代は一切之を負擔したるが如き、一店員として其用意の眞面目なる、晩年の成功の偶然ならざるを知るべし。

同書店を辭してより十年の後、彼は更にホッグと合同して書籍販賣業を營み其傍ら某會社の社員として勤勞從前の如くなりしが、千八百九年に至り、獨力經營の一商店を開業し、盛んに書籍販賣と出版業に從事し、玆に驚くべき巨利を占めて一代の富豪中に算せられ、遂に衆望を擔うて倫敦市長に推擧せられたり、勤勉の德其効果の偉大なる實に此の如きものあり、吾人はケレー其人の實歷を聞く每に、未だ曾てカーネギーの所謂「最下級より起て最上級に登るべし」といへる敎訓の、實務家に取りて愈々適切なるを思はずんばあらざるなり。

アレキサンダー、ホッグの書店に身を投じ、一箇年百圓の報酬を受け、始めて一生の方針を定むるの機運に會せり、當時彼の職務は各小賣店に發送すべき書籍の荷造を爲すに在りしが、彼の熱心と忠實とは忽ち其業務の上に現はれ來り、主人の信用は漸く深く、着々其地位を高むるに至りたるが、彼は朝夕殆と寸暇なく、忙殺せられたるに拘はらず、零碎の時間を利用して佛國語を研究したるが、此佛國語を直に業務上に應用し、早くも尋常の材にあらざるを認識せられ、自ら任ずる事も從て大なりしが、同店員等彼の勤勉にして傭主の信用日に加はり、昇進も亦速かなるを嫉視し、讒誣中傷を試むるものありたれど、之に反して傭主の彼に信頼する事漸く深く、忽ち重要の地位に抽んでられたるのみならず、彼の高潔にして健全なる人格は其周圍の店員に感化を及ぼす事著るしく、怠惰なる店員の讒誣に對しては常に之を打消すべき有力なる反證となりたりといふ、彼の勉勵の實に驚くべきものあるを知るに足るべし。

△人格の價の尊きを見よ

かも最後の大成功者たるを得たるの點に於て、吾人をして多大の教訓を學ばしむ

彼は十八世紀の七十九年二月ケント州のチイヴニングに生る、其父は貧賤なる牧羊者なりしが、祖先傳來の家產二千圓を投じ、一旅館を開業して失敗し、其後は磽确の地三十エーカーを借受け農業を營みたるも收獲極めて少なく、朝夕米鹽の資往々にして欠乏し、之が爲に一家屢々饑餓に瀕するの狀なりしかば、彼は十二歲の時小學を退學して專ら父の業を助け終日耒耜を把て耕耘に從事したるも、彼の身躰は生來强壯ならざりしかば、到底斯かる勞働に堪ふべくもあらず、日中過度の勞働に疲勞するが爲め、徹宵睡眠する能はざる事一再に止まらざりしが、彼には堅忍不拔の精神あり、家業の爲に勞する事極めて忠實にて、晚年に至る迄當時の艱難辛苦は終生忘るゝ事能はずと語れり、

此の如き苦痛の中にも、彼は一日も倫敦の生活を夢想するを禁ずる能はず、早朝臥床を蹴て起ち、室内を彷徨しながら「余は今倫敦に赴くの途上に在り」など獨語せる事あり、久しく農業に從事するを喜ばず、既にして斷然故山を去り、倫敦のラムベス麥酒會社に入りて書記となりたるも、好結果を收むる事能はず、約三年の後、書籍商

收めたるより、直に第二第三の出版を續行し、忽ちにして嶄然其頭角を出版界に露はすを得たり。

チェムバー兄弟は此の如く、步一步相共に進んで、英國出版業社會稀に見るべき成功の域に達したるは、一に勤勉にして大膽に、細心にして雄圖を抱きたるの結果なるが、兄弟は單に出版業者として成功せるのみならず、又等しく文章家として知られ、繁劇なる業務に鞅掌するの外、著作に從事し、其手に成りたるもの數十卷何れも世に行はるといふに至ては驚歎の外なしといふべし、試みに思へ、兄弟何れも十二三歲にして四方に流寓し、十六七歲を以て獨立の書肆となり、學校教育を受くるの機會なきも讀書研究上の造詣深く、著述家としての盛名を博するに至れるを、獨所以立奮鬪の意氣ある者は、假令不如意の貧境に投ぜらるゝも、能く天の其人に與ふるのものを發揮して、充分に其手腕を振ばん事決して難きにあらず。

△出版業者にして倫敦市長

十九世紀の中葉、出版業者にして倫敦市長となれるケレーの生涯は浮沈常なく、而

り、彼の精勤なる毎朝五時必ず起床して讀書し、深く佛語の獨修に力を致せり、彼れ決して尋常一樣の出版業者にあらざるを知るべし。

弟ロバート亦阿兄の逆境中に奮闘するを見て大に感ずる所あり、千八百十六年始めて獨立の生活を營むに至る迄、或は會社銀行の書記、若しくは學校の敎師たらんことを期し、大に苦學する所ありたるも、周圍の事情は其目的を達するに便ならざりしより、其方針を一變して書籍商たらんと決心したるもの、是れ彼が後年書籍出版業者として雄飛すべき第一日の準備なり、兄ウィリアムも亦弟の壯擧を聞いて書店を辭せり、事業の經過は果して兄弟の目的を達するに便なりしか。

ウィリアムは當初其寂寞なる書架を飾るの材料に窮したりしも、幸に倫敦の出版業者より、新刊書籍を廉價に買入るゝの便宜ありたるより、其同業者と競爭するの上に於ては多大の利益あり從て事業の擴張亦容易なりき、彼は夙に遠大の志あり、單に書籍販賣のみを以て滿足する事能はず、出版業者たらんと欲して自ら製本及び活版の法を學び、軈て機の熟するを見るや、其第一着手として刊行せるものは、廉價なるが故に歡迎せられたるバーンス詩集是れなり、此第一擧に於て意外の實利を

チエムバーの兄をウィリアム、弟をロバートといふ、ロバートは年十六早くも書籍販賣を思立ち、數ヶ月間苦心を重ねて二十五圓の資本を蓄積したるより、レイス街に一書店を開業し、ウィリアムも亦同地附近に來りて書籍商兼活版業者となり、二人者相提携して奮闘的生活の途に上れり。

ウィリアムは千八百年ピーブルスといへる蘇格蘭の一寒村に生る、ロバートは二年の弟なり、其父は祖先傳來の家業たる麻布及羅紗販賣を營みしが、屢次失敗を重ねて家道漸く衰へ、終に鄕里ピーブルスを退去するの已むを得ざるに至りしより、ウィリアムも亦志を立てゝ家を辭し、飄然エヂンバラーに向ひしは年甫めて十三にて、是より全く敎育を受くるの機會を失ひたり、殊に弟ロバートの如きは、一家の事情益々不如意なるが爲に、健氣にも十一歲の少年を以て、如何にして世に處すべきかを講ぜざるを得ざりしなり。

ウィリアムはエヂンバラーに入るや、先づ一書肆の店員となり、一週間二圓弱の報酬を得て辛くも口を糊するの苦境に立ちたるが、此間に於て深く自ら決する所あり、日夕フランクリンの自叙傳を讀み、痛く精神上の感化を受けたるは此時代の事な

々百五十圓の收入ありたるより、居をチスウェル街にトし、主として店頭に古書を鬻ぎ、夙夜に懈る事なく漸次其業務を擴張し、更に新刊書をも販賣し、別に書籍の刊行をも營み、書籍業者として富百萬を積むに至れり、彼れ曾て營業の秘訣を語て曰く「小利益は軈て大利益となるべし」と、彼が實務家として成功するに至れる所以を說て曰く「余は勤勉と節儉とより收め得べき小利益を積むの外、何等致富の道なるものあるを知らず」と、此信念あり、用意あり、實行あり、成功を見るに至れるは當然の結果のみ。

△フランクリンの感化を受けたる出版業者

エヂンバラーに有名なる出版業者チエムバー兄弟の實歷亦懦夫をして起たしむるに足る、同兄弟少にして家道、大に振はざりしが爲に、具さに辛酸を嘗めたるが、偶々フランクリンの自敍傳を一讀して感慨已まず、男子須らく出版業を以て活世界に立つべしと爲し、フランクリンの出版業者たりし文士たりし最も光榮ある生涯を學ばんとするに決心したり、此決心に伴へる苦心は如何なりしか。

ロバート、ドッヅレーは其初め、一紳商の從僕として極めて貧寒の生活を送りしが、一朝出版事業の有利にして、併せて社會の敎化に寄與する所實に大なるを見て、奮然決する所あり、無資本の境遇より計畫の端緒を開き、自ら其運命を開拓して、英國有數の大出版業者とは爲れり。

更に無資本實務家の敎訓と爲すべき一例は、全然無敎育なる一工塲の徒弟より身を起して端なくも書籍販賣業に關係し、粒々の苦心其効空しからずして是亦英國屈指の書籍商となりたるラッキントンなり、彼は少にして身を寄するに家なく、終日街頭を彷徨して菓子行商を營み、僅に糊口の道を求めたるものなり、嗚呼此種貧寒の一少年は如何にして成功の曙光を認むるに至りたるか、試みに慘憺たる彼が半生の流浪生活を見よ。

彼は菓子行商より得たる利益を以て暦賣を營み、一時は意外の收入あり、一少年としては相應しからぬ富裕の生活を送りたる事あるも、要するに浮浪生活たるを失はず、後年大に爲すあらんとするラッキントンは其心頗る安からず、十四歳の時、此浮浪生活を脫して一靴工塲の徒弟となりたるが、居る幾何もなくして倫敦に赴き、偶

するものあり。
彼は徹頭徹尾勤儉主義に則りて、自ら其運命を開拓したる人なり、既に若干の富を積むに至ても、帳簿に對したるまゝ食事を了へ、若しくは新聞紙の反古を以て卓布に代へたる等の類敢て之を珍らしとせず、されば衣服其他の日用品に於て儉約質素を旨とせるは固より論なし、然れども極端なる節約主義に走せたるの結果、其下婢に結婚を申込みたる程なりしが、之を實行するには至らざりき、晩年に至る迄獨身生活を送り全然一身の精力を其事業に傾注し、毫も自己の安逸を希ふの念なかりき、ガイ病院と稱せらるゝ建築物は其建築費のみにて十八萬圓を算し、更に二百餘萬圓を基本金として支出したるのみならず、別にクライスト病院には毎年四萬圓を寄附し、其老母の所在地たるタムウォースにも屢次巨額の寄附金を送り、又其一親戚に對しては八萬圓を給與したるなど、其人格の如何に高きかを知るべく、彼の如きは眞に恭儉其身を持して一生を其事業に捧げたるものと謂ふべし。

△從僕徒弟より身を起せる出版業者

に算すべきものゝ一人にて、其一子はサッソーの知事に任ぜられたり、エドモンド、カールなるもの其半生を他の從僕として送り、偶々一書林の書記に擧げられたるを第一着手として後、自ら出版業を經營し、遂に一大書店を開設して富百萬を積むに至れり、當時書籍の需要決して今日の如く多からず、然るを一代にして其富百萬を以て算するに至れるもの、其刻苦經營の尋常にあらざるを見るべし。

△勤儉主義の成功者

トーマス、ガイは出版業者として、驚くべき成功を博したる一人なるが、彼は出版業者としてよりも、寧ろガイ病院の創立者として普く其名を知られたり、彼の父は石炭運搬人夫若しくは艀船業者たるに過ぎざりしが、父の賤業を營みて窮乏の生活に齷齪たるを見て、以爲らく「大業を成就して、社會に何等かの足跡を印せずんば已まざるべし」と、彼は此決心を以て先づ出版業界に入り、着々其事業を擴張して、時の富豪を以て目せらるゝに至りたり、抑も彼は如何にして此の如き成功を博したるか、彼の實歷の示す所を見れば、其日常に於ける生活狀態の嚴格なる、寧ろ驚歎に値

最も有效なる制度を編成して同會社々運の隆盛を致せるは、一に無教育なるランカシャーの一貧兒カッセル其人の力なり、其黽勉努力實に驚くに堪へたりといふべく、青年實務家の取て以て摸範とすべき好實例なりと謂ふべし。

△カッセル時代の出版業者

カッセルと同時代に於ける、倫敦の出版業者にして、其名の最も高かりしものはジヤコブ、トンソン其人なるべし、彼はホルボーンに在るの時、殆んど無資本の境遇に在りて出版業を開始し、同業者間異數の成功を博したるの人、死に臨み人に語て曰く「余は再生して現世の人たらん事を希望す、余が精力は盡くる所を知らざればなり、余は生前百萬圓を蓄積すべかりしに、僅に八十萬圓に過ぎざるは遺憾之に過ぎず」と、嗚呼此元氣あり此決心あり、實務を處理して始めて此の如き成功の人たりし所以なり。

リントットなる者亦トンソンの競爭者として出版業に從事し、赤手を振て產を起し其愛孃に對する遺產五十餘萬圓に達したり、當時の出版業社會に於て大成功者中

るべし、抑も此眇たる一職工は如何にして斯かる大成功を遂げたるか。
彼は年少家貧にして學業を修むる事能はず、早くも勞働を以て自ら衣食を辨ずるの境遇に人となり、其始めて鄕里を辭して倫敦に赴きたる時は、嚢中僅に五六錢を餘すに過ぎざりき、彼は生れ得て極めて謙抑勤勉の人にして、夙に飲酒の害を恐れ先づ熱心なる禁酒家として其名を知られたり、聽て珈琲店を開業したるが、大に時事に感ずる所ありて『勞働者之友』と題する一小雜誌を發行したるが、之より印刷出版業に於て多大の利益あるを認め、書策大に力むる所ありし折しも、佛國の一書肆にて使用せる幾多挿畵の鉛版に手を入れたるを以て之を利用し、各種の繪入出版物を定時に刊行して、大に一般讀書社會の歡迎する所となり、其事業頓に擴張の機運に向ひたるが、間もなく活版業者たるペッター、ガルピンなる二人者と合併し、爾來日一日業務繁盛に赴き、彼の死後其事業は益々發展の一方にて、今や世界の出版業者中其泰斗を以て目せらるゝに至れるなり。
カッセル出版會社は何故に爾かく盛運に向ふ事を得たるか、畢竟其組織間然する所なく、傭人たる勞働者に對する保護指導其宜しきを得たるの結果なるが、此の如き

成功したる諸文豪の實歷を見て、其成功の跡を尋ぬるに、多くは貧困の家に生れ總ゆる人生の艱難苦痛と奮闘して最後の勝利を得たるにあらざるはなし、詮じ來れば、貧困は青年に對する謎語なり刺戟なり鞭撻なり、四方の志を抱くものは奮然蹶起して天與の材幹を發揮せざる能はず、斯くして其苦痛に打勝ち、其運命を開拓し得たるものは、是れ所謂偉人なり大丈夫なり世界の恩人と仰がるゝの人なり、世界に於ける大事業は多くは茅屋に生れ、窮巷に人と爲れる人物の特產物なるを思へば、貧困の青年は寧ろ天の恩寵其身に厚きを思うて、奮勵一番せずんばあるべからず。

第十三章　闇中飛躍の大事業家

△出版業者カッセルの實歷

世界に於ける最大出版會社の一として知られたる倫敦のカッセル會社は、ランカシャーの一職工たりしジョン、カッセルの創立に係るものなりと言はゞ、何人も先づ其成功の偉大にして、カッセル其人の尋常の器にあらざりしを想はざる能はざ

△諸文豪の驚くべき收入

書肆コンステーブルは、小說『ウェーバーレー』物語の作者スコットに對し、實に百十萬圓の原稿料を支拂ひたり、是れ文學者の收入としては蓋し他に其比を見ざるものなるが、其他の諸文豪も亦少なからざる收入ありたるを見れば、文士必ずしも薄倖を歎ずるの要なかるべし、要は技倆に於て足らざる所あり、勤勉に於て盡さゞる所あるが故に苦しむのみ。

詩人ポープは一箇年の收入八千圓を有するの際に歿し、ジョンソン博士は一著述を以て二千餘圓の報酬を得、詩人バイロンは二十萬圓の財產を有し、小說家ヂッケンスは一箇年十萬圓の所得あり、小說家としてのリットン卿は著作料のみにて八十萬圓乃至百萬圓の財を積み、史家マコーレーは英國史のみにて二十萬圓の收入ありブラッドン女史は『オードレー孃の秘密』と題する小說にて文才一世を驚かし、併せて其收入意外の多額に上り、致富家としても耻づかしからぬ財產を蓄へたり文學は所謂致富の道にあらざるも、其結果は實に此の如き收入あり、此他著作家として

集に應じて同地に赴き、直に箇抜せられて下士官に任ぜられ、聊か其材幹を發揮したるか、同聯隊の倫敦に歸還するに及んで、召集を免ぜらる、是に於て彼は先づ佛國に去り、轉じて米國に航し、著述家の初陣として英國僧侶派に對する非難意見を發表して好評を博し、進んで急進派政客と提携し、著述に演說に奮闘大に力め、一般社會の注意を牽きたるが、再び英國に歸るに及び、迎へられて保守黨に加はり、其主張としては從來の意見を唱道したるが爲め市民の激昂を買ひ、暴民麕集して其扉戶を破壞したる事あり。

後、彼は再び米國に赴き、ロングアイランドに在住して一雜誌を發行し、玆に少なからぬ利益を收めて又英國に歸り、衆望を擔うて議會に入り、雄辯を振つて痛く新教に反對し、千八百三十五年を以て歿したるが、彼は此の如く終生活動を繼續し、奔走に衣食するの有樣なりしが、少年にして花卉を愛するの間に涵養せられたる優美なる品性は、遺憾なく其著作の上に發揮せられ、從て江湖の歡迎を受けたるより、其刊行せる數十卷の書冊より得たる收入は驚くべき多額に上り、期せずして巨萬の富を蓄ふる事を得たり。

の計を立つると共に、餘暇を以て師に就き孜々として讀書を怠らざりき、彼は一時公園の園丁に傭はれ、雜草を芟除するを以て日々の職とし、此間に於て花卉に關する趣味を養ひたるが偶々キューの大公園にて百花正に爛熳たりとの風説を耳にしたるより、行いて之が園丁たらんと欲し、僅々二十五錢を懷にして家を出でたるがリッチモンドと稱する地に着せる頃には嚢中十錢を餘すのみ、此時一書店の店頭に佇みたるに、恰も平生一讀せん事を望みたる一書の其目に觸るゝものあり、彼は直に其十錢を投じて之を求め得意言語に絶せるものあり、路傍に堆を爲せる枯草に身を横へ、軈て疲勞を覺え、睡眠を催すに至る迄反覆熟讀したりといふ、熱心想ふべきなり、キューの大公園に着して希望の如く其園丁となり得てよりは、朝夕紅白さま〴〵の花に憧かれつゝ、大に精神の修養に力めたり、間もなく故ありて家郷に歸りたるが、一片青雲の志は之を抑ふる事能はず、再び家を辭して倫敦に赴き、身を一知人に托して更に一辯護士の書記と爲り、晝夜其業に勵精したるも、本來無趣味なる裁判事務に鞅掌するを喜ばず、零碎の時間を利用して古今の書を涉獵し頗る自得する所ありたるが、彼は身兵籍に在りしより、其所屬聯隊の加奈陀に移るに及び召

見よ、畫伯として雷名を轟せるもの丶中、ターナーは理髮師の子として生れ、ウイルキーは極貧にして屢次饑餓を訴へたるが如き一勞働者の家に成長し、エッチーは麵麭商の一子にして活版工塲の小僧に過ぎざりしを、彼等は人生の辛酸殆ど嘗め盡くしたるも、其技倆の卓拔なると、勤勉の他に匹儔なかりしより、何れも天下の好評を博し、其富百萬を積むに至れり、獨り書家のみならず、俳優ガルリックの如き、曲馬師バッター及びダクローの如き、何れも其技妙を振て、英國當代富豪の班に列せる者なり。

△著述界の成功者

著述家として富豪の名あるものには英國のウリアム、コッペットあり、文士多く不遇にして狷介不羈、假令盛名天下に隱れなき者も、財力に豊かなるを必する能はざるに、コッペット獨り如何にして致富に成功したるか。

彼は千七百七十六年を以て生る、極めて貧困なる農民の一子にして、充分なる敎育を受くるの機會なかりしより、彼は少年ながら奮然として决する所あり、自ら衣食

たるトーマス、ウィルソンは、其初め石炭坑夫なりしが、斯かる勞働者生活を送るの間にも分陰を惜んで修養に怠りなく、幾何もなく識拔せられて學校に敎鞭を執り、更に一轉身を商界に投じて百萬の富を致し、サウサムプトンの市長として令名を留めたるアンドリューは幼にして赤貧の間に辛酸を嘗め、九歲の時より十二歲迄は一農家の耕夫となり、一日十錢餘の賃銀を得て衣食の料に充て、尋で木挽夫となり、鍛冶工となり、孳々として奮闘的生活を送るの間に於て少からぬ資本を蓄積したるが如き、天下何れの境遇に居るも、其志致富に在りて能く富豪たるを得ざるの理決して存せざるを證して餘りといふべし。

△技藝を以て成功せる富豪

世には敢て貨殖を目的とせずして、一代の有數なる富豪となりたるものあり、即ち往々之を美術家に見、技藝家に見、又著述家に見る、此等の人士は當初致富を目的とはせざるも、成功の域に達するの間に於ける苦心の大なる、固より言ふを俟たざるなり。

なる紡績機械となりたるより、進んでウェラスレー、キャッスルに一大紡績工場を開設するに及んで、彼は英國工業界の大偉人として賞讃せられ、千七百八十六年には勳爵士を授けられ、同年デルビーシャーの知事に擧げられ、功名富貴併せ得て同九十二年に歿す、天の人に附與する所以のもの固より一ならず、アークライトの如きは迫害貧困冷遇虐待の裡に在りて毅然屈せず、能く其天分を發揮し得たるもの、青雲の志あるものは先づ此覺悟なかるべからず。

△致富の秘訣は獨立自營のみ

鐵材の販賣を以て富豪となりしものにトーチー、クロフトあり、彼は一職工の子にして幼より具さに貧困の苦痛を實驗し、人能く身を立て家を興するには必ずや獨立自營額上の汗に依りて麵麭を求むるの用意なかるべからざるを自覺し、少にして一鐵材商店に入り店員として早くも其材能を發揮し、大に傭主の爲に信任せられしが、二十六歲の時、多少の資本を投じて獨立の商店を開業し、着々成功の機運に向ひ、英國有數の鐵材商を以て目せられたり、一時英國商業社會の霸王と稱せられ

べくもあらず、是に於て彼は奮勵一番、寢食を忘れて之が完成に思を凝らしたりしかば、其家業は日々に荒みて、赤貧洗ふが如く、往々にして朝夕米鹽の資に窮せり、其妻彼の機械研究を喜ばず、如何にもじて其本業に復せしめんと欲せる一圖の思に驅られ、彼が慘憺たる苦心の餘に成りたる機械の摸型を悉く破壞し了したり、彼は之を見て怫然色を作し、竟に意を決して其妻を去り、獨身生活を送りて更に其決心を鞏固にし、機械の考案に心を碎く事舊に倍せるも、如何せん、身には殆ど收入なく貧困は其極に達して食ふに糧なく、着するに衣服なき窮態に陷れり、此の如き苦痛を甘受しつゝ、彼は稍ゝ完全に近き機械の摸型を製作し得たるが、此摸型は彼が紡績機械發明の第一着手にして、多年の苦心は始めて茲に酬いられ、一朝にして發明家としての盛名嘖々として機械業者間に傳唱せられたり、彼は先づ之を銀行家の集會所に出品して大に其賞讃を博し、且つ同時に彼の爲に醵出せられたる金圓意外の多額に上りたるより、昨日迄の貧困は全く其影をだも留めず、加之同集會所員は直に彼を時の紳商ジェデディアに紹介し、ジェデディアは更に此新案機械の特許を得て靴足袋の製造に使用して好結果を收めたり、彼は漸次に改良を加へ、始めて完全

れ、理髪料は唯一片のみ」と大書せる看板を掲げ、一意廉價と親切とを以て客を待ちしより、忽ち一般の好評を博し、朞年にして多少の資本を蓄積するを得たり、是に於て彼は其地下室を出でゝ毛髪商となり、毛髪の販賣に從事するの傍ら、毛髪の染料を調製して喝采を博したるか、之より端なくも機械業に關係し、茲に多大の興味を覺えて專心に機械の研究を始め、熱心の極、其本業を拋棄せり、彼は之が爲に多少の貯金も全く消費し、復た前年の如き貧困なる生活を送らざるを得ざるに至りたりと雖も毫も屈する所なく、機械業を以て慥に自家の本領と爲し、日夜孜々として其研究功夫を繼續したり、然らば彼は如何にして其の貧困時代を脱却するを得たるか。

△如何にして紡績機械を發明したるか

當時ワーリントンにケーなるものあり、時計販賣を以て業とせしが、アークライトは久しく懇親の間柄なりしを幸ひ、其助力を請うて紡績機械の一新摸型を製作し得たるも、是れ機械學上の理想に基ける雛形といふに過ぎずして、到底實用に供す

知るに足るべし、彼は致富に成功するや更に進んで政治界に入り、國債に關する册子を出版し、選ばれて議員となり、世界の一方に雄視し、ピットと友として親善なりし等政治上に於ける活動亦大に見るべきものありき、英國には由來實業家にして政治上に大勢力を有せるもの多し、ピールの如きは實に英國の政治家實業家としての好典型なりと謂ふべし。

△大發明家アークライトの少年時代

紡績機械發明家として有名なるアークライトは、千七百三十二年を以て生る、彼が貧寒の境遇に在りて修業を積み困難と戰ひたる實歷を見れば、貧困却て偉人の本領を發揮せしむるに便なるを思ふの念を切ならしむべし。

彼は幼にして其家極めて貧なりしかば、曾て學校敎育を受けたることなく、多少文學を解するに至れるは全く獨修の結果なり、初め理髮師の徒弟となり、技術に於て稍々得る所あるに至りてボルトンと呼べる地に獨力一理髮店を開業したるが、此理髮店は家賃の廉なる地下室を撰びたるより、其店頭に「請ふ地下室の理髮店に來

業家の實歷之を證して餘あるを知るべし。

△ロバート、ピールの奮鬪實歷

サー、ロバート、ピールはランカシャーの一小綿布商の第三子なり、幼にして四方の志あり、冒險的功名心に驅られて家を出で、ブリーといへる地に赴き、一工場に入りて職工となりたるが、其勤勉と材幹とは直に傭主の認むる所となり、殊に同工場の支配人エーツなるもの、大に其人と爲りを愛し、其女を以て之に配せしむるに至りたるが、彼の地位は隆々として進み、四十歲に及んでは其富實に幾千萬圓を以て算せらるゝに至りたり、今日に於てこそ、一代にして其蓄財幾億萬圓に達するものあれども、第十八世紀時代に於て少壯此產を成せるは異數なりと謂はざるを得ず、其富果して幾何なりや正確に之を知る事能はずと雖も、其五子に各二百五十萬圓、其三女に各六十萬圓、其鄉里に每年二十二萬圓、ロバート、ピール一家に四百五十萬圓、其他親戚知友に每年三萬圓宛を頒ち、而して彼れ自ら費す所亦每年三萬圓に及んで尙ほ且つ綽々餘裕ありたりといふを見れば、彼の成功の實に尋常ならざるを

十九世の中葉、英國議會の名物男としては、ブラザートン、アトー、及びクロッスレー等亦其中に算せらるゝものなるが、彼等は何れも身を職工より起して一代の富豪となり、實業界に雄飛したるものなり、同時代の傑出せる議員たるイングラムは、議員に選出せらるゝの前、曾て其選擧民たる一紳士の家に傭はれ靴磨の職に服したる事あり、彼は其家を辭して後、ノッチングハムに出で、自ら活版業者となり、書籍商となり、新聞通信業兼新聞販賣業を營み、徐ろに奮闘の歩武を進めたるが、彼は徹頭徹尾勤勉と忍耐とに依りて最後の成功を見たる人にて、其勤勉の甚しき實に驚くに堪へたるものありき、例へば一顧客の注文に應じ、日々一枚の新聞紙を配達せんが爲に、五哩の遠距離を往復したるが如き、若しくは毎朝未明に家を出で倫敦に赴き新聞紙を取寄せたるが如き、彼は毫も之を勞とするの色なく、樂んで其業に從事せり、彼の事業に對するや皆此方針を以てしたるより、直に一般世人の信用を博し、遂に能く後年の成功者たるを得たる所以なり、男子既に四方の志あらば身は貧境に噞喁するも、必ずや年を經て成功の域に達すべし、憂ふべきは資本なく地位低きにあらずして、自ら進んで其運命を開拓すべき勤勉力行の覺悟なきに在る事東西事

るが不幸にも貴族黨の爲に失敗を招ぎたり、然れども彼は毫も之を意に介せず、爾來其旗幟を鮮明にして競爭を試み、二十回の失敗を重ねたる末、同五十四年三月チンマスの議員候補者となり、激烈なる運動の結果僅に十七票の多數を以て最後の勝利を占め、遂に名譽ある議員の光榮を負ふに至れり、精力の强健なる事思ふべきなり。

當時彼は二十一隻の船舶を所有し、保險額二千八百萬圓に達したり、此他に彼の社長たりしリンドセー船舶會社にては、盛んに海外貿易を試み、印度及び地中海沿岸を主とし、世界各所に向け一年間に七百隻の船舶を送り、以て多大の利益を博したり、後ち議員の職を辭するや、彼の多能なる、一變して著述家となり、各種の著書を公にしたるが、就中『海運及び英國商業の沿革』の如きは其最も世に行はれたるものなり、議員中此の如き勇敢なる奮鬪家あり健全なる事業家あり、英國議會の益々發達する所以なり。

△職工、靴磨より起れる者

して家を出で、先づ船員たらんとしてリバープールに赴きたるも、同地には一人の頼るべきものなかりしより、街上を東西に彷徨して、或は軒下、小舍の中に臥して夜を徹し或は人に食を乞うて饑餓を免れたる等其辛勞苦心や名狀すべからざるものありしが、七週間の後西印度航海の滊船イサベラ號に乘込む事を得て、其船室給仕となれり、是れ彼が船舶業者として絕大の成功を見るに至れる發端なるが、斯くて三年の後、事務員となり、幾何もなく事務長となり、奮勵勤勉の結果は益々先進の識拔する所となり、千八百三十六年十九歲にしてオリーブ、ブランチ號の船長とはなれり、立身の速かなる驚くに堪へたりと雖も、亦彼の奮鬪の尋常ならざりしを察すべし。

彼は同四十年に至り海上の生活を辭して其翌四十一年カッスル、エデン石炭會社の代理店長となり、越えて同四十五年倫敦に移り、玆に畢生の事業の基礎を立て、大規摸の船舶業を開始し、英國有數の事業家として目せらるゝに至りたるが、彼の飽く迄奮鬪的性格に富める、單純なる事業家を以て甘んずる事能はず、更に進んで政治界に活動せんと欲し、千八百五十二年の四月及七月の兩回に於て選擧を爭ひた

△鐵道王と船舶業者

ケントの富豪ウィリアム、ゼームス、チャブリンは所謂最下級より最上級に躍進したる一代の摸範的奮鬪家なり、彼は鐵道の敷設以前既に馬車運輸業を以て成功したる人にて、當初は頗る小規摸なりしが、其事業經營の能力遺憾なく發揮せらるゝに及んでは、車輛六十四臺、馬匹千五百頭を所有し、一箇年一千萬圓の收入を見たるが、鐵道の敷設せられんとするに及んで、彼は率先して馬車業より、鐵道業に轉じ、獨り內國鐵道の大株主たりしのみならず、佛蘭西及び和蘭の鐵道株を買收して巨利を占め、遂に鐵道業界獨歩の大成功者と仰がるゝに至りたるが、千八百四十五年英國紳士として最も名譽ある倫敦市長に推擧せられ、監獄事業に心血を注ぎて好成績を擧げ、後選ばれて議會に入り、自由貿易の主張者として大に活動したり。

議員リンドセーは蘇格蘭エールの出身なるが、其慘憺たる少年時代に於ける奮鬪的實歷を聞かば、何人にても慨然奮起せざるを得ざるべし、彼は千八百十六年を以て生れ、六歲にして孤兒となり、十五歲の時、決然志を立て、僅に二圓弱の旅費を懷に

以て、單身徒歩具さに苦痛を甞めてリーズに赴きたるも、行いて志を語るの人もなく、暫く客舍に放吟せしが、幸にしてマーキュリー社に入るに及んで、自ら決心すらく「假令如何なる事情あるもマーキュリー社を去らざるべし」と、入社以來彼は勤儉を以て成功の要義と爲し、飮酒喫烟は言ふ迄もなく、總べて無用の遊技を禁じ、俸給の半額以下にて生計を立て、友と交るに先づ其人を撰び、言語擧動より風貌の末に至る迄仔細に注意して高潔なる品性を保つに力め、毎朝五時に起床し、必要に應じては三時若しくは四時より執務するを常とせり、彼は規律を守る事嚴にして、殊に約束の實行を重んじたるが、之に加ふるに彼は熟慮に密にして斷行に勇あり、耐忍力頗る堅固にして如何なる困難に逢ふも會て挫折し失望する事なかりき、徒手空拳を以て自家の運命を開拓するものは勿論此の覺悟と資質とを要す、新聞業者として又議員として言論壇に雄飛せしものゝ偶然にあらず、彼の新聞業より收めたる利益よ

め志を立てゝ、郷里プレストンを出づるや、固より車馬を驅るの資力なかりしを積んで二百萬圓に達したり。

治上及び經濟上の改革運動に全力を傾注し、同團躰の牛耳を執て政界一方の飛將軍と目せられたり。

△紡績業者と新聞持主

アイ、ホルデーンはヨークシャーのライヂング選出議員なるが、彼れ曾てリーズの選擧民集會所に臨み、身の生立に就き語て曰く『余は本と紡績工塲の一職工なりき當時一日十四時間の勞働に服し、更に夜學校に通學して二時間を費したるが、此夜學の外、余は何等正則の教育を受けたることなく、辛うじて今日に至れるは獨修の結果なり、余は二十歳の時、自ら機械教師たらんと欲し、始めて飄然リーズに來り爰に幸福なる數箇月を費せる當時を回想して感慨禁ずる能はず』と曾て紡績工塲の一編工なりしホルデーンは後年紡績業を以て成功し、更に足を政界に入るゝや自由黨の一員として羅馬教に關する信仰自由問題及び奴隷開放問題の爲に貢献する所甚だ大なりき。

リーズの選出議員ベーンは英國屈指の新聞紙『リーズ、マーキュリー』の持主なり、初

に列せるを見よ、而して此等の人傑が何れも逆境の裡に奮鬪せる活動家なるは大に人意を强うするに足る。

△鐵道業家と貿易商

一時英國鐵道界の覇王と稱せられたるジー、ハドソンは、國會議員としても盛名あり、致富家としても政論家としても驚くべき精力を發揮したるの人なるが、彼が出身の初めは極めて微々たる麻布商にして、久しく逆境の中に苦しみしが、八面玲瓏の奇才は忽ちにして商界の機運に乘ずるを得て着々征利に成功し、鐵道事業に轉ずるに及んで其富は一代に冠たるに至れり。

ジョセフ、ヒユーム亦國會議員として傍ら商業に從事し、最も成功したるもの一人なるが、其初めは母と共にモントロースに在りて一小陶器店を開業し、軈て印度の富源頗る貨殖に便なるを聞き、逸早く之に赴きて貿易を試み、在住十數年にして百萬の富を積み、歸來國會議員に選出せられたるが、彼は獨り利を見るに敏にして且つ奮鬪苦戰の精力過絕なりしのみならず、時事問題に就き貢献する所甚だ多く、政

らしき成功者として一般社會の尊敬を博するに至れりマッカレーと併せ見て禁酒成功者の好一對と謂ふべし。

第十二章　活動的健兒の運命

△英國議會の健全なる理由

英國は憲政の理想國にして、議員の性格最も健全なりと稱せられ、爾餘の列邦に於て屢々耳にするが如き收賄瀆職の聲曾て外聞に洩れず、是れ議院制度に於て遺憾なきが故なりとは言へ、實は議員として議場に出入する者は既に實務家として產を積める成功者多く、議員を職業として之に衣食せるデマゴーグ絕て無ければなり、現代の議員然り、前代の議員然り、初期の議員亦早く既に多く此美風あり、議會制度の圓滿に發達せし所以のもの偶然にあらず、試みに其二三子を案ぜよ、ジョン、ブライト、リチャード、コブデンは其初め實業家として奮鬪の途に上り、最近にては、前殖民大臣として一代の人傑と稱せらるゝチェムバーレンの如きは螺旋製造所の主人より起れり、實業家として成功せるのみならず、政治家としても英國第一流の班

て、次第に其事業を擴張し遂にベッスボロー街一帶の家屋は悉く眇たる此一事業家の手に依りて建築せられたり。

建築は要するに彼が成功の端緒なるが、遂に巨萬の富を積んで一代富豪の班に列し、教會病院に多額の資金を寄附したるを始めとし、社會一般の公共事業に寄與したるの功勞實に多しとすべきものなるが、如何にして此最後の成功を博するに至れりやと言はゞ**單に酒を禁じ惡友と絶ち、眞面目に事業の經營に從事したるに在り**、晩年に於けるマッカレーを以て青年時代のマッカレーに比すれば、殆んど別人を見るの觀あり、而して彼は獨り其身を修めて產を成せるのみならず、其周圍の人物を感化して成功の途に導き、彼と同一の運命を開拓せしめたるもの少なからざるに徵して、愈々其効果の大なるを思ふべし。

當時國會議員として知られたるデヴィット、デヴィスの如きも亦マッカレーに酷似せる實歷談あり、彼は勞働者として慘憺たる人生の行路に上りたるが一朝飲酒の害の肉體及び精神に及ぼす影響實に恐るべきものあるを知るや、**斷然其惡習を一掃して純然たる禁酒家となり、身を修め產を積みて遂に國會議員に選出せられ、當代珍**

故に一時の浮沈成敗の如きは少しも憂ふる所なく更に新行程に上らんとして、知人トーマス、キューピットを訪ひ具さに失職の事情を告げ、同時に幾棟かの家屋を建築せんと欲するの計畫を逃べて其助力を乞ひたるに、キューピットは彼が禁酒主義者にして、其信仰の爲には職業を失ふも敢て辭せざるの決心あるを見て、言下に之を快諾し、直に建築に要する土地若干坪及び煉瓦其他の建築材料を供給せん事を約したり、是れ實に彼が當時の富豪として、又社會的事業の率先經營者として多大の成功を博するに至れる其第一歩なり。

△靑年の酒徒晩年の富豪慈善家

當時彼の財産と稱すべきものは、既往三箇年間禁酒を勵行して貯蓄し得たるもの六百五十圓ありたるに過ぎず、之が爲め建築事業其半に至らずして、忽ち其資金に窮乏し、百計盡きて一時如何ともする事能はざりしより、苦心に苦心を重ねたるの末、アルソップなる者に對し、半成の家屋一棟を三千三百圓にて賣却し、之を工事繼續資金に充てたり、一工事成れば更に他の工事を計畫し、一地所より他の地所に移り

は別問題として、其確乎たる決心は傭主の要求と相容れず、終に其職を失うて工場を出づるの已むを得ざるに至りたり、然り彼は失職の不幸に會せりと雖も、他の信用を博する事一方ならず、更に此信用を利用して事業を別方面に求むるの機會を得たり。

△如何にして最後の成功を博したるか

彼は此失敗を以て毫も意に介せず、以爲らく「自家の確信の上に立て行動するものは、縱し一時の失敗あるも、能く最後の勝利を收むるを得べし」と、彼は自己の信仰其一角にても潰るゝあらば、直に飲酒の惡習に返へり、重ねて其信用を失墜せん事を恐れて已まざるなり、決心の堅き茲に至らば物質上の成功は暫らく措いて、既に是れ精神上の成功者たるなり。

沙翁曾て歌うて曰く「人生は猶ほ潮流の如し、此潮流一たび横溢すれば、人は期せずして好運命を開拓し得べし」と、然れども人能く確乎たる決心なくんば此潮流に棹して一路快走目的の地點に達せん事思ひも寄らず、彼には既に確乎たる決心あり、

鋭意其事業の爲めに勞しり、如何なる場合に於ても、決心は人をして新しき人たらしむ、成功は熱誠なる勤勉者の獨り擅にする所なり、當時バッキングハム王宮修理の事あり、彼れ亦イーヴァンなるものに傭はれて其一部の工事を負擔する事となりたるが、偶々さる土曜日の事、彼は平常の如く作業に從事し居りたるに、傭主來て告ぐる所を聞けば「今回の工事は一定の日限内に必ず之を竣成せざるべからず、日曜日も亦就業平日の如くせよ」といふに在り、彼れ之を肯んぜずして曰く、「余は日曜日に就業するを欲せず、日曜日の休業は敬虔なる生活を送るものゝ當に守るべき信條なればなり、然れども余は決して勞力を辭するものにはあらず、日曜日以外の六日間は毎夜三更迄作業に服し、月曜日は午前二時を以て就業するも可なり」と、傭主は怫然「卿は不忠の臣民なり」と一喝し、容易に其請を容るゝの色なし、彼には孟賁も拔く能はざる決心あり、「然り余或は不忠の臣なるへし、然れども若し一夜王宮に火あり、陛下未だ免れ玉はずと聞かば余は身を猛火の中に投ずるも、陛下を救ひ奉るに於て一歩も人後に落つるものにあらず、唯日曜日に作用に從事するは余の靈魂を殺すに外ならざるを如何せん」と、日曜日の就業を禁ずるは人生幾何の價ありや

既に信用なく交友なし、新に職業を求めんとして倫敦を去り、チェルシアと呼べる地に赴きたるが此地に在りて端なくも一禁酒主義者に邂逅し、酒精の害毒の實に恐るべく從て禁酒の最も必要なる所以を說かるゝや、直に其紹介を得て禁酒會員となり、前日の失策に鑑みて深く自ら戒飾し、斷然禁酒的生活を送りたるに、其同業者中、却て彼の品行の方正なるを忌むもの多く、之が爲に迫害を受くる事甚しきを見て以爲らく、若し周圍の事情の爲に自己の信念を動かさるゝ事從來の如くあらんには失敗墮落の極其身の破滅を招がずんば已まざるべしと、此際工場生活の境界を脫するの必要なるを感じ、縱し小規摸なりとも、獨立して事業を經營すべしと決心し、人に乞うて一磅を借り受け、之を資本として石炭小賣商を開業し、間もなく轉業して彼が終生の事業たる建築業を營むに至れるもの是れ其成功の首途なり。

△事業家としての第一次の失敗

マッカレー曾てロバート、バーンスの詩を誦す「好運の神の笑顏を見んと欲せば、須らく不撓不屈の忍耐を以て之を待つべし」と彼は此一句中に多大の敎訓を學び、日夕

したるより之が爲に感化せられて一時は其惡習を改め、酒店に出入するを好まざるに至りしが、其後、居を倫敦に移すに及び、重ねて前年の惡習に陷り、一家團欒の樂は其影を潛めて、生計に苦しむ事甚しく、從て他の信用を失ひ、健康を傷ひ、窮困名狀すべからざるものありしが、一朝飜然として悟る所あり、自ら誓を立てゝ禁酒主義者となり、只管克己の精神を涵養して酒盞を手にせざる事幾旬かの久しきに及びしか、弊習は動もすれば復舊し易し、一日一酒店前を通過するの際、曾て一團の酒徒として相交りたるもの數名恰も店頭に在りて酒酣なりしが、マッカレーを見るや袂を控へて之を引留め、盛んに飮酒を強ゐたるより、其決心實に鐵の如くなりしマッカレーも一盞は一盞より興愈々深く、終に全く泥醉して前後不覺となり、擔はれて其自宅に送らるゝの失態を演じたり、斯かる自墮落の生活を送る者の遭遇すべき運命は常に一樣なり、彼に對する信用は全く地を拂ひ、終に職業を失うて友なく家なく漂浪の客たるに至りしぞ是非もなき。

△如何にして飮酒の惡習に打勝ちたるか

のみならず、大に其精神を健全にし、一夕嚥遊の資を蓄へて何時しか若干の資本を積み、更に之を利用し活用して富豪となり大事業家となれるもの其例少なからず、之を小にしては品行方正の紳士となり、家を興し産を成すに至れる者に至ては、其數蓋し勝げて數ふべからず、英國のジェームス、マッカレーの如きは即ち此種の成功者中に算すべき最も適切なる一例なり、請ふ彼が如何にして其惡習に打勝ち且つ健全なる奮闘生活に入りたるかを見ん。

彼は一千八百〇一年グラスゴー市に生る。其家赤貧洗ふが如くなりしより。年少早くも業を求めて自ら糊口に勞するの已むを得ざるに會したるが、悲しいかな、此可憐なる年少勞働者の最初に從事せる職業は、他の勞働者の爲に、毎夕酒を買ふの使者たるに在りて其報酬は僅に夕飯を給せらるゝに過ぎざりき、彼の接近せる隣人は皆飲酒家なりしより、忽ちにして酒を嗜むの惡風に染み、爾來工場に入りて過激なる勞働に從事せる他の一方には、屢次酒店に出入して紅燈綠酒と親しむに至れり。

彼の飲酒癖は益々增長の一方なりしを偶々酒を嫌ふ事蛇蝎の如き一婦人と結婚

著書の了せる方法に從ひ、數種の菜食料理法を會得せしかば、兄に向ひて現在費用の半額を與へなば他に轉居すべき旨を告げたるに、兄は直に之を承諾したり、かくて余は兄より受けたる金額の一半を貯蓄し、其一部を書籍購入の費用に充てたるが、此他に非常の利益を得たることあり、即ち菜食料理は至て簡易にして職業に從事する傍、自から之を調理することを得たる事是なり、然るに兄と徒弟とは食事毎に外出するの煩勞あるを得ざりき、健康上よりいふ時は余は菜食の結果頭腦明晰となり判斷力亦迅速となれり、余は生來數字の觀念最も乏しく、學校にても兩回之に失敗せし程なれば、菜食主義實行後、再び之を研究せんと欲し、コッカーの算術書を得て之を學びしに容易に之を了解するを得たり』と、其利益する所獨り致富上のみにあらざるを見ん。

△禁酒主義の成功者

所謂禁酒主義は、多くは其動機を健康を顧慮するの點に發し、是に由りて長壽の幸福を全うしたるもの甚だ多しと雖も、飲酒の惡習を打破したる結果は獨り肉躰上

は一萬圓を超過せず、葡萄及鳳梨の類は其産額多ければ、優に食後の卓子を飾るに足れり、而して全躰の生活費は年額三萬圓なれば、收入の六分の一に過ぎず、老紳士は極めて內氣にして交際社會に出入するを嫌ふの風あるも、寄附を求むる者の書面一年約千通の多きに達することあり、人彼を目するにスマイルス自叙傳中の人物を以てし匿名を以て其生涯の記錄を公にせんことを望むもの多し』と、吾人は健全にして幸福なる生涯を送れる者、此一老紳士に於て始めて之を見るの感なき能はず。

△フランクリンの菜食主義

菜食主義は最も健全なる人間生活法なり、フランクリンの經歷に徵するに彼亦之に依りて少なからぬ利益を得たるが如し、其自叙傳中に曰く『余は十六歲の時、偶然菜食の必要を論ぜる一册子を讀み直に之を實行せんと欲したり、當時余の家兄は未だ妻を迎へず、一徒弟と共に他の一室を借受けて假偶せしが、余の排肉主義は、生活上に不便を感ぜしめたる爲め、兄の感情を害せること一再ならざりき、余は原

余が弟妹及其子女の爲に費したる金額は十五萬圓の巨額に達せり、而かも彼等は依然放縱無節制にして浮華の陋習あるが故に、余は今後彼等に與ふべき無益の費用を轉じて我子孫及中心尊敬すべき人物の爲に投ぜんと欲す、余の家族の狀態は幸にして頗る健全なり、彼等の躰質は皆强壯にして、好んで勤勞に服し、家庭には和氣靄々として盡きず、既に結婚せる子女にても、一家の大事に至りては必ず余等夫婦の意見を徵して後之を決行す、余は公平に彼等の利害を慮りて適切なる忠言を與ふ、且つ余の收入は直に彼等の間に分配して吝む所なし、其生活は簡易質素一意貯蓄に務む、多きあり少きあり唯力量に任せて敢て干涉せず、而して成年以上の男子等は皆其收入の一割を以て學術及宗敎に關する事業の經營に充つ、余は業務を視ること僅に三時間其餘は殘年を樂まんが爲め文學及び技藝上の雜書を涉獵す』と。

以上は老紳士實歷の梗概なり、更に夫人の談に據れば『其邸宅は大小三十棟を有し中には宏壯なる美術展覽室ありて、婢僕二十人園丁三十人を使役す、其生活の規摸此の如く大なるに拘はらず、果實菜蔬等の收入あるため給料として支出する所

さずして其良心に問ふ、卿等は肉慾を貪ると餓虎の如き者あり、女子は常に衣服の新調に忙殺せられて品性の墮落するを知らず、其得意とする盛裝の姿も余の眼には狂者の如くに見ゆ、卿等は充分なるの學校教育を受けたるも、怠惰にして之を活用する能はず、男子は酒味色の爲に其產を破れり、卿等の結婚は抑も何の意ぞや、忌憚なく言へば余は卿等に對して毫も尊敬の念を有せず、されど余は神を畏るゝが故に卿等の窮狀を傍觀せざるべし、若し卿等にして菜食家となり、一切の興奮劑を禁じ、且つ子孫をして此主義を實行せしむることを誓はゞ、余は喜んで其生活を補助せん而かも六個月以內に右の主義を實行せざるものあらば、余は涙を呑んで之と總ゆる關係を斷絕すべし、是れ余が職分の命する所なり。

余は之を印刷に付して普く同胞に送付したるが、其返書は皆熟考すべしといふに一致せり、余の弟妹數多き中に一人も幸福なる生涯を送れるものあらずされど彼等は當初余よりも立身上の好機會を有せしなり、余は少時より孤立援なき逆境に立ち總ゆる世上の辛酸を嘗め盡したれど、彼等は多額の學資を費して教育せられ、加之少なからず叔父の遺產の分配を受けながら、一家の躰面を保つ能はざるなり、

の動作の意外なるに驚き其歸國後は成るべく之を遠け、吾が家憲の神聖を維持せんとするに力めたり』

△如何にせば理想的生活を送り得べきか、

『二三週日滯在の豫定は、一個月となり、二個月となり、終に爲すこともなくして半歳聊か倦怠の情を催すに及び翌年も亦重ねて訪ひ來るべきを約して辭し歸れり、翌年に至れば果して約の如く押寄せ來りて寄寓を求めたれど、余は一應の照會なくして來れるを詰り、此際こそ墮落せる家族全體の爲め余が道德上の感化を與ふべき機會なれと決心せしを以て下に掲ぐるが如き一書を認めて之を與へ、同時に投宿を拒みたり、其要に曰く

親愛なるアン及其他の弟妹よ

今や卿等が恐るべき危險に瀕せることを警戒するは余の職分なりと信ず、卿等の中には一人も神を畏るゝものなく、總べて放縱安逸を是れ希ふ、而して、卿等の中強いて善良なる行爲を避け、求めて不正の生涯を辿るものあり、余は其名を指

毎朝六時に起き、夜は十時半に臥床に入れど、アン姉妹は往々にして徹宵無用の談話を試み、朝は十時頃ならでは朝餐の席に列せず、余は其惡習慣を矯正せんと欲し、午前八時に食堂を閉ぢ晝食まで之を開くべからずと命ぜしかば、アン等は餘儀なく八時前に起床するに至れり』

『アンは衣裳好みの虚飾者なるのみならず、頑固なる饒舌家なるが、余が家の生活に慊焉たらざるより、忽ち本質を暴露し、婢僕等に向ひて菜食主義を罵倒し始めたり、余は、之を適當の時機と認めたれば、姉妹等に一室を貸與し、一週二十圓を給して欲するがまゝに、生活せしめ尙ほ何時にても家内の食堂に加はるを得しむる事となしたるに、此極端なる非菜食主義者の三食共に食堂に現はれ來りたるには一驚を喫せざるを得ざりき、姉妹は時計及珠玉の類を所持せずとて切に之を要求せるを以て、已むなく之を購うて附與したるに、此事何時しか父母の許に在る弟妹等の耳に入り、彼等も亦恰も當然の權利に屬するが如き態度にて要求し來りたれば、余は終に千六百圓を支出するの已むなきに至れり、此の如く彼等は唯余等夫婦に煩累を及ぼすのみなれば余の長女の如きも伯母の態度を見て之を輕侮せり余は彼等

胞三人は轉地療養の爲め都會の風光に接せんと欲し、近々吾が家に訪ひ來るべしとの事なれば、余等夫婦は喜んで彼等を迎ふべき旨を答へ、且つ余が家の生活の頗る愉快なることを說き菜食主義を妨ぐる事なき樣注意し置きたり、元來父は余の早く家を出でゝ獨力富を蓄へたるを快とせず、余も亦父の失敗を以て平素の放逸不規律に歸するに躊躇せざりしかば、自然兩者の間に多少の隔意を生じ、余は終に懶惰者を以て充滿する全家族を引受くるに至るべき運命ならずやと案じたる時なれば、彼等の來訪は中心余等の歡迎する所にはあらざりき、既にして彼等は打ち連れて訪ひ來れり、長姉なるアンは生來懶惰にして虛榮心に富み世の流行を追うて外見を飾り、分外の贅澤に耽りて却て快とす、されば吾が家の生活が富裕なるに似ずして質素なるは其最も不滿とせる所なり、アンは一日余の妻に向ひ如何にしてかゝる見すぼらしき生活に堪ふるか宛ながら貧人の陋屋にも似て、不愉快なる事言はむ方なし、普通人ならんには一日三度の食事に多少の肉片を口にせざるものなきに、此の如く一切野菜のみにて生命を維げるは不思議なりと詈りたるに余の妻は否々肉類にては健康體力を維持する能はずとて取り合はざりき余の妻は

生ずるに至れりと云ふが如き實例は枚擧に遑なし、余が四十餘年の經驗に徴するに、若し菜食主義一般人民に採用せらるゝに至らば、貧困及非惡の十中八九は消滅すべく、英國產の穀類及菜蔬を以て一般の需要に應じ得べきが故に、國債は三十年間に悉皆之を償却するを得べし』。

△懶惰生活より見たる菜食主義

『鄕里を去りてより余は父母と音信の交換を怠らざりしが、近來余の着々成功せるを傳聞して頻りに生活の困難を訴へ來れり、されば余は其返書の中に必ず若干の爲替劵を封入し、且つ數年前より每年父母に各二百五十圓宛を贈るを常とせり、二年每に一回歸省の際は、寢室及び食事を別にしたるが是れ余の父は比類なき喫烟家にして、剩へビールを不斷の飮料と爲し、其他嗜好性癖を異にすること甚しければなり、余曾て父の酒煙草及肉類に要する費用を計算せしに、生涯を通じて約一萬五千圓の巨額に達する割合なりき、されば余若し一年一千圓を與ふるも其大部分は飮酒喫煙の料に供せらるゝなり、一日父よりの來信に據れば、家に殘れる余の同

『余の長女は綿密に百般の家計を掌るのみならず、傭人等の家計に對しても、勤儉貯蓄の美風を奬勵する目的を以て、嚴重なる監督を加ふ而して余は常に子女に告ぐるに最も多額の貯金を有するもの其繼嗣なるべきことを以てせり、是れ一般社會の世襲的制度に反するの嫌あれども、實際に於て非常の効果を奏し、余が家族は秩序正しくして各自克己の精神に富めるは、往時のクエカー教徒に似たるものありき、一家の幸福、業務の繁榮、子女の成功は全く家族の和合と主從の溫かなる交情とに基くものにして、勤勉なる者の富者となるは、社會自然の約束なり、余は更に菜食家の生活狀態を語らん、一年二萬圓の收入ある某紳士は往時肉食家たりし時一萬五千圓の支出を要したるに、今は僅に一千五百圓にて以前よりは愉快なる生活を送れりといひ、一法律家は醫師の注意により毎食必ず肉類と葡萄酒とを用ゐたるも現今は菜食主義者となりて、以前に優る健康を保ち、氣力旺盛にして長時間の勤勞に堪へ、而かも其經費は殆んど從前の半額にて足れりといひ、又毎食肉類ならでは食慾進まざる一牧師、之が爲に少なからざる負債に苦しみ、毎年クリスマスには會計係を煩はす事一方ならざりしが、菜食主義を厲行して以來、毎年多少の餘裕を

を貯蓄し得たり」と、主人は大にヂッケンソンの行爲を賞揚し、其經濟的手腕を認めたる旨の感謝狀に添へて、三百五十圓の價ある金時計を與へりのち「ヂッケンソンは一週三十圓の給料を受くるに至りたるも、依然此方針を繼續せしが、主人歿するに及び、其後繼者は彼に二千五百圓を贈り且つ一年三千圓の報酬を以て勤續せんことを請求せり、十八年の後多年勤續の功勞に酬ゆる爲め每年千圓を加給せられたれば、幾もなくして八萬圓の資産を有するに至り、始めて妻を迎へたり、新婦亦頗る勤儉の美風に富みたる人にして、結婚以來夫の主義に從うて純然たる菜食家となれり、彼が長妹イリー亦忠實なる菜食主義者なり、其家に出入するものにして此主義を奉ずるに至れるもの甚だ多く、イリーは食料の外其被服費を節して二十年間に四千圓を貯へ、余に其銀行通帳を示せるを以て、余は奬勵の爲めに之に千圓を加へ且つ若し余の生涯中一萬圓に達せば余は更に五千圓を與ふべきを告げたるに、彼女は之に勢を得て勤儉貯蓄の工夫に餘念なかりき』。

△社會改良の第一策

及び油各二十四錢、珈琲二十四錢菓物、衣服洗濯料各二十四錢其他雜費五十六錢是れ實に彼の實驗より學び得たる敎訓なりき』

△菜食少年の驚くべき成功

『余の傭人の子女は常に此愉快なる菜食主義に感化せられて幼時より生活上多大の利益を得たり、就中ヂッケンソンと呼べる一少年は、吾が傭人の子女中年長者にて、余は其幼時の記憶を存して可憐の情に堪へざるものありしが、十六歳の時より余は一週八圓を與へて煖爐の番人たらしめたり、然るに十八歳の時さる一富豪の執事此少年の有望なる資質を認め、一週十五圓を以て使用すべしと勸誘し來りたるに對し、余は當初不同意なりしも、思ふ所あり、少年の希望に任かせ其聘に應ぜしめたり、彼は書を其父に送りて曰く「兒は依然菜食主義を實行し且つ一週十五圓の外に過分の臨時收入あるも四圓を以て萬般の生活費を辨じ、牛鳥肉の類は欲するが儘に與へらるゝも一切之を斥けて植物質の美味を取り、不消化に苦しむ數人の同僚に勸めて菜食家たらしめたるに他の婢僕も漸々之に傚ひ、兒は一年約五千圓

し、總計十四棟を有するに至りしが、其居住者の重なる者は愛蘭人なりき、要するに余の知る所の愛蘭人は概して克己の精神に富み、資性篤實、烟草も喫せざれば酒も飮まず、純然たる菜食家なり、されど余は彼等が勤勉忠實なる妻を娶らざる間は決して家屋を給する事無し、余が家に使役せる一事務員は久しき以前妻を迎へたれど子なし、其妻は曾て地方の小學校長を務めたる程の敎育ある者なれば、家事を辨ずるの傍、邸内の子弟を敎育すること二十年の久しきに及べり、夫も亦信仰厚き人物なりしかば、邸内の男女約百人を倉庫内に集めて修養に關する講話を試み、中には母子打連れて臨場する樣一種の家庭學校なりき、彼等は尙進んで學校を借り受け菜食主義の説敎を爲し、余等夫婦の實驗談を引用するを常とせり、彼が家族は老父母の外に二人の叔母ありたれども、一人一週各三圓五十錢の割合にて愉快に生活するを得たるもの丶如し、吾が家の經營に對して、彼の盡力せし所少なからざりしは余の深く感銘する所にして、余は其勞に酬いん爲め、大學に在る其子の學費を供給しつ丶あり、彼れ曾て丁年以上の男子が一週三圓七十四錢にて優に生活し得べきを示せるが、其内譯は下の如し、室料五十錢、麵麭代七十四錢、野菜七十四錢牛酪

△菜食主義の實行と家庭の幸福

『さて余の結婚後十六年を經過し、菜食主義の實行も既に多大の經驗を積みしかば、余は吾が一家の實驗に基き一冊子を著述して二千部を公にせり、余は此冊子に於て菜食の必要を切言し、食物に一變革を加へて健康を維持すべきことを述べたるに、之を熟讀せる青年男女にして直に此主義を實行したる者少なからず、此時余は家事と庭園の爲に婢僕各二人を使用せしが、余は之に一週六十六錢を與へて菜食主義を強ゐ、外に必要に應じて胡蘿蔔キャベツ及び葱若干を給與せり、彼等は各妻帶者なりしかば、一家毎に余の考案に成れるゴシック式花園付家屋に住み、服務時間の外恰も一家の主人の如く自由と快樂とを享有するを得たり且つ余は彼等をして蜜蜂及家禽を飼養せしめ、其所得は悉く彼等に與へたりしかば、其比較的富有なる生活狀態は著しく其隣人の羨む所と爲れり、余は斷じて彼等の外泊するを許さず、室内は常に清潔ならしめ、一年數回内外の大掃除を行ひ、紙片、塵埃を散布するが如き事なからしめたり、かくて若干の年月を經過せし後、余は更に此種の家屋を增築

微かに水の滴るゝ音を聽きたれば坐ろ蘇生の思を爲し手巾を杖頭に結びて試に罅隙中に差込み、引出せば正しく水晶を欺く露の雫なり、斯する事幾百回にして適當の水量を得たれば私に天の恩寵の渥きを謝したり、かくて巖頭には棹を樹てゝ帆布を飜へし、之を遭難の信號として只管救助船の到るを賴みたるが、偶々沖行く船の帆影を水天髣髴の間に認むることあるも、あはれ霧の中に消ぇ入るさま言ばん方なき心地せり、幸にして十日目の早朝一隻の商船同島に來着したれば、我等は天の救けと歡喜して直に小舟に飛び乘り、具さに事の次第を語りて歸航するを得たり、後にて聞く所に依れば遭難當時快走艇に殘留せる水夫二人は我等の不在を機として、搭載せるラ、ム酒を傾け、醉の發するに連れて風愈〻烈しく、終に操縱の自由を失ひ、顚落して二人共に溺死し、給仕の少年は檣頭に取り付きて數時間沖合に押し流されしが、恰も好し通行の船に救はれたりと、是より先き余は後年の紀念の爲にとて野菜類の種子を携へ行けるが、孤島に滯在の折、少許の平地を鋤きて胡蘿蔔キャベツ等の種子を蒔きたれば後日余等と同樣の遭難者あらば、多少之が爲に利する所あるべきを信ずるなり』

せたり、軈て臥床の用意を爲さんとて乾きたる砂を掻寄せ方六十呎ばかりの地を劃して防水布を敷き詰め、毛布にて蔽ひ、一行は思ひ懸けなき露營の夢を見るとゝなりたるが、風力意外に烈しく徹宵睫を交ふる能はざりき、心元なき一夜を過して明くれば空稍霽れたれど、命の綱と頼む小舟は波に搖られて行衛知れずなりたるに、今は詮方なく唯沖行く船の救助を恃むのみ、先づ携へ來りし食料の檢査を行ひたるに、燕麥八封度、菜豆八封度、扁豆十四封度、玉蜀黍十二封度藕粉三封度、麵麭の大塊四個、キャベツ及馬鈴薯各四封度外に橙子十二個を算せり、之にて十日間の生命を繋ぎたる余等の苦心は察するに餘あるべし、されど若し吾が家族にして平素生肉若しくは牛乳等を用ひたらんには或は粗食の爲に衰弱甚しく、之が爲に斃れたるやも知るべからず、現に肉類とアルコール性の飲料を用ひたりし水夫等は元氣銷耗して毫も血色なかりしが、平素一切の刺戟物を用ひざりし我等夫婦及三人の兒女は談笑自若として平生に異ならざりき、斯かる場合に於て最も必要なるは飲料水なり、此時余は海鳥の巣窟たる、彼の洞中に入りて四方を見渡したるに、巖底に青苔あり即ち急歩して之に接近すれば一隙罅の在るあり、耳を欹てゝ之を窺ふに、

を向くるに忍びず、唯其卵千個ばかりを拾得せるのみ、更に洞窟を出でゝ頂上の平地に達すれば數頭の山羊徘徊するを見たり、是れ恐らくは難破船の名殘なるべし、此處海面を拔くこと約二百呎四面奇石怪巖を以て圍まれたる好箇の牧場なり余等は雜草の上に蹲まりて例の如く野菜づくめの夕餉を濟まし、暫ばしは風光の美に打れつゝ兒女を相手に談笑に時を移したり』。

△大危難の到來と菜食主義の效果

『軈て洞口に歸りたる時、俄然一陣の暴風吹き來りて天候の穩かならざるを示し、海上は見る間に一面の白沫を飛ばして巖角を打つ激浪の音宛がら耳を聾する計りなりしかば、一行は生きたる心地もなき折柄、巖頭に上りて冲合を眺め居たる一人の漁夫馳せ來りて快走艇は錨を斷て漂ひ去る模樣なりとの報告有しかば、驚破一大事と余は長子を伴ひ懸崖を攀ぢて展望すれば、唯黑風白波の荒れ狂ふのみ、快走艇の影さへ見へざるに、最早や是れ迄なりと覺悟を極め、一夜を此無人島に明かすに決し、先づ水夫に命じて小舟の中より豫て用意せる毛布、毛皮、防水布の類を取寄

一行遊意禁じ難く、其漁夫を水先案内と爲し急航して之に近づけば巨巖突兀として空に聳え、巖根に激する怒濤澎湃として船を覆さんず勢なれば、快走艇を、半浬の沖合に繋ぎ、若干の糧食と雜品入の葉鐵函を携へて小舟に搭じ、全力を盡して漕ぎ出でたるが懸崖の間に幅二十呎奥行百呎許の罅隙あるを認め、巖角に激する怒濤を冒し、辛うじて此間に乘り入りたり、屏風の如き斷崖の間僅に小舟を横ふるに足るべき小舢洞あり、水は紺碧の色濃く、其深さ幾千尋、一種言ふべからざる幽絶悽絶の氣に打たれたれど、天半斜に落下して巨牛の飲まんとするが如き巖角は幸に自然の埠頭を爲して碇泊に便なりしかば、直に船を繋ぎて其巖根を攀ぢ上りぬ、余は從者をして舟中の雜品を持ち來らしめ、島内隈なく探檢の末一大洞窟を發見せり洞窟の入口は一個所にして、洞口を入れば道左右に岐る、右なるは下に向ひ左なるは斜に上を指す、右方の洞窟は殆んど直角に百五十呎許の深さに達し、洞底を窺ふに由なければ、左方の洞口に入りたるに其高さ五十呎に達す、是れ即ち嚀に高き海鳥の巢窟にて鸕鷀、海鷗、海雀の類幾千羽あるを知らざれど、人類の恐るべきを感ぜざるにや、之に近つくも飛び去るの狀なきに、余は其可憐なるさまを見て之に銃口

に冒さるゝことなし、余は此不意の事件に遭遇して一層菜食の必要なるを感じ、余が子女にして若し余の臨終の際純然たる菜食家並禁酒家たるにあらずんば、遺産の一錢たりとも讓與すまじと決心せり』。

△海上遊覽の途に上る

『回顧すれば余の半生は一身一家の經營に忙殺せられ、結婚以來殆んど十年間生來好める海濱の風光に接するの機會なかりき、此時少しく餘裕を生ずるに至りしかば、千八百四十六年の夏、風光明媚なる愛蘭の海岸に約二個月の豫定を以て快走艇遊覽を企てたり、一行は家族五人の外に四名の水夫及一名の給仕あり、四噸の快走艇を買ひ切りてリバープールを出帆したるは五月の初旬なり、軟風甲板を拂ひ海上波靜かなりしかば、私かに首途の平安を喜びつゝ數晝夜にして愛蘭の西北岸に到着したり、一行は更に艇首をアラン群島に向け帆影稀なる絶海の奇勝を探らんとす、時に一漁夫の語る所に據れば海中に一巨巖あり、高さ數十呎周圍三哩に亘り、中腹に大なる洞窟ありて一種の海鳥幾萬となく棲息すとのことなりしかば、余等

一人十四歳の少年なりしかば到底業務監督の任に堪へざることゝて、其後見者は會議を開き、余に托するに業務監督の全權を以てし、一年の報酬を七千五百圓と爲し、執務時間を延長せん事を請求したり、余は六個月後に至り、時間の都合上自個の營業に多大の損害あることを發見せしかば、即ち後見者に告ぐるに余を組合員の一人と爲すにあらずんば斷然引退して不本意ながら競爭的業務を經營せざるべからざる旨を申込みたるに、後見人は協議の末一萬五千圓の報酬にて終身組合員と爲し、當主子なくして歿する時は利益の三分の二を與ふべしとのことなりしかば、余は承諾の旨を答へ證書に調印したり、爾來余は全力を盡して本業に從事し、斷然競爭的計畫を一擲したり、是に於て余は宏壯なる邸宅を造り馬車を購ひ、二人の園丁を置きたるが、一年の支出一萬二千圓を出でず、余の妻は全く其業務を棄てゝ專ら子女を養育することゝなり、かくて四年を經たる後、不幸にも商店主たりし少年は一朝浴後の感冒より肋膜炎を起し數日にして歿せり、元來彼は醫師の愚説に基き、ビール、牛肉、煙草等の刺戟物を貪りしかば、終に其身體を病魔の犧牲に供せしなり、菜食家は消化器完全にして皮膚及び呼吸器至て強壯なれば、寒氣濕氣等の爲

貴下の業務と競爭するに足るべき大商店を設立し、余を擧げて總支配人と爲さんとの申込みを受けたるも、貴下に於て余に充分の報酬を與へらるゝに於ては年來の厚誼上余は好んで貴下に不利なる事業を起すものにあらず、余は一年四千五百圓を要求す、然らば唯餘業として器具販賣の業務に從事せん」と、主人は復た直に此要求を容れたり、余は是より席を別室に移し、五人の事務員を指揮することゝなりたるが、社會の信用も日に加はり、公會の席に出てゝも天晴れ紳士たるの待遇を受くるに至れり、是に於て余は常に地位相當の服裝を着け、三人の下婢と一人の給仕とを使役し、市外の閑靜なる處に果樹園附の邸宅を設けたるも、生活は依然として菜食主義を採り余の商店より受くる報酬以内にて一切の費用を支辨し事業の純利を擧げて資本に算入したり』

△菜食主義と健康

『一年を經て商店主(兄弟二人)は愛蘭觀光の途に上りしが、歸航の際暴風雨に遭ひ兄弟共に甲板より吹き落されて不幸にも非命の死を遂げたり、家に殘れるは兄の子

り、バーミンハム及シエッフイールドの商店は次第に余を信用して商品の融通自由なりしより、余は更に業務を擴張して一棟の倉庫と一人の書記とを要するに至り結婚後四年目の年收入は優に一萬五千圓を超過せり、余は之よりして一個の資本家と爲り濟まし、大飛躍を試みんとするの希望を懷きたるが、先づ余の實力を他に知らしむる必要あるを認め、主人に告げて曰く「余は既に少なからぬ貯金を有するのみならず、余の妻亦一個年純利一萬五千圓以上の收入ある業務に從事せり、余は好んで本業を棄つるの意とてはなけれども、余の給料を一年二千五百圓に增加するにあらざれば、或は辭任するの已むなき場合に至るべし」と、主人は直に此要求を容れたれば、余は私に其成功を喜べり。』

『結婚後六年目には既に三人の子女を有し、二人の婢僕を使役するに至りしを以て家屋も自然狹隘を感じ更に一棟を增築せり、一日出火の爲め倉庫並家財一切烏有に歸せしが五十萬圓の保險契約ありし爲め、毫も損害を蒙らざりき、余は之を好機會として直に主家を訪問し「余は既に業務の何ものたるを心得且つ各方面の有力なる資本家は余を信用すること頗る深く、若し余にして資金八十萬圓を投ずれば

販賣とを兼ねしかば、工場には常に百人内外の職工を使役したるが、此等の職工は皆市中にて高價なる職業用器具を求むるを常とすれど、バーミンハム及シェッフィールトにて購へば、比較的に廉價なるを知り、余は自から其地に赴きて之を求め一割八分の利益にて賣付けたるに、一週間内に悉皆品切となりたるのみならず、土地の習慣として更に賣價一割の手數料を得たり、後バーミンハム及シェッフィールドより一個月の契約にて委托販賣の申込を受け、手廣く職業用器具を賣り出したれば、年末には千五百圓の餘裕を生ぜり、余の妻は常に帳簿整理の任に當り、余は販路の擴張に從事したるが、業務隆盛なるに從ひ家屋の狹隘を感じたるより、更に他の一室を借り受けたれども、菜食主義は依然として厲行し、經費は一錢たりとも增加せざりき』。

△事業の成功と菜食主義

『其後一人の職工長誤て其腕を傷け、職務に堪へざることゝなりたれば、余は之を傭うて助手と爲し、他の諸工場を巡廻して職工用器具の販路を擴むるに務めしめた

野菜は日々之を用ひたり、朝食には必ず挽割麥叉は玉蜀黍の粥を作り、麵麭に和して食ひ、牛酪、牛乳、茶、珈琲等は一切之を禁じたり、但し茶は時宜に依り、夕刻之を用ひたることあるも、通常飲料に供せるは冷水なりき、余等夫婦は十二月に結婚し、翌年十一月に至りて玉の如き男子を擧げ、私に將來の好運を祝し合へり』

△事業擴張と菜食主義の勵行

『出產の後數日を經て商會主の夫人は余等二人を訪づれ來りたるが、翌日に至り一週九圓に增給の沙汰に接して余は天にも昇る心地せり、余は妻の懷姙以來薄給の身にて充分の手當も爲し難きを懸念し且つ妻をして純然たる子守女たらしむるは余の欲せざる所なりしかば歡喜の中にも前途少なからぬ不安の念を抱きしなり、然るに思ひ懸けなき此吉報に接したるより、余は直に少女を傭ひ入れ、强いて菜食主義者たらしめ、給料としては最初の一年間一週二十四錢の約束を結べり、かくて結婚後二箇年にして百圓の貯蓄を有するに至りたるが、余は更に工夫を廻らして事業を經營するに足るべき資金の出處を求めたり、余の出務せる商會は製造と

決して他に歸がざるべき旨を述べたるに、其父は大に之を憤りたれども、石より堅き同婦人の心を飜すべくもあらざりき、かくて二年を經過して余が二十歲に達せし時、余は改めて其父を訪ひ、結婚の準備整へたれば、其期日を決定せられたしと告げたるに、彼は喜んで余の手を握り、答へて曰く「余は滿足なる承諾を與ふべし」と余等の結婚は此時始めて確實に成立したるなり、元來父なる人は至て好人物なれども、母の權勢强くして事毎に父を凌ぎたれば、彼は心ならずも妻の意に從ふこと多かりしなり、父は遠からず新婦となるべき其女の爲に衣類其他の用意を整ひ、外に手當として百圓、流石の母も二十圓を與へ、兄弟等は美しき一卷の聖書を贈りたるが、何人の手になりしか其裏面に「十日の後に至れば王者の盛餐に飽きたる子等よりも、彼等の顏色は輝き渡りて頰豐かならん」と文字鮮かに記されたり、かくて余等二人は花に狂ふ双蝶の如く春風に醉ふらん心地樂しく月日を送れるが、例の菜食主義を實行せしことゝて一週僅に五圓を費せしのみ、仔細に計算すれば、室代一圓七十五錢燈火及燃料五十錢、食費一圓七十五錢其他臨時費一圓にして、一週間の重なる献立は三回の豆スチュー、二回芋汁、二回の玉子燒等にして胡蘿蔔蕪菁其他の

するに至りたれば、余は之を以て藁褥、敷物、及枕を購入することを得たり、越えて一年を經過せし後約百二十圓の餘裕を生ぜしかば、之を以て家具什器を備へ室内を飾りて意中の人を迎ふるの準備を爲したり、余は屢一婦人(と語りて傍に座せる夫人を指し)を招待して茶話會を開き、日曜每に打連れて敎會に赴くを常とせり、其婦人は余と同年にして殘酷なる繼母の虐待を受け、剩さへ七人の子を有する四十五歳の鰥夫に嫁せしめんと强ゐられたるも斷乎として應ぜざりき、當初其父は余等二人の婚約を是認したれど、有力なる候補者の現はれ來りたるを見て心動き、余の出入を禁じたれども、余等二人の交情は容易に冷却すべくもあらず、余は更に二室を借り受け衣服一二枚の着換を有するに至らば直に結婚すべきを約したり、同婦人も亦余の菜食主義に倣うて一切肉類を用ふまじと決心したるより余の菜食主義は玆に至りて最も有力なる同志を得たりしなり』

△菜食主義と新婚後の經費

『同婦人は一日其父に向ひて一旦既に其意中の者との婚約を承諾したるからには

關しては根氣と力量とに於て遙に同輩を凌駕したるも、收入は依然として一週五圓なり、されば余は已むなく先輩の一室を一週七十錢にて借り受けたるが、此室には一個の架床あるのみ、夜具卓子其他の什器なかりしも、余は一物も他人の助力を借らざるべしと決心し、母より與へられたる大形の風呂敷に手を加へ藁屑を入れて掛布を造り、此覺束なき寢具の中に起臥したり』

△菜食主義と貯蓄心

『されど幸に菜食主義を實行せしかば、食費としては一日僅に十二錢を費すに過ぎざりしも、比較的滋養物を口にするを得たり、常食品として豆一ポンド、麵麭四ポンド、キャベツ二個、馬鈴薯三ポンド、種油、及び一ポンドの米、是れ余が一週間の食料にして皆滋養分に富みたるものゝみなりき、其頃兩親より菓子一籠を送られたる事あり、之を口にしたきは山々なりしも、頗る嚢中の欠乏を感ぜし際なれば、之を賣却して金錢に換へたり、かくて一週費す所食費八十六錢、宿料七十四錢、燃料及燈火三十八錢に過ぎず、斯くて一週三圓弱を貯蓄し八週間の終には二十餘圓の財産を有

第十一章　克己奮闘の成功家

△菜食主義の實行家

英國知名の一記者ナピール曾て『フレーザース、マガジン』誌上に於て一菜食家の成功實歷を述べて曰く『余は一日思ひ懸けなき一老紳士及其夫人の訪問に接せり、紳士は年來の菜食家にして、六十五歲の高齡なれども顏色鮮かに體力强健、一見四十前後の壯年者に似たり、老紳士語て曰く余は千八百十一年英蘭の北部に生る、父はさる敎會の牧師にして兒女十二人を有し。余は實に其長子なり、時に父の收入とては一年僅に三百圓に過ぎざりしかば、長く兒女を膝下に養ふ能はず、余は十四歲の時、一商店に傭はるゝことゝなれり、當初三箇年間は唯寄食するに過ぎざりしが、四年目には一週五圓の手當を受くるの身となりたれど、宿泊料其他の費用は之を自辨せざるべからず、其時、余は偶然菜食に關する書籍を一讀して大に感ずる所あり、直に之を實行し、之れより得たる餘裕を以て衣類其他の費用に充てんと決心したり、當時余年甫めて十七歲身長五尺六寸、生來强健の體質なりしかば、勞働に

へ、怒て店を立去らしむるが如きことあるべからず、

五、常に業務を擴張すべき機會を捉へよ。

六、商人は出來得る丈け廉價を以て販賣するの義務あるを忘るべからず。」

彼は常に此教訓を守り、業務に熱中したる結果、彼が如き大成功を見るに至りしなり、彼が熱心なる營業振に關しては頗る興味ある逸事少なからず、曾て古棺桶の注文を受けたるより、百方苦心の末之を調達せしが如き、又一人の好事家ありて、活ける蚤三合を注文し來れるより店員は皆之に當惑し、應答に躊躇せるを一喝し、之を快諾して使者を四方に馳せ、動物販賣店に赴き、平身低頭店主に乞うて其飼養せる動物の脊を櫛り、辛ふじて一合半の蚤を得たれば之を三合入れの桝に入れ『三合の桝に三合の活ける蚤を入るゝ時は空氣の欠乏より蚤は悉く死すべきに依り、注文通りの目的を達せんと欲せば三合桝に一合五勺を入るゝは最も安全の方法なり』と添書し、注文主に送付せるが如き、業務に對する熱心と勇氣とを備ふるは勿論、商業家として最も必要なる機才を有するものといふべし、此熱心あり勇氣あり機才あり、成功せざらんとするも得ざるなり。

彼は久しき以前より調査を行ひ、此地の人民は果して購買力を有せるや否や、又當時商業不振の原因は何れの點にありやとの問題を研究したるの結果、在來の各商店何れも非常なる高價を要求したるに起因することを發見し、頽勢を挽回するの途難からずと信じたるが故なり、是に於て彼は獨立獨行總ゆる困難を排し、最良の物品を最低價にて販賣するを營業上の方針と爲せり、彼れ曾て其成功せる所以に就き語て曰く『余が開業當時に使用せし店員は、僅に二人の販賣婦と一人の小僧のみなりしが、一年の後には十六人の販賣婦と二人の小僧とを使用し、爾來益其業務を擴張し、今日にては店員六千餘人を使用するに至れり、余が成功の原因は他なし、只普通商業家の熟知せる教訓數箇條を實行せしが爲のみ』、と、彼が所謂數箇條の教訓は左の如し。

一、賣買は極めて公平ならんことを期せよ。

二、自己の業務に就ては多大の興味を感ぜざるべからず。

三、欺瞞は最後の失敗を招ぐ所以なり。

四、決して顧客の機嫌を損すべからず、若し奇癖ある顧客來らば務めて其意を迎

之を見るや百年の戀一朝にして醒め果てたりと』、是れ一場の寓語に過ぎざるべきも、惜に今日の浮薄なる都會紳士なる者の境遇を活寫し得て餘りあり、青年實務家は斷じて此種の惡風に感染する事勿れ、

△雜貨商の成功者

先頃不幸横死を遂げたる倫敦の大雜貨商ホワイトレーの郷里を辭して始めてウエストボーン、グローヴに赴きたる時は知己なく資力なき貧寒の一少年にして、將來一大商業家たちんと欲するの希望を有せりと雖も、殆んと事業の端緒を發見するの機會に接する能はずして、生活上の困難に遭遇せしこと一再ならざりき、されど彼は自己の力量を信ずること頗る厚く、辛苦多年若干の資本を得て雜貨商を營まんと欲せしも、當時該地方の商況萎靡振はざりしを以て知友は彼に告ぐるに其不得策なるを以てし、斷然思ひ止まらんことを勸めたるも、彼は將來發展の見込ありと爲し、斷然此忠言を斥けて營業を開始せり、彼は何に依りて斯かる確信を持するに至れるか。

△虚飾は成功の大障碍

虚飾は成功に對する大障碍なり、即ち十圓の收入を以て二十圓の生活を營み、貧寒の境遇に在りて貴紳の風采を學ばんとするより危險なるはなし、此種の人物に在りて、貯蓄は到底思ひも寄らざるのみならず、結局負債は積んで山を爲すべし、生活狀態として不健全なる事之に如くものなし、サッカレー曾て此種の人物を描いて曰く『一紳士あり、美婦を娶りて偕老同穴の契り淺からず、出てゝは黑塗の母衣馬車を驅り、入ては裝飾美々しき高樓に起臥し、飮食什器に至る迄天晴れ紳士として の資格に於て欠くる所なきに似たるも、茲に不可思議なるは、自己の職業に關して一言も之を口外せし事なく、其實母すら其不審を解くに由なかりき、主人の每朝馬車を驅て家を出づる事は依然たり、美服を着けて歸るさまに變化はなけれど、新婦聊か心安からず、如何にしても、新郎の職務を探知せんと欲し、一日母と相携へて市中を逍遙したるに豈に圖らんや、吾が新郎たる紳士ともあるべき者、一公園の片隅に見る影もなき服裝に身を窶つし、塵に塗みれて勞働に從事し居らんとは、新婦は

より觀察すれば亦是れ一個獨立の人物にして、或る意味に於ては尊敬すべき生活上の原則を恪守せる者なり、生活程度の低きを問ふ事勿れ、彼等は進んで隣人の急に赴き、社會共通の公益の爲に其力を致す事能はずと雖も、一個人としては能く一國の良民たるべき職分を全うする者なり、之を彼の徒らに貨殖するの道のみを講じて人生の歸趣の畢竟那邊に存するかを知らず、日夜無辜の貧民を苦しめんが爲に貪婪飽く事を知らざる嗇吝漢と對照し來れば、彼等は却て健全なる人生の意義を實行する者と謂ふを得ん、世人往々自己の功名を求むるに急にして他の利益を犧牲に供し、恬として之を顧みざる者の如き、縱し致富の道に成功せる者にても、其人格は眞面目なる一勞働者にだも若かざるなり、此等賤しむべき致富家とても、貨殖の爲に奮闘せる其勇氣は珍とすべきも、唯人格の光明を欠けるが爲に其位地名望財產を擧げて却て其身の累たるに了へしむるは遺憾なりと謂ふべし、吾人が最も尊敬すべき紳士富豪と稱すべきものゝ、多くは貧寒憐むに堪へたる勞働者より起れるは偶然にあらざるなり。

くして可ならんや。

△寧ろ尊敬すべき勞働者の生活

大都會は一面に於ては人生飛躍の好地域なりと雖も、翻て他の暗黑面を見れば、其生活狀態の悲慘を極むる、人をして坐ろに人生行路の難を思はしむ、彼等の中には一家數口を擁して日々糊口の道に窮するものあり、試に貧民窟の光景を見よ、唯其生を繋がんが爲に、未明より深更に至る迄風雨寒暑の別なく、營々として勞働に從事す、紙片を拾ふもの、竹頭木屑を集むるもの、牛馬と伍して貨物を運搬するもの等果して玆に人生の意義ありやを疑はざるを得ず、躰力軟弱にして容姿の嗜み深かるべき筈の婦人さへ、自然の約束に背きて荒々しき作業に筋骨を勞し、色黔み肉落ちて見るに堪へざるものあり、加之頑是なき六七歳の小兒迄、其後に跟隨して衣食の資を求めざるべからざるに至ては人間生活上慘中の慘といふべし、是れ實に我が文明の中心たる都會生活の半面なり、此等の階級に屬するものは一面より見れば、社會上殆と其存在を認められざる不幸の境遇に呻吟するものなりと雖も、一面

を濡ぎたる貧兒の後身にして、遂に英國航通業界の大人傑と呼ばれ、有名なるヂロン、モリソン會社のヂロンの實歷亦之に類す、キャムベル卿の流浪時代には『モーニング、クロニクル』新聞の通信員兼劇評家として僅に生計を立て、穀物條例に反對せる政治家中のジョン、フオックスも『週刊デスパッチ』誌上に投書して一週間十圓餘の報酬を得て狂喜したるが如き其苦心察すべきなり、化學者マイケル、ファラデーは鍛治職の一子なりしを記憶せよ、著述家リッチェーの記錄中に曰く『余が郷里の近村に一貧兒あり、然るに一日倫敦の一敎會に臨みたるに其貧兒は敎會の一委員として周旋せるを見、彼が曾て目に一丁字なかりしを回想して且つ驚き且つ喜び、先づ其故を問へば、少年答へて曰く余は人たらんか、將た鼠たらんかを決せんが爲に倫敦に來れりと、大都會に出でゝ其運命を開拓せんとする者は皆此種の境遇に在りて奮鬪するを常態とす』と、倫敦市の街上に巍然として聳ゆる大厦高樓は、多くは曾て身に一錢の貯蓄なかりし者の所有に屬す、更に同市の近郊に至りて輪奐の美、人目を奪ふ別莊の主人を訪へば、年少日夕米鹽の資に窮して、窮巷に彷徨したる一貧兒の後身多きに居るを見ん、年少にして四方の志ある者豈に大に自任する所な

△都會に入りて成功せんとする者の用意

都會は誘惑の府なり、總ゆる罪惡は道に塞がりて純朴なる青年を捉らへ去らんとす、殊に世態人情に迂なる田舍青年の茲に來て自家の運命を開拓せんとする者に至りては其危險は一層甚しかるべし、斯かる境遇に身を處する青年は宜しく其抱負を遠大にし、信念を堅固にし、飽く迄周圍の誘惑と戰はざるべからず、古來都會に在りて大業を成せるものは田舍出身の青年に多し、思ふに此等の青年は自己の天分技倆を信ずる事甚だ深く、且つ其身貧寒洗ふが如きもの比々として皆然るが故に、能く都會の惡風に感染する事なく、其初一念を一貫して最後の勝利を見るに至れるなり、見よ、倫敦市長の要職に就きたるもの丶中、其大部分を占むるものは、同市役所の給仕たりし者なるを。

繪入倫敦新聞の創業者にして且つ代議士たりしハーバート、イングラムは、少にして家甚だ貧、街頭に出で丶通行人の靴を磨ぎたりといふ、其奮闘的生活の光景眼前に髣髴たるの感あり、英國東洋滊船會社の經營者たるアンダーソンは陋巷に菓子

指の素封家にして銀行頭取を始め各種の事業に關係しながら著作家として、科學者として有名なるジョン、ラボックの如く、彼が最後の目的は寧ろ純然たる科學者となりて、學界に寄與せん事を期するに在りたれば、爾來其思索を學術研究上に專らにし、其後半生を一貫したり、彼れ能く其地位財產及び天分を利用したるものと謂ふべし。

然れども吾人は如何なる事業家富豪家に對しても學者たらん事を要求するものにあらず、今日の如き複雜なる事業界に在りては、其從事せる專門事項に精通する事すら容易ならず、されば一般事業家に在りては、各自其事業の爲に極力奮鬪するの傍、少なくとも學者の說を聽き、文藝の趣味を解し、餘力あらば、社會の公益に對して有形無形の援助を爲す事最も必要にて、蓋し富豪たる者の職分なるべし、人格高からざれば富の眞價を發揮する能はず、故に富豪も亦精神上の修養を怠るべからず、米國の富豪カーネギー翁が其富の大部分を割いて社會公共の事業に投じ、學術の進步に貢献する所甚だ大なるが如き、富豪として摸範的實例を示したるものと謂ふべし。

の事業に貢献する其二なり、二者固より一を優とし他を劣とすべからず、財を利用するに於ては其揆一なればあり。

英國近代の富豪にして學者たるガムペルッの如きは、即ち其第二者として能く處世上尊敬すべき理想を實行したる者なり、彼は千七百九十九年を以て倫敦に生る、父は和蘭人にして富裕なる寳石商なりしかば、其少年時代には幸福なる生活を樂しみたれども彼は其志操頗る堅固にして誘惑の爲に一生の方針を誤るが如き事なく、孜々として學術の研究を勉めたり、彼れ頭腦明晰にして最も數學を好み、青年にして新對數表を考案し、之を公にして專門家を驚かしたる事あり、三十歳にして取引所の事務員となりしが、其業務に熱心なると共に、生來の嗜好に適せる數學の研究漸く深く、生命保險事業に關する必要なる各種の統計表を作り、事業の方針を示す等其功績顯著なりしかば、聯合會議所の總支配人たる要職を占め、其緻密なる調査と明敏なる觀察とは、同業社會の驚歎する所となり、信用は漸く厚うして其間に蓄積せる財産亦意外の多額に上りたるを以て、更に之を利用し活用せば大富豪たらん事決して期し難きにあらず、されど彼の目的は玆にあらず、猶ほ現に英國屈

より自活するの已むなき境遇に長じ、十九歳の時一旦木工を以て職とせしが、後奮然として志を立て、印度に赴き、二箇年間勞働の結果、多少の餘裕を生じたるより、更に倫敦に歸りて建築業に從事し、六箇年の苦心其效果空しからず、意外なる巨利を收めたるより、終に地をグレーン、イン、ロードにトして大に其業務を擴張し、建築業者中彼に比肩するものなく、其財產一千萬圓の多きに至れり、彼は頭腦明晰、精力過絕、業務に對して頗る嚴格なれども、家族及び職工等を遇する懇切を極め、常に彼等の相談役となりて、訓誡を與へ、彼等の利害問題に對しては諄々之を說いて倦む所を知らざりしといふ、事業に於て大成するものは必ずや如是の用意あり。

△財を利用するの道

人は麵麭のみにて活くるものにあらず、如何に巨萬の富を有し、高樓に豪奢を極めたりとて、決して眞に能く人生の職分を全うしたるものといふを得ず、思ふに致富に就て目的とすべきもの二途あるべし、財を無限に積み財を財として之を利用する其一なり、或る適當の額に達するに及んで其能力を精神的方面に轉じ、社會公共

は堆積せる書籍を指し、先づ之を梱包せんことを委托したるが、是れ實に彼が出版業者としての首途なり、彼は事業家としては機敏にして大膽、毫も勞力を吝むの風なく、朝夕渾身の精力を事業の經營に注ぎ、其成績顯著なりしより、忽ち傭主の識拔する所となり、莫大の報酬を受け、後ち獨立して出版事業を營み、着々として巨利を占め、倫敦有數の大富豪とはなれるなり。

千八百四十一年倫敦市長に選擧せられたるジョン、ビリーは當選の祝宴に臨み、席上に於て述べて曰く、『回顧すれば今より四十年前、飄然トウィード河畔の寒村より出でゝ倫敦に來れる時は、余は見る影もなき一貧兒に過ぎざりき、饑寒に迫りし事一再ならず、今日の如き光榮ある地位に上らんとは、當時夢裡にだも思ひ及ばざる所なりき』と。

有名なる倫敦市長ケリーも亦少にして逆境の裡に成長し、一書肆の賣子となりて田舍地方に行商を試み、後ち獨立して書籍業を營み、勤儉貯蓄主義を勵行して多大の資產を積みたるが、市政に參與するに至りて一層の人望を博し、千八百三十六年遂に倫敦市長に選ばれたり、建築家として盛名隱れなきトーマス、カビットも亦少時

道を忘れ、少しく餘裕を生ずる時は忽ち一攫千金の空想に驅られ投機業者の顰に倣うて、折角の資本を濫用し、終に財嚢を空しうして始めて自ら悔悟するに至るもの比々として皆是れなり、青年實務家は深く此點に注意する所なくんばあるべからず。

△貧少年の奮闘實歷

貧少年にして遠大の志を抱き奮闘力行の結果始めて成功せる者の實歷は有爲の青年に對する好個の興奮劑なり、一時英國出版業界の帝王と呼ばれたるトーマス、テッグは恰もモリソンの倉庫業に於けるが如く活動を以て其一生を終始せり、彼は十六歲にして倫敦に出で、獨力を以て自己の運命を開拓せんと欲せしが、孤影煢然他に賴るべきものなかりしより、彼は先づ書籍商ニューマンなるものを訪うて、適當の職業を授けん事を乞ひたるに、ニューマンはテッグの風丰を一瞥して曰く、『卿は如何なる事務を處理し得るや』と、テッグ之に答て曰く『貴下の命ぜらるゝ所は何事にても可なり、余は唯常に社會有用の人物たらんことを期す』と、ニューマン

獨立して一小商店を開きたるが、其勉强と忠實とは普く顧客の信用を得て、漸く其業務を擴張し、年六十に及んでは何時しか其財産一千萬圓に達せる富豪とは爲れり、又倫敦のホルボーン街頭に巍然として宮殿の如き大工場を有するミーキングが曾て憐むべき一工場の徒弟なりしを記憶せよ、人動もすれば他の成功を見て奇績の如くに思ひ、勤勉努力の結果なるを察せずして、之を所謂天佑ある僥倖者と爲す、此種の觀察を爲すものは富豪を以て天才と爲し、猶ほ詩人の詩に於けるが如く、致富の道は何人も希うて之を學び得べきものにあらずと爲す、是れ誤見も亦甚しきものなり、富豪は決して所謂天才なるものにあらず、今茲に一商人あり、自己の收入以内にて生活を送らんと欲するものありとせよ、縱し其商人は如何に愚直にして征利の材幹鈍なりとするも、決して其收益の一錢たりとも多からん事を望まざるの理なし、坐して收益の多からん事を期するは即ち消極的なる貨殖の方法なれど、若し進んで事業を經營し商才を適用し活用して勤勉努力せば資産の增殖は何人にても實行し得べし、決して詩人の詩作に於けるが如きものにあらず、然るに世人多くは此理を解せず、其所得を飲食の爲に濫費して、零砕なる資本を集注するの

對し、好個の實際的敎訓を與ふるものと謂ふべし。

△致富の道は天才を要せず

古來貧兒より立身せる富豪甚だ多しと雖も、其如何にして致富に成功せしかを見るに、其法敢て人目を驚かすものあらず、多くは正式の敎育を受くるの機會なかりし、殆と數學文學の何ものたるを解せず、甚しきに至ては自己の姓名をすら記する能はざるものあり、されど獨立自營の道を講ずるの點に於ては碩學鴻儒も亦遠く之に及ばざるものあり、即ち此材能を發揮して、一家を經營し、進んで社會公共の事業を計畫し、國運の進歩に資するの効果に至ては平素之を蔑視する政客輩に比して其優る事萬々なり、固より學術上の智識なきも、其頭腦は明晰にして身躰は强健なり、且つ能く職分の何ものたるを解して、人生の行路を誤らざるが如きは後進靑年に對して實に活ける敎訓なりと謂ふべし。

倫敦にジエームス、グーレーと呼ぶ一リンネル商あり、彼は幼時市立孤兒院に在りて小學敎育を受けたるのみ、出でゝ一商店の給仕となり、十數年間勤續の後、始めて

盛を極め、一時英國の財界を壓倒するの槪ありしより、同業者は彼を呼んで事業界のナポレオンと稱せり、同業者深く彼の成功を嫉視し、合從して包圍合擊を試みたるも、彼の根帶牢乎として拔くべからず、何れも見苦るしき失敗に陷り、却て哀を彼に乞ふの已むを得ざるに至れり。

當時彼の財產は英國內に在るものゝみにても約三千萬圓以上に達し、米國其他に放下せる資本亦驚くべき多額に上りたるが如し、要するに利益を少うし、收益を速かにし且つ多からしめんとするもの彼の後半生を一貫せる主義にして蓋し商業上の原則として何れの塲合に適用するも誤る事なかるべし、彼は天性美術を愛し、思想富瞻にして談論湧くが如く、選ばれて代議士となるや、鏘々たる專門政治家と馳騁して毫も遜色なかりしが如き亦以て尋常牙籌の人にあらざりしを知るべし、彼が多數の同業者を凌駕したる所以のもの、單に其商略に於て成功したるのみならむ、其氣品に於て材幹に於て、遠く超越したるものありたればなり、目前の小利に汲々として、絕えて永遠の計を廻らすなく、氣宇狹小蝸牛角上の紛爭を事とするが如き者は到底大業を成就するに足らず、此點に於てモリソンは能く靑年實務家に

に十錢の蓄なきのみか一人の知己朋友だにもなく、窮して市中を彷徨したるの末、傭はれて一倉庫の役夫とはなりたるが、是れ彼が將來倉庫業者として大成功を博するに至るべき端緒なり、役夫としてのモリソンは勤勉にして忠實なりしより、忽ち其傭主の注目を牽き、抜かれて組合員の一人となり、終に傭主の一女と結婚するに至れり、此結婚は彼に取りては殆と豫想以外の事件にして、之が爲に得たるの便宜亦甚だ多かりしも、實際事業上の成功は職として彼が非凡絶倫の技倆に由らずんばあらざるなり、彼が五十年の生涯は悉く活動の歴史なり、社會上に於ける需要供給の關係に對しては常に鋭敏なる觀察を怠るなく、事毎に機先を制せるのみならず、絶えず其事業に改良を加へ、以て顧客の利益を增進せん事を力めたるより、信用は漸く厚く收益は益々多く、遂に同業者中嶄然として傑出し其牛耳を執るに至れり。

時は恰も歐洲大陸に於ける大戰亂の後を承け、英國の富力は大に增進するの際なりしかば、彼は直に事業經營の方針を一變し、其利益を少うして多數の顧客を招致し以て資本の運轉を圓滑ならしめんと企てたるが、其計畫圖に中りて、業務愈々隆

口を開いて答ふらく『さればなり、貴家若し餘分の燐寸を所有せられなば、先づ令息をして之を賣捌かしめよ、是れ好個の事業なるべし』と、其言少しく奇矯に失するの感なきにあらざるも、大富豪の小事を忽諸に附せざるの用意此數語に於て明かに認むる事を得べし、ロスチャイルド一家の驚くべき成功は實に此細心にして零碎の利を重んずる苦心の結果なりと知るべし。彼れ又曾て後進子弟を戒めて曰く『余が今日の富を致したるの道は他なし、世人は多く事物を大袈裟に吹聽するの病弊あるが故に、株券の少しく騰貴する傾向あるを見るや、直に之を買ひ占めて必ず巨利を博し、少しく下落するの兆候ある時は速に之を賣却して暴落の大損失を免るゝを得たり、此理一見甚だ明白なれども、機慧なる觀察と敏速なる決斷とに由らずんば成功し難し、要は平生の修養に在り』と、適に其卓見一頭地を抽んずるものあるを知るべし。

△商業界のナポレオン

倫敦に於ける近世倉庫業の泰斗ジエームス、モリソンは幼にして倫敦に赴くや、身

遂に世界富豪中の富豪たるに至れるものなるが、彼が日常生活上の用意を見るに、確實緻密一錢一厘の微と雖も之を浪費したる事なかりき、曾てサー、トーマス、バックストンに語て曰く『余平生以爲らく、他人の成す所にして己れ之を能くせざるの理斷じてあるなし、若し余の長所とも言ふべきものあらば、何事に對しても極めて無造作なるの一事にして、取引を爲すが如き場合に於ても頗る迅速なり、余は迅速を尊ぶも輕佻怜悧なるを忌む、斯かる人物の論議する所を聞けば道理至極なるを覺ゆるも、實際事業に着手するに當りては失敗するを免れず』と、其用意の如何に周匝なるかを察するに餘りあり、彼れ曾てバックストンの一子を戒めて曰く『卿は宜しく其從事せる酒類釀造業の爲に全力を傾注すべし、其事業に忠實なるは是れ唯一の事業成功法なり、卿は幾何もなくして倫敦市中有數の釀造家たるべし』と、彼れ果して倫敦屈指の事業家と爲れり。

ロスチャイルドー夕宴席に於て、一貴婦人より、如何にして其子の事業に失敗なからしむべきか、適切なる忠言を請ふとの唐突なる依賴を受く、同婦人は彼の訓誡を聽かんと欲し、再三之を促して止まず、彼れ聊か當惑の躰なりしが已むなく徐ろに

と欲し、有力者の集合より成れる設立委員に二十萬圓を寄附して會場建築の費用に充てしめ、其他開催に必要なる萬般經費の支出總計百萬圓の多額に達せり、爾來愛蘭人も彼が目覺ましき活動に對して感謝の意を表し、自ら鼓舞奮勵するに至りたるが、馬車王ビアルコニと併せ稱して人之を愛蘭の二恩人といふ。

第十章　青年實務家に對する要求

△ロスチャイルドの致富訓

英國の名譽を世界に代表するもの二三にして足らずと雖も、富豪ロスチャイルドの如き亦其一に算せらるべし、抑も彼は如何にして斯かる巨富とはなりたるか、吾人は先づ彼が如何なる致富上の用意を有せるかを研究せん。

初代ロスチャイルドの始めて倫敦に出でたる時は其資本僅に二萬圓に過ぎざりしが、彼の征利に敏なるや、東印度商會の金塊を買ひ占めて一躍六十萬圓の巨利を占めたるを第一着の成功として、果斷機敏の運籌適く(ゆ)として功を奏せざるはなく、

て吟呻せし際、貧民に對する貸金の割引計算に於て四十錢の差を生じたるを發見したるが如きは金錢に對する感覺の極めて鋭敏なりしを證すべし、由來彼が自敍傳として世上に流布せし一小册子は其一女なるオーコンヂル夫人の手に成りしものなり、唯夫人は專門著述家ならざるが故に其精神を活寫して讀者に多大の感化を與ふる能はざるは遺憾なりと謂ふべし。

元來愛蘭人の多數は唯費すを知りて勤勉を好まざる放逸無爲の陋習あり、外來の一貧兒をして此成功を博せしめたるも之が爲のみ、獨り鐵道受負業者たりしサー、トーマス、ダーカンの如きは此遊惰の人民中に在りて一頭地を抽んずるものなり、彼は少時普通學を修め、後一測量師の事務所に在りしが、奮然志を決して英蘭に赴き、テルフォルドに從ひ、ホーリー、ベッド道路改築の工事に從事し、竣工の後鄕里に歸りて幾多の小事業を企てたるが、忠實勤勉にして敢爲の氣象に富めるが故に諸種の障碍を排して着々成功の端緖を開き、少なからぬ資產を作りたるが、千八百五十一年の大博覽會に際して大に成功し、一代の富豪を以て目せらるゝに至れり、之より彼は愛蘭の富源を開拓するの目的を以てダブリンに勸業博覽會を開設せん

『妾は父が曾てヨークシャア人に與へたる敎訓を記憶す曰く、常に車輪の前に進め、然らずんば車輪の爲めに轢殺せられん』と、言簡なりと雖も以て其敢爲の氣象を見るべし、されど彼は信義を守り堅忍不抜にして克己の力強く、放縱なる少年時代の面影を留めず、平生深く僧侶傳道師等と交り、常に其說を聽くを樂しみ、日曜日には決して旅行することなく、營業を停止して馬匹にも一日の休暇を與へたりと云ふ。

△愛蘭の一恩人

ビアンコニは愛蘭人民に對しては一個の大恩人たるに拘はらず、大地主たるの故を以て恐るべき誤解を招ぎ、將に暗殺の奇禍に遭遇せんとしたるも、偶然の出來事よりして僅に其身を全うするを得たり、暗殺の企ありし當日、彼は其旅行先より馬車を驅つて歸路に就きたるが、彼を知れる一僧侶の招待に應じ豫定の道路を經過せざりし爲め、暴徒の計畫をして全然齟齬するに至らしめしなり、越えて千八百七十三年五月十四日、彼は天壽を全うして病歿したるが、其死に先つ七日痲痺を起し

ラック、テーラー博士ビアンコニの成功に就て語て曰く『彼が事業經營の方針は貧民若しくは小利益を蔑視せざるに在り、彼は其雄大なる機關を設備するの前、寒村僻地の貧民に對し、四輪の馬車を使用するの便利を與ふるには如何にして收支償ふを得べきか、又需要の增加するに隨ひ、車躰を大にせざるべからず、二頭立、四頭立の馬車を各地に使用するに至らば其業務管理の法は如何すべきや等の問題に關して深思熟慮せり』と、其自敍傳中に曰く『余は曾てクロンメルに在りて一日の賃銀五十錢を得たりし時三十錢以內にて生活せんことを期したり、カセルに於ても、スアレースに於ても亦然り、人の收入以內にて生活せりとの事實を聞くは余の最も愉快とする所なり、決して此主義を變更する勿れ、大帝國の脚下に在らんよりは小共和國の首長たらんことを期せよ』と。 彼の成功せるは全く此勤儉主義の結果なり。

△勤儉主義の勵行

有名なる政治家オーコンチルの夫人は其一女なり、父の自敍傳中に附記して曰く

は甚だ少なく從て其收支償はざりしを以てなり、若し彼をして意思薄弱の人たらしめば、直に其企圖を擲ち損害を蒙むらざらんことを務むべかりしも、彼は將來成功の見込確實なるを信じ、斷じて素志を貫徹せんと欲するの決心を有せしかば、泰然として其事業を繼續せり、而して彼が馬車營業に着手前既に同一の事業に着手せるものあり、彼は此競爭者と勝敗を決するを以て成功の第一歩と爲し、其賃銀を低廉にし、其取扱を懇篤にし、且つ時々適當の方法に依りて、無料乘車劵を配付し、斯くて人望を博したる後、一氣に競爭者に打擊を與へんと欲し、骨格強健なる馬匹を購ひ、且つ御者馬丁等の待遇を厚うするに務めしかば、此等の傭人も亦其知遇に感じ全力を盡して彼れの手足となれり、曾て彼が最も信用せし一御者來り告げて曰く『余はムーアバーンスに差懸りたる頃より盛に鞭韃を加へ、全速力を以て疾驅し、以て競爭者を凌駕するを得たり、されど流石強健の馬匹も之が爲めに困憊を極む、恐らくは再びこれを使用する能はざるべし』と、彼は此報告を得て滿足の色あり、此の如き熱心と努力とは終に世人の信用を博し得て乘客の數日に倍多きを加へたり。

時隣室に新聞閲覧所あり、相當の地位を有する紳士等は此室内に集まり、新聞片手に傲然たる態度を以て高談放言を恣にしたるも、余等舊敎信者は鼠の如く低聲に囁いて談話すべき嚴命を蒙れり、されど余は規定の料金を拂うて閲覧室に入りたるからには室内に於ける權利に差別あるべき理由なきを以て、頑として彼等の要求に應ぜず、殊更に高聲を張上げて談笑せしかば、人皆此狀を見て驚きたるも無理ならず』と、彼は舊敎徒に對する新敎徒の冷遇に酬ゆるに一種の嘲弄を以てし、自から悶々の情を慰めたり彼は飽く迄負嫌なり、新敎徒に對して此の如くなれば、其競爭者に對しても大膽剛毅、其事業の擴張に力め、枉屈自ら悲しむが如き態なかりき、彼の成功は即ち此奮闘より收めたる結果なり。

△如何に逆境に處したるか

彼の始めて馬車營業に着手するや、其計畫は殆と失敗に歸せんとするの狀ありき、當時交通の觀念頗る幼稚なりしを以て、人皆遲々たる徒歩旅行に甘んじ貴重なる時間を徒費するとも、寧ろ僅少の金錢を貯蓄するを以て得策と思考せるより乘客

ピアンコニ創業の當時、地方の行政紊亂の極に達し、社會の制裁全く弛廢して個人の地位名譽利益を保護するものなかりしかば、カソリック教徒の如きも亦先天的劣等人種と認められ、各方面より壓迫侮辱を蒙り、甚しきは土地所有の權利をさへ與へられざるに至れり、彼は其愛娘の手に成れる自叙傳中の一節にカソリック教徒の悲むべき境遇を述べて曰く『余はカソリック教徒の不平を聞くこと一再ならざりしと雖も、彼等の常に訴へて已まざるものはクロンメルに於ける虐待是なり、其一例を擧ぐれば、新教を奉ずる商人は、新に開業せんとするカソリック教徒に對し、侵入金と稱する名稱の下に二十圓乃至三十圓を徴收するを常とせり、然るに既に故人となれるリアン夫人は大膽にも此不當の要求を拒絶せしかば彼等は無法にも其家財全部を差押へたり、夫人は愈々其横暴を惡みて法廷に訴へ、堂々其曲直を辨じて終にこれを取戻すことを得たり、此事ありて以來、彼等の暴擧漸く其跡を絶つに至れるも、カソリック教徒の不幸は此に止まらず、地方の官憲は該教徒の、商品一切に對して課税するも、新教派の商人に對しては一切之を不問に附するが如きことありて、到底常識ある者の處置とは思はれざりき、余曾て某所に寄寓せし

馬車の未だ通ぜざる以前、取引の爲め市場に出入する商人農夫等は少くも三日を費さゞるべからざりしに、ビアンコニの營業開始以來一日にして事を辨ずるに至り、加之交通の便利は直に地方の富源を開くの媒介となり、各階級の人民相來往して見聞を廣め、感情を融和するの機會を與へたり、愛蘭地方の開發がビアンコニの努力に負ふ所や頗る大なりと云ふべし、彼れ曾て公會に臨み語て曰く『余は傭人中最も下等なる賤役に從事する者より御者を採用するを常とせり、而して其服務の摸樣を嚴重に監視し、勤勞に對しては時期を論せず、其給料を增加す、老廢、疾病其他職務上の出來事に對しては相當なる保護の途あるが故に彼等は安じて其職務に奮勵せり』と、斯の如き大規模の機關を完全に運轉せんが爲には、嚴格なる規律と多大の注意を要するは當然の事なり、若し其傭人にして過失ある時は其事躰の輕重如何に拘はらず直に之を解雇する等號令嚴明毫も假借する所なきを以て機關の運轉は極めて正確に行はれたり。

△彼は世俗の迫害を恐れず

よりして彼は小舟に依る水運の不便不利を感ずるの念甚しきを加へ、陸上交通の方法を案出して遂に馬車製造業に着手するに至れり。

△活眼能く好機會を捉ふ

千八百十五年戰爭終結の際不用軍馬の拂下ありしかば彼は比較的低廉の價格を以て駿馬を購入し、カリック、コロムメル間(十二哩)に馬車運轉を開始して下等貧民の乘用に供し、以て其事業の成績如何に注目せり、當時上流人士の使用に供すべき馬車營業者なきにあらざりしも、多數の需要に應ずべき性質のものにあらざれば、彼が這般の計畫はいたく行商人其他一般旅行人の歡迎する所となれり、千八百三十年郵便物の輸送を受負ひたる爲め、重要の線路を增加したるのみならず、乘客及貨物は年一年と增加し來りて、其晚年に及びては、使用馬匹千四百頭一日平均往復三千八百哩、馬匹繼立所百四十、に達せり、以て其規模の大なるを察すべし、思ふに彼が交通機關の未だ發達せざる愛蘭に移住せるは偶然の事に屬すと雖も、時代の要求を察して先鞭を着けたる非凡の鑑識は即ち彼が成功の大原因なり。

するを常とせるもの、是れ彼が愛蘭に於ける事業の第一着なりき、當時彼は貧苦骨に徹するの逆境に陷りたるも前途大飛躍を試みんとするの雄心勃々たるものありしかば、平然として困苦缺乏に甘んじ、大成を將來に期して私かに時機の來るを待てり、幾何もなくして彼は少額の資本を有するに至りしかば、居をカリックにトして金箔業の小店を開き、勤儉貯蓄只管發展の基礎を固うせんことを務めたるが、終に先人未發の事業を發見して一躍巨萬の富を作るに至れり、彼れ自から語て曰く『余の愛蘭に來りて旅行を試みし時、最も余が心を動かしたるものは、重荷を擔うて遠路を徒歩する行商人と車馬を利用して旅行する者との便不便にて商店をコリックに開くに及び馬車を利用するの必要を感ずると益甚しきを加へたり、商品を仕入れん爲にはコリック、ウォーターフォルド間十三哩を小舟にて遡らざるべからず而かも箭の如き急流なれば勢ひ滿潮の時を利用せざるべからざることゝて目的地に達するには二十時間を費すを常とせり、當時此水運に頼るの外途なかりしは言ふまでもなし』と、一日彼は例に依て商用の爲め小舟を傭うて出發したるが、濕氣を受けたる爲め感冒に罹り、二個月間病床に呻吟したるが、此苦き經驗

第九章　勤勉力行の模範的人物

△馬車事業の成功者

一時愛蘭の馬車王と稱せられたるチャーレス、ビアンコニは伊太利ロンバードハイランヅに生る、彼は少年の時粗暴にして放縱なりしかば父は寧ろ放逐の意味を以てアンドレア、ファロニなる人に托し、英蘭に赴かしめたるも、ファロニは故ありて愛蘭に伴ひ行けり、彼れ本と目に一丁字なきも致富の術に至ては其天禀とも稱すべく、敢爲果決當るべからざるの勢あり、而して其偶然愛蘭に赴きたるは、ビアンコニに取りては無上の幸福なりき、何となれば英蘭の如き文明的活動の中心に在りては、何人も英語を解せざる外國の一貧兒を顧みざればなり、然るにダブリン府を始め其他地方の都會に於ては此一外國少年に對するに冷酷なる路人の情を以てせず、寧ろ可憐の境遇に同情を寄せ、却て之を愛撫するもの多し、彼は其國語に通ぜざるの不便ありしに拘はらず地方に出てゝ衣食の計を立てんと欲し、十六錢の旅費と伊太利より齎らし來りたる若干の活字とを携へ一週間の豫定を以て諸處徘徊

糾合して救濟の途を講ぜんと欲し、公會を開きて船內說敎開始の必要なるを說きたるに、有力者の贊成を得たれば終に三萬圓を以て政府の船舶を拂下げ、開會當日には有名なる、ローランド、ヒルの演說ありていたく聽衆の感興を惹き、前途の多望なるをトする事を得たり、開會當日トムソンはローランド、ヒルを訪問して具に水夫の悲慘なる境遇を語り、且つ之に對する自個の救濟意見を述べ、開會劈頭其有力なる演說を以て多大の援助を與へられんことを望みたるに、ヒルも亦其熱誠に動かされ『余は可憐なる水夫等の爲に我本分を盡さゞるべからず』と、感奮し、慨然として演壇に現はれたりと云ふ、水夫救濟事業は斯の如くして其成立を告げたり、後彼は莫大の資金を投じて內國慈善協會を設立し、晩年に至りて更に水夫孤兒養育院を設けたる等其慈善事業に貢献する所頗る多かりき、殊に彼が倫敦より程遠きブリックストン、ヒルに居住せし時、數哩の道を遠しとせず、夜を冒して慈善家の集會に臨みたるが如き、献身的熱誠は到底僞善家の企て及ぶ所にあらざるなり、思ふに斯の如き行動は富者の天職にして亦安心の方法と言ふべく、人生の幸福世界の平和亦かゝる慈善的事業家の努力に負ふ所多し。

共の事業に熱注し、思想動作の簡易質朴なりしに在り、彼は倫敦に事務所を有し、クラッパムには美麗なる別莊あり、而かも彼の着眼は尋常富豪と其撰を異にし、毎年內外に於ける慈善事業の爲に巨額の資金を寄與して人道の開發を圖りたり、彼が嗜好は極めて單純にして敝衣粗食に甘んずるも、自個の職分を守ること極めて嚴正餘暇あれば高塔に昇つて精神の修養に餘念なかりき、彼は死期に臨んで些の煩悶憂苦なく莞爾として光榮ある生涯を終へたり、アヽ余の最期も亦斯の如くならんことを希うて已まず』と、彼は其性行純朴にして、公平無私なりしが故に、慈善事業に關しても其種類の何たるを問はず、何れの方面に對しても一視同仁なりき、セシル曰く『彼は何時にても慈善的計畫を援助するに躊躇せざるも、決して僞善者の犠牲となるが如きことなかりき』と、彼は敎務に從事する人の生活を補助し、私有の船舶を以て慈善敎化に關する書類物品を世界各地に輸送せる等公共事業に寄附せしもの數百萬圓の多額に達せりと云ふ、又吾人が英國に於ける慈善家の名を列記するに當り決して看過すべからざるは株式仲買人中の奇傑たるトーマス、トムソンなり、彼は倫敦港內に於ける水夫等の慘狀を見て同情の念に堪へず、同志を

からざりき、有名なる氣象學者ロナルドも亦此組合に加はりて、各種方面の事業に努力し、組合員の一人たるジョン、トーマス亦科學的研究の結果より穫たる資産を擧げて公共事業を經營し、エワート、レンナート等の國會議員及びモーニング、ヘラルド新聞主筆シドニー、テーラー等と死刑廢止運動の唱首となりて平生の蘊蓄を發揮せり、一記者論じて曰く『ウィリアム第六世の治下に於て、歷史上未曾有の仁政を見るに至りたるは畢竟此等諸有志の慈善事業に對する奮鬪的努力と赤誠の致す所なり』と、ロムバードの別天地に會合する者には王族あり、貴公子あり、政治家あり、學者あり、敎育家あり、宣敎師あり、放免後の罪囚孤立愬ふる所なき奴隷あり、此等のもの相協同して、英國帝都に於ける慈善事業活動の中心となれり。

思ふに慈善的事業に對し、進んで有形無形の援助を與ふるは、公人としての資産家の義務なるべし、有名なる富豪にして慈善家たるジョン、ソールトンの死するや其友ハードは書をウィルバーフォースに送りて曰く『余は彼と最も懇親なる關係を結べり、今改めて彼が卓越せる性格を稱揚するの蛇足に屬するを覺ゆ、彼をして一世の尊敬を博せしめたるものは其富巨萬を積み其智識の拔群なりしよりは寧ろ社會公

教會設立に二十萬圓を費し、更に親族間に四百萬圓宛分配せり、米國政府は彼が公共事業に貢献したる篤志に對し、千八百六十七年三月共和國の名を以て深厚なる感謝狀を贈れり、此の如く人道の爲に盡瘁したる曠古の偉人は終に七十五歳の高齡を以て其友人なるサー、カーチス、サムソンの邸に歿す、嚴肅なる葬儀はウエストミンスター寺院に於て營まれ、遺骨は其遺言に依り米國に葬られたり。

△富豪の社會的職分

前項大規模なるピーボデーの慈善事業に比すべからざるも、吾人は又倫敦に於ける有名なる慈善團躰の存在を看過すべからず。

倫敦ロムバード街の中央に一個の別天地あり、學識、德望、財產ある學者、紳士、富豪相集まりて、慈善事業並科學研究に從事し、滔々たる塵寰の外に卓立して天下の耳目を聳動しつゝあり、其組合中の長老アレンは有名なる化學者にして、帝國學士會員たりしが、慈善を以て己が天職と爲し、天下の諸名流と交を結び、全力を盡して罪惡の救濟と後進の指導に從事し、學校、育兒院其他社會公共の事業に盡瘁せし所少な

に依り百五十萬圓を寄附せしを以て、彼が倫敦貧民に與へたる救助金は約五百萬圓の巨額に達せり、個人としてかゝる大規模の慈善事業を遂げたる彼が偉大なる公共心は英國民全般の感謝する所にして倫敦市の安寧秩序亦彼に負ふ所少なからずと云ふべし、女王陛下は彼に授くるにバッス十字章を以てし且功を以て貴族に列せんとの恩命を傳へられたるも、彼は謙遜なる態度を以て之を辭退せしかば陛下より、ウインゾル宮にて謁見すべしとの懇篤なる親書を賜りたり、千八百五十六年再び母國を訪はんとするに際し、陛下より珠玉を鏤めたる美麗なる寫眞を拜受せしを以て、彼は之を携へて故山に歸り、永久の紀念として之を圖書館の楣間に掲げたり、而して彼が生前最も面目を施したるは帝國取引所の後庭に建てられたる彼が銅像に對し、ウエールス親王親から除幕式を行はれたる事是れなり。

彼は母國に留まること三年、其間各種慈善事業の基金を增加し、更に二三の公益機關を創設し、又南米に於ける白人及黑人の敎育費として四百萬圓を、エール及ハーバート大學の考古博物館に六十萬圓を、サレム博物館に十萬圓を、ケンヨン大學の牧師監督に五萬圓、メリーランド州に四十六萬圓を寄附し、別に其母の紀念として

ものは、毫も人生に幸福を與ふるものにあらず、唯自個の勞力より得たる淨財を以て不幸に沈む同胞の位置を高むるは、自個の最大幸福を得るの道なり』と、彼は能く此理想を實行したり。

されば彼は其第一着歩として千八百五十年の大博覽會に際し、米國出品者の爲に必要の費用を給し、翌年サー、ジョン、フランクリンの蹤跡を探らん爲に組織せられたる北極探檢隊の唱首、紐育の船主ヘンリー、グリンチルの義擧を賛して多大の援助を與へ、同年其鄕里ダンバースに公立圖書館及敎育機關を創立せん爲め一百萬圓を寄附せり、千八百五十七年を以て二十年間歸省せざりし故國の風光に接せんと欲してダンバースに歸り、其機會を以て一百萬圓を支出してバルチモアに科學技藝の研究所及圖書館を設立せんことを企てたり、千八百五十八年更に一百萬圓を加へて事業の擴張費に充て、千八百六十二年倫敦貧民救濟の爲め百五十萬圓を寄附し、直に貧民を收容すべき摸範的家屋の建築に着手したるが、後二年を經て一百萬圓を加へ、千八百六十八年更にブリクストンの土地十五エーカー、ホドソン會社株券五千六百四十二株現金五萬四千五百圓を寄贈し、又彼が臨終の際には、遺言

ふを屑とせず、曾て公會の演壇に現はれたることなく、超然として國內政爭の表に立てり』と、彼が始めて英國に渡來せるは千八百二十七年にして、尙ほパルチモアに於ける組合員の首席たりし時なりき、千八百四十三年に至り、ジョージ、ピーボデー商會主の名を以て倫敦に現はれたる時は、旣に堂々たる商業界の大達物なりしなり、曾てメリーランドの財政委員として英國中央の經濟界に奔走し、盡す所少なからざりしが、固く其報酬を辭退し、潔白なる自個の努力を以て滿足すと爲せり、彼は晚年母國を愛するの情切なりしかば、每年七月四日を期して獨立紀念會を開き、水晶宮の盛餐に匹敵すべき大規模の饗宴を張るを常とせり。

△偉人ピーボデーの後半生

ピーボデーは單に尋常牙籌の人にあらずして能く集め能く散ずべき富豪の責任を解するものなり、彼は人類として自個の職分の那邊に在るかを知り、以爲らく『雲に聳ゆる大廈高樓や、百華美はしき大庭園や、古今の珍書を蒐めたる客室や、金力を以て購ひ得べき社交上の位置等是皆富を以て購ひ得べき事物の爲に喜憂を爲す

ク河に侵入するや、此少年事業家は義勇兵として數月間ウアーバートン要塞防備の任に當れり、平和克復の後米國中央諸州を販路として大飛躍を試みんと企てたる織物商エリシヤ、リッグスの招聘に應じ、其計畫に參與して得意の材能を發揮し、リッグスは出てゝ資金の調達に從事し彼は内に在りて萬般の事務を處理せしが、創業日尚淺きに拘はらず商况活氣を帶び來りて成功の見込確實となり、彼は販路擴張の爲め馬に跨りて各地に旅行し、或はペンシルヴアニア州の西方部落より、メリーランド、ヴアヂニアの沃野を巡遊し、旅館に於ては紳士農夫地主等と談笑するの機會を得て各階級に於ける生活風習等を探り、商業上裨益せし所少なからざりき、此間專心其販路を擴張したる結果終に本店をバルチモアに移し、七年の後フィラデルフィア及紐育に其支店を設けたり、千八百三十年に至りリッグス退きて彼其業務一切を引受け、米國内地商業家の巨擘として聲名赫々たるに至りしが、此時彼は純然たる射利の人物にあらずして、識見大に進み氣品亦備はり、一個公民の先覺として恥かしからぬ活動を試みんとする意あり、「アニユアル、レヂスター」の記者は曾て彼が傳記中に記して曰く『彼は政權を求むるに戀々たらず、政黨の歡心を買

集して毛皮商會を設立し、不斷の注意と不屈の勇氣とを以て其業務を管理せしかば、顧客は增加し、販路は擴張せられ、業務益隆盛を極めて千萬圓餘の資產を有するに至れり、彼が平生の行動を見れば一卷のバイブルを以て金科玉條と爲し、出鄕當時の述懷を以て其一生を終始せり、其子亦乃父の志を繼ぎ、剛健眞摯なる家憲を遵奉し、一門の淸福眞に羨むべきものあり。

△偉人ピーボデーの前半生

吾人は今玆に稀世の慈善家、偉人ピーボデーの光榮ある事蹟を紹介せんとす、彼は米國マッサチユセッツ州に生れ、地方の小學に於て讀書作文を學びたる後四年間果實商に傭はれ、一年を祖父と共にヴアーモントの僻邑に送り、更にニユーベリーポートに織物商を營める兄ダヴィットと協力して商業に從事せしが、一朝火災の爲めピーボデーの商店はあはれ烏有に歸したれば、兄弟の困難一方ならざりしも幸にしてコロムビアのジョーヂタウンに住める叔父よりの招ぎに應じ、二年間其助手として勤務し、其間殆んど事業の全部を管理せり、國難に際し、英國艦隊ポトマツ

なるべく、極めて勤勉なるべし、而かも如何なる場合にても投機的手段を弄せずんば、神は必ず余の前途を祝福すべし』と、米國に上陸したる時は殆んと身に一錢の蓄積もあらざりき、幸にして船客の一人たる毛皮商と相知るに至りしが、後其紹介に依り、彼亦毛皮の賣買に從事して、巨萬の富を致せり、彼が事業經營に關し、如何に機敏にして、大膽なるかを見よ、彼が上陸早々の職業は、林檎及桃の販賣なりき、彼は倫敦の兄より贈られたる七本の横笛を携へて果實と共に之を賣却し、毛皮講入の資金に充てたるが如き其苦心の程想ふべし、彼れ夙に商勢の大躰に着目して機敏の處置に出でんことに全力を注ぎしかば、其商業的手腕の進歩著しく、忽ちにして同業者たる先輩を壓倒するを得たり、而かも簡易質素の生活は其長所なるが故に、一毫の微と雖も之を浪費する事なかりき、晩年常に人に語て曰く『余が今日の資産を作るに至りたる經過の中最も困難なりしは最初の二千圓を蓄積する迄の商業是なり』と、彼は鋭敏にして能く商勢の幾微を察し、一旦事業に着手する時は、適當の捷徑を撰んで勇往邁進す、其取引上の處置亦頗る迅速にして、可否の決瞬間を出でざりしと云ふ、斯くて彼は將來雄飛するに適當なる資本を蓄へ、終に株主を募

き直に賠償金を出して謝罪せんことを申出でたり』と、致富の道は必ず正々堂々たるべし、決して詐欺手段を許さず、然らずんば見苦るしき失敗を招ぐべし、此牧師の如き其活ける一例なり。

△摸範的成功家の活ける教訓

牧師の不正なる詐欺手段若しくは投機事業といへば、其職分の神聖なるを要するだけ、一層之を醜むの念を強うせざるを得ず、されど眞面目なる方法に依り、苦心經營の後、最も幸福なる富豪の班に列せる者に對すれば自ら尊敬の情禁ずべからさるものあり。

ジョン、ジャコブ、アスターは、獨逸の人、米國に渡航して自個の運命を開拓せんと欲し、飄然家門を出でたるは二十歳の時なりき、家本と貧にして小學教育を受くるの餘裕だになかりし程なれば、波止場まで數十哩を徒歩せざるを得ざりき、途上懷かしき故郷の山光水色を見ては低徊去るに忍びざるものあり、樹蔭に佇みて自から勵まして曰く『余は剛健ならざるべからず、眞摯ならざるべからず、飽くまで正直

破して談判不調に終りたり、されど貪婪飽くことを知らざる此牧師は毫も反省を加ふることなく、後米國が西班牙と戰端を開くに當り好機逸すべからずと爲し軍馬調發を受負ひて一擧鉅萬の富を重ねんことを企てぬ、彼は先づ陸軍の要職を占めたる某將軍を訪ひ、自個の赤貧洗ふが如き可憐なる牧師たることを告げ、差當り焦眉の急とも云ふべき金錢の必要に迫りたれば、軍馬供給の特權を與へられんことを懇請したるに、將軍も其意を諒とし軍馬購入の契約を爲したり、然れども彼は固より虛僞の辭柄を設けて利益を圖らんとせしに過ぎざりしかば、直に其特權を賣却し以て一時の巨利を占め、欣然として獨り其成功を喜べり、此事何時しか議院の問題となり國會は委員を選んで事實を調査したる結果、某將軍と牧師との關係を忌憚なく列記して之を國會に報告したるより、此不正事件の顚末戰地に於ける將軍の耳朶に達せし時將軍は恰も苦戰の上光榮ある勝利を博せる際なりしが之を聞いて憤激すること一方ならず、直に書を牧師に送りていたく其不正を詰り若しあらゆる方法を以て余の寃罪を雪ぐにあらずんば、紐育に凱旋するや否や街頭に於て銃殺すべしと、劍よりも鋭き語氣を以て譴責せるにぞ、牧師は戰慄して打驚

き、若し發見の虞ある時は何氣なく之を隱匿せんとしたるが、仲買人は其煩勞に堪へずして牧師に向ひ、若し公然賣買に從事するの勇氣なくんば、寧ろ市場より引退せらるべしと忠告せり、慈善を名として不正不義を事とする彼等の徒黨は殊更に眞面目の態度を裝ひ、諸處の監獄、懲治場又は慈善團躰に出入して鐵面皮にも說敎を試み、他の誠實潔白なる牧師、長老等の侮蔑を招ぎつゝあり、其純白の頸飾、殊勝らしき顏色陰欝を裝ふ音調に接すれば、何人も直に僞善者たるを看破すべし、就中投機に妙を得たる一人の牧師あり、山の手の敎會にては眞面目なる牧師として其名を知られ、鹿爪らしき說敎の題目は日曜日毎に其門前に揭げるれども、下町の市場に現はるゝ時は、純然たる株屋と變じ、朝夕敎壇に立つべき神聖なる職務を奉じながら、常に牙籌を執て株の賣買に從事せり、而かも是れ六個所の敎會を監督すべき身分なりと聞かば誰か意外の感を生ぜざるものあらんや、彼れ曾て倫敦に赴き有名なる說敎者スポルジョン招聘の契約を結ばんとし、其條件として發行すべき入場劵より生ずる收入は之を折半して一は禮拜堂設立の資金に充てん爲め說敎者に與へ、一は自個の所得と爲すの議を提出せしに、スポルジョンは忽ち其人物を看

以て蹉躓せば、彼は一印刷職工たるに終りしならむ、彼れ生來極めて嚴格なれども人に接するに公平信實を以てし、職務に對しては極めて熱心にして勤勉倦まざるの風あり、其印刷業に從事するや、唯確乎不拔の意思を以て一意事業の完備に務め、且つ決して豫定の期日に遲るゝことなく、勤儉己を持し以て他日の大成を期せしかば、世人の信用日に加はり、新聞事業を起すの基礎も略ぼ此時に於て定まりたるなり而して、其生涯を通じて曾て一錢の債務を負ひしことなきは其人物を察するに足るべし、彼は愛蘭の人ロンドンデリーより程遠からぬ村落に生る、家本と貧にして小學教育を受くるの餘裕なく、徹頭徹尾獨力を以て自己の運命を開拓せる奮鬪的事業家なり。

△致富の道は詐欺手段を許さず

『サンシャイン、アンド、シェドー』の記者曾て曰く『吾人は紐育の株式市場に於て往々牧師を見ることあり、曾て余の知れる一人の牧師は投機に依りて三十二萬圓の資産を作れり、彼は他人に知られんことを恐れて私に株劵を仲買人の卓上に置

△吹聽主義の成功者

『紐育レヂャー』の持主バーンスも亦吹聽主義の成功者なりき、同新聞紙の未だ勢力を得ざりし時、彼は新趣向を以て多數の讀者を得んと欲し、之が爲には世評の如何を顧みざるを常とせり、例へば『ジエンニー、ジョンスは本紙の爲に執筆せらる』とか或は『サウスウォルツ夫人の新作小說本紙に現はるべし』とか五月蠅きまでに反覆して其紙上に掲げしかば世人は之を見て不快の念を生じ、公然之を非難する者少なからず、人ありバーンスに問うて曰く『貴下の毎號幾回となく同一の事を特筆大書するは何の意なるや』と、バーンス答て曰く『余若し斯の如くせざれば或は貴下の注意を喚起し能はざりしならむ、余は唯讀者の注目する所となり何人よりも斯る質問を受く　に至らば可なり』と、かゝる廣告主義は當時極めて嶄新の事に屬し一面世人の嘲笑を招ぎたれども、物議を惹起したる結果、廣告としては充分に其目的を達したり、然れども創業の當時多大の妨碍に遭遇せしかば破產に瀕せしこと一再ならざりき、彼にして若し堅忍不拔の志を缺き、一二の失敗を

舊持主は彼を其事務所内に訪ひ來りたるに、彼は例に依て粗末なる晝食の行厨を開きたる際なれば、客は之を一見して問うて曰く『貴下は常に斯の如き簡單なる食物を用ひらるゝか』と、彼れ答て曰く『余は本館の買收以來安息日の外は暖かき食物を味ひたることなし、而して一切の債務を償却し終る迄は固く之を守らんと欲す』と、果して一年を經過せざるに其純利益を以て債務を辨濟し得たりと云ふ。

彼れの事業に對する方針は大に青年實務家の教訓とするに足るものあり、彼れ曾て一書を其友に與へて曰く『有爲の青年は須らく自己の嗜好性癖に適する職業を選び全力を注いで之を完成すべし、其目的に對しては飽くまで眞面目なるべく、極めて鋭敏なるべく、且つ成るべく一時に一事を成し、決して勢力を分割すべからず、假令饑餓に瀕するも務めて收入以內の生活を維持して他人の恩惠扶助を期待すべからず』と、彼が屢次逆境に陷りたるに拘はらず、終に大成功を博し得るもの此數語の實行に外ならざるなり。

の辣腕なる終に甚しき破綻を見ずして、善後策を購ずるを得たり、彼は事業家として驚くべき遂行力と才能とを有す、其顯著なる成功を目して詐欺手段と爲し、單に誇大なる廣告人寄せの方法に依ると認むる者も、少しく彼の性行を察する時は、是れ單に天性快活にして事物に執着せざる兒戲的特性の致す所、此特性の裏面には事務の材幹あり、忍耐あり、勤勞あり機智あるを知るに至るべし、彼の生涯を通觀するに、人生の數奇を盡して波瀾層出するの趣あり、時に興行物の廣告文を草して衣食せし事もあれば、ボストンの香具師より讓り受けたる僞物の人魚を展覽に供せしこともあり、遠慮なく人間の畸形兒を觀覽に供して世俗の好奇心に投ぜし如き或は、一圓の金をも準備せずして展覽會の買收を商議せしが如き、是れ普く世人の知る所なれども、其性格の眞相に至りては人多く之を誤解す、彼は極めて無邪氣にして物に凝滯せず、個人的の交誼を重んじ、常に信實を盡せり、殊に勤儉貯蓄を以て立身の基礎と爲し、簡易素朴の生活に甘んぜしこと感嘆の外なく、其妻と協力して内外の費用を節し、一年千二百圓を與へて家族の生活費に充てしめたるも事は更に之を八百圓に節減し萬般の費用を辨じたりと云ふ、展覽會買收の後約半歳にして

りて之を一見し彼に面會を求め告げて、曰く余は稀有なる新聞に接していたく興味を感じ其動物を實驗したるが彼れは實に珍らしき狒々なれども新聞紙の傳ふる如き猩々にあらずと、彼は之に對し何故猩々にあらざるを知り玉ふやと反問せしに、學者は猩々ならば尾なき筈なりとの事に彼は得たり顏に答へて曰く、然り元來猩々は尾なきを常とすれども余はかゝる平凡なるものを有せず、余の所持に係る一種特別の猩々は實に得易からざる世界の珍にして學者の研究を要すべき好箇の材料ならずやと、思ひ切つたる大膽の言には流石の學者も敵し難く匆々にして辭し去りたりと云ふ、其態度の不屆にして滑脱なる概ね此類なり、彼が此一擧にして少なからぬ資産を作るに至りたるは、大西洋海底電線開通の際、二十語の音信に對する先送權を購はん爲め、一萬圓を投じたるに徴して明かなるべし。

△事業成功に要する資格

されど好運は必ずしも此快男子の專有にあらず、後ブリッヂポートに在る壯麗なる別莊は一朝火を失して焦土に歸せしかば、彼れは殆んと資産を蕩盡したるも彼

曰く『余の今回の興行は必ずしも世界の珍奇を蒐め得たりとは言はず、然れども諸君の眼前に活躍する巨人侏儒奇禽怪獸千百の魍魎は、一見既に別世界に在るの思を爲すのみならず、此等の動物の演ずべき奇々妙々の藝當は、亦當に紳士淑女の一顧に値すべく、少額の入場料に百倍するの興味と利益あるは勿論にして、他に其類を見ざる空前絶後の珍世界なり』と。

△不屈にして滑脱なる態度

斯くの如くにして彼は世人の注意を喚起せんとせり、其猖々として買入れたるは其實狒々の類なり、されど彼は之を唯一の米國産猖々として出陳し且つ彼の代理人は新聞紙をして此動物の恐るべき性質と驚くべき怪力を有することを吹聽せしめ、揚陸の際怒て取扱人を寸斷せんとしたる記事を掲げたり、彼は此記事を見て大に驚き直に命を傳へて警護を嚴重にし萬一に備へんことを戒めたりとの報一たび世上に傳播するや、恐るべき猛獸を見んと欲するもの陸續踵を接するに至りしかば、彼は莫大の收入を得て大に時運の到來を喜びたり、當時著名の一學者亦來

鋒過激なりし爲め、忌諱に觸れて禁錮の刑に處せられたり、其放免の日彼が知己朋友等は樂を奏し旗を飜し數十輛の馬車を驅て歡迎の意を表せりと云ふ、後彼は華盛頓の有名なる黑人看護婦と共に一種の展覽會を組織せしが、其結果良好ならざりしを以て、彼は更に別種の展覽會を開催せんことを企てたり、當時彼は僅に十圓を有するに過ぎざりしかば、此計畫は全然畫餠に歸したり、然れども彼は飽く迄不屈の精神に富めるより大膽にも幾多の冒險的手腕を試み、百方其目的を達せんことを務めたり、先づ其第一着として彼は大規模の興行師たらんと欲しチャレース、ストレットンと呼ぶ侏儒を始め百五十日間一夜二千圓の約束にて有名なる奇術師ジェンニー、リンドの出場を求め、其他山羊に似たる馬、農家用の大象、人魚、大猖々等を集めて人目を牽かんと試みぬ、要するに嶄新の意匠珍奇の廣告を以て人氣を買ひ、一擧して自家財政の欠陷を補ひ、進んで他日雄飛の資に供するは彼が慣手段なれば、世間或は彼をして一個の詐欺師と爲したるものあれども、彼は平然として之と爭はず、自から尋常興行師と其選を異にせる人物たるを確信し、世上の毀譽總て之を一笑に附して顧みざりき、されば彼は其興行に際し、得意の長廣舌を弄して

通じて遺産に衣食する者の通弊なり、カーチギー翁をして遺産の其子孫を辱かしむるに過ぎざるを歎ぜしめたるも畢竟之が爲のみ。

第八章　慘憺たる事業家の奮鬪史

△興行も亦致富の一手段

紐育の富豪中に其人ありと知られたるバーナムは晩年其多忙なる公私の生涯より引退せしも、尚ほバーナム、ヴァン、アムブラ博物館主として居然事業界の重鎭たるを失はざりき、其經歷亦頗る波瀾に富み、數奇落魄を極めて破產に瀕せしこと一再ならざりしも、終に能く不屈の精神を維持し之を挽回し得たり、彼はコンネチカット州のベセルに生る、少時父の經營に係る旗亭に在りて雜務に從事せるが、氣質極めて快活、談笑の際諧謔百出常に座客の頤を解り、十五歲の時父母の膝下を離れて獨立自營の生活を開始し、十九歲にして妻を娶り奮鬪的生活の第一步を試むるに至れり、彼は最初米國論壇の雄鎭たりし「ヘラルド、オブ、フリードム」の記者となり、奇警の文字と剛健の意氣とを以て覇を一方に唱ふるに至りしが、政府攻擊の筆

其首途を壯にする者なく、孤影飄然として奮鬪的生活の途に上る、轉々寂寞無邊の感なきにあらずと雖も、欝勃たる雄心容易に消磨すべくもあらず、進んで賤役に服し、能く屈辱を忍び以て他日の大成を期す、是れ米國の大を爲せし所以のみ、往時ダニエルガ奴隷より起て天下の大權を握りたるが如く、米國の大政治家大事業家は未だ曾て座食の家より出たるものあらず、彼等の多數は一椀の冷羹に喉を濡すの餘力なく、一杯の水と一塊の麵麭とを以て僅に其生命を繫げるものなり、殊に富豪たり事業家たる者の奮鬪的生活に至りては其天地懸隔せる前後の境遇を對照するに於て多大の興味あるを覺ゆ、然るに其の後繼者たる青年男女は、動もすれば先人の苦心を忘れて浮華驕奢の陋習に陷り心身共に懦弱爲すなきに至るもの滔々皆是なり、一米國記者曾て之を嘲て曰く『彼等は石造の高樓に生れ、貨物山積せる商店に長じ、舞踏に巧みなる美婦を娶り、萬金を投じて駿馬を購ひ、旗亭に長嘯し、玉突に耽り、費すことを知て求むることを知らず、父を頑固爺と呼び母を流行を解せざる女と稱し、美酒に醉うて亂舞する間に、丁稚は書記となり書記は主人となり父の棄てたるものを拾ひ、父の集めたるものを散ず』と、蓋し此の如きは東西古今を

米國大統領ルーズヴエルトは「失敗を以て成功の階梯なり」と云へり、殊に先人未發の事業を經營するに當ては、濃霧を披いて航路を進むが如く前途多大の困難に遭遇すべき事明白なり、試みに事業家失敗の跡を尋ぬれば、着手すべき事業の撰擇を誤るか、又は適當の業務に從事するも困難に當て挫折するかの二途に過ぎず、アダムの實歷は能く此消息を說明して餘あり。

△富者の子弟を戒しむ

市俄古若しくは紐育の如き大都の中心に在りて、巨萬の富を有して居るに大厦高樓あり出るに肥馬輕裘あり、一擧手一投足も商海の波瀾となつて市場の寂寞を破るの大勢力ある者多は身を一介の貧兒より起せり、彼等の未だ其志を得ざるや、或は掃除人となり馬丁となり、或は新聞賣子、印刷職工等社會の下層に身を投じ總ゆる處世の辛苦を嘗めて終に獨立自營の途を開けり、思ふに米國をして今日あらしたるは畢竟かゝる剛健なる先輩の恩惠に由れり、彼等は眞摯にして淳朴、慨然として所信を貫くの勇氣あり、靑雲の志を抱いて家門を辭するに當てや、知己先輩のめ

業の利便に頼らんと欲する者甚だ少なかりしを以て、業務亦從て微々として振はざりき、創業當時の事務は極めて閑散なりしが故に多數の傭人を置くの必要なく彼自から萬般の事務に當りたるなり、當時一人の顧客なく一錢の收入だになかりしこと珍らしからざりしが、彼は飽くまで有望の事業たるを確信せるが故に、泰然として動かず徐ろに時機の到來を待てり、既にして地方の信用日に加はり、成功の見込確實なるに至りしかば、彼は百方力を盡して資本家を勸誘し終に千八百五十四年之を株式會社と爲し、支店を國內重要の地に設け、盛に業務を營み、殊に戰時に際しては出征の兵士より其家族朋友に送るべき金錢の取扱を爲し、或は軍用金其他軍需品の運搬に從事する等陸軍輸送部と相呼應して軍國の經營に資する所少なからざりき、かくてアダムの名は米國の運送事業と共に長へに不朽の光榮を留めたり以上は彼が經歷の概要に過ぎざれども、吾人は之に依りて事業家成功の秘訣を學ぶを得たり、一は即ち世運の進步するに隨ひ一般人民の要求すべき事業の種類に着目すること、二は即ち目的を達するに不屈不撓の意思を要することと是なり、思ふに一事業に成功する迄には幾多の蹉躓を見るべきは自然の數なり、現代の

憶せしを以て當時既に得易からざる政治通の一人たりしは疑ふべからず」と、彼は徒弟期限滿了の後飄然紐育に赴きたるが、其携へたるものは嚢中の二十圓と一個の洋杖のみなりき、一時適當の職業なく衣食の途に窮せしが、終に一新聞社の社員となり、多少の資産を蓄ふるに及て一雜誌を發刊し、克己制慾、一切の興奮劑を避けて菜食主義を實行し、一意事業の發展を企圖せしが、多少の利益と印刷事業の好經驗とを得て終に「紐育トリビユン」新聞を創立して大成功を博したり、二拾年前樵夫一牧童の間に生長せる山村の一貧兒は堂々たる大新聞の主宰者とはなれり、後たび大統領候補者に推され、最も有力なる政論家として政界の一方に雄視するを得たり。

△米國運送業の鼻祖

米國に於ける運送會社は千八百四十年ボストン市に設立せられたるものを以て其嚆矢とす、而して其發達の經過亦一讀の價値なしとせざるなり、其創立者は名をアルヴィン、アダムと呼べり、當時交通運輸に關する智識尚ほ幼稚なりしが爲め此事

トハムプシャアに生れ、幼より深く學問の研究を好みたりしも、生來企業心に富み、殊に商業に關しては一種の奇才を有せり、活動は彼が生命にて二六時中靜止せず少時早くも、自己の發展に資すべき事業の爲めに心身を勞し、或は胡桃、栗の如き果實を拾うて所要の物品に換へ或は松柏の切株を截斷し、之を燃料として市に鬻ぎ、特に蜜蜂の飼養を好みて半ば之を娯樂とし、半ば其所得を以て事業經營の資金に充てんと欲し、一個年千五百圓の多額に達せしとありき、後父母の膝下を辭して一印刷業者の徒弟となりたるが、其鄕關を出づるの際は、小形の風呂敷に一切の家財を包み、着換とては古びたる襯衣二枚と一着の上衣ありしのみ、彼の一親友曾て語て曰く『世間若し赤手運命を開きたる者ありとせばホレースの如きは慥かに其一人なり、彼には財産なく勢力ある朋友もなく、又其目的を達するに必要なる敎育をも受けず、唯其頼む所は不斷の勉强と獨立自恃の氣魄ありしのみ、彼は天性明る數學的腦頭を有し、加之文法の解釋に至ては其迅速正確なること遙に同學の少晰な年を凌駕せり、又少年にして統計學の研究を好み、有力なる政治家の人物及政見、各州選擧の形勢、税法の適否等より諸州知事の候補者に至るまで精細に之を記

目的を達し、紐育に於けるステロ版中未曾有の上出來なりとの好評を博したり、されば彼が技術上の手腕は一般世人の認むる所となり、二六時中事業に忙殺せらるゝ迄に發達し、彼が勇氣は一難を經る毎に百倍し來りて六年の後紐育市中の大印刷業者間に其名を列し、青年事業家として多大の尊敬を受くるに至れり、されど彼は勤儉己を持して毫も懈怠の風なく、當初の十年間に費す所兄弟各二千圓に過ぎざりしと云ふ、さはいへ其傭人を待遇すること厚く、傭人も亦其好意に感じて中心職業に勉勵せしかば其技術の進歩も亦著しきものありて多額の報酬を受くるもの少なからず、殊にハーパー家の特色と稱すべきは其傭人の異動極めて稀にして、徒弟より相當の事務員となるまで勤續するの美風あること是なり、其業務繁榮を極めて一世に雄視するに至れるもの偶然にあらざるなり。

△トリビユン新聞の創立者

『紐育トリビユン新聞の創立者ホレース、グリーレーも亦ジエームス、ベンネツトの如く逆境に處して百戰終に勝を制したる奮闘的新聞業者の一人なり、彼れはニユ

の隨一として湛へらるゝに至りし時此惡太郎果して生計に窮し、其憐を乞へりとぞ、逆境に處するの道は自重して奮鬪するに在り、衣食住の如き唯生活を維持すればば足るのみ、堅忍不拔にして常に遠大の希望を抱く事ハーバーの如くなれば可なり、惡太郎に辱しめられたるハーバーは慨然として憤を發し、夙夜に業を力めて怠らず、斯くて專心職務に從事するの傍、書籍を繙きて學校教育の不足を補はんと務めたりしかば、傭主も多大の望を其前途に屬し、ハーバー自から出版業を開くに及んでは、主人は喜んで其技倆の信ずるに足るを證明し、多大の援助を與たり、彼はドヴァー、ストリートに一家屋を求め兄ジョンと共に日夜其業務の爲に奔走し、最初宗教に關する小冊子二千部の出版を受負ひたるに其結果良好なりしかば、彼は更に紐育の監督教會より祈禱本のステロ版印刷を委託せられたり、當時ステロ版は未だ完成の域に達せず、極めて粗末の出來なれば、殊に創業日尚ほ淺きハーバーには頗る困難なる事業なりしは勿論なり、彼は他の有名なる同業者に依賴せんとしたるも其收支償はざるを見て、斷然自から其技術を學び、獨力之を完成せんことを企てたり、此の如き方法は極めて緩慢にして而かも困難なる事業なりしが、彼は終に其

め、必ず資産家となりて獨力事業を經營するに至らんことを期せり、當時フランクリン街は中流以上の紳商甍を並べ、何れも豪奢の生活を競ひたるより、地質粗末なる流行後れの古背廣を着けたるハーバーの服裝、態度は口善惡なき惡太郎の眼には嘲弄の好材料となり、其外出するや之を道に要して口々に『君の上着は巴里仕立ならん』『美事の出來なり、余も其仕立屋に注文すべければ君の名刺を與へよ』などゝ毒言を吐き、甚しきは地質の美しさを見たしとて寄り添ひ來りて其腕に觸るゝなど樣々の無禮を加へたれど、遠大の志を抱くハーバーは自から逸る血氣の心を抑えて敢て之と爭はざりき、一日ハーバー例の如く水桶片手に店頭の雜役に從事中一人の惡太郎入り來り、又しても名刺を與へよと弄びしかば、作業中の事とは云ひ、豫て無念の涙を呑み居れるハーバーは、怒氣心頭より發して矢庭に水桶を擲り投げ脚を擧げてしたゝか對手を蹴倒し、叫んで曰く『これ余の名刺なり、注意して之を保存せよ、余は長へに池中の物にはあらず、時來らば必ず汝に思ひ知らすべし、汝若し常業を失うて路頭に迷ふことあらば、來りて余に憐を乞へ、余は喜んで汝に糊口の資を與へむ』と、之より四十年の後、ハーバーの名內外に高く、紐育豪商

然參謀本部の光景を見るが如しと云ふ、此活動あり奮鬪あり此大成功を博せるは當然の收穫のみ。

△印刷業者ハーパーの奮鬪實歷

紐育フランクリン、街頭に世界第一流に位する大出版業者あり、各種の印刷物は言ふまでもなく宏大なる編輯局、工場、事務室を有して書籍出版に關する萬般の業務は同一家屋內に於て處理せられ、一時米國出版事業界の覇王と稱せられたり、主人は名をジェームス、ハーパーと呼ぶ十五歲の時ロングアイランドより紐育に出てゝ印刷業を學ばんとし、一商店の徒弟となり、本業に從事するの外、婢僕の如き賤役に服せしも彼は之を成業の階梯と爲し、全力を盡して主人の信用を博せんと務めたり、元來彼の母はメソヂスト派の篤信者にして貧窮の裡に人となりしが、敎育あり氣節ある婦人なりしかば平素の訓練遺憾なく、其子の首途に際して懇々將來の心得を諭し、其血管には神聖なる血液の流るゝを忘るゝ勿れと戒めたり、ハーパーは能く母の訓誡を守りて品行を謹み、職務に勉勵するは勿論、母の苦心に酬いん爲

なり、彼は必要缺くべからずと認めたる記事材料に對しては毫も報酬を吝まず、されば、瀛船の沈沒瀛車の衝突等事體容易ならざるものある時は、人爭て其報告を齎らし來るを常とす、曾て大西洋の航路を獨占したるコリンス商會の一瀛船沈沒の際、其急報を齎らし來りたる使者は、深更に及んで紐育に着せしが、商會に赴くに先ち直接ヘラルド社に出頭して遭難の顚末を語り、要求通りの報酬以外に種々の欵待を受け、未だ辭し去らざるに、號外の鈴音勇ましく市中に鳴り渡りて早くも街上の話題に上り居たりと云ふ報道の機敏斯の如し、而して世界の文明國到る處に敏腕なる通信員を置きて費用を吝む事なく其報道の迅速正確を期するが故に、世界の事件は細大洩さず、其紙上に活躍するを常とす、若し通信員にして事件の觀察を誤り、若しくは機敏の處置を缺くことあらば、彼は忽ち嚴酷なる書狀を送りて之を解雇するか、或は召還するかの二途に出づ、其事業經營の方針斯の如くなるが故に、戰時事變の際ヘラルド社の活動は毫も陸海軍の當局と撰ばず、各方面よりの傳騎は砂塵を揚げて飛び來り軍事に關する電報は櫛の齒を引くに似たり戞々たるサウンド暫らくも歇まず、門前常に數頭の馬を繫ぎて出動の用意を怠らざるの狀宛

曾てボストンの客窓にフランクリンの風采を偲びては、腕を扼して未來の榮達を夢みたる一少年今や青雲の志を達して米國言論界の大立者となりぬ、其新築に係る大理石の高樓は新聞社として設備の完全なる世界第一と稱せらる、此家屋の未だ竣工せざりし時、彼は椽大の筆を揮て盛んに國民銀行の不正非行を攻撃せしかば、重役等は其鋭鋒に堪へず、利を以て其氣焔を鎮めんと欲し、書をベンチットに送て曰く『ベンチット君、余等は貴下が大建築の工事と大規模の業務とに依り、莫大の費用を要すべきを知る、貴下若し之が資金の融通を受けんと欲せば、本銀行喜んで之に應ずべし』と、彼は冷かに答て曰く『余は土地の購買及工事の着手前ケミカル銀行に五十萬圓の預金ありたるが故に、本社の新築に關しては一圓たりとも他人を煩はすを欲せず、若し工事受負人にして前拂を希望せば、余は明日中にも悉皆之を支辨せん、之を外にして余は一時間以内に返濟し得ざる債務を負はず、余は今幸にして一圓たりとも銀行預金に手を觸れざるが故に、此金額の現存する限りは卿等の力を煩はすの必要なし』と、是れ豈に奮鬪的紳士の態度にあらずや、彼が成功の秘訣は一言にして盡すを得べし曰く『其新聞紙に對して全力を盡すと』是

とに依賴して千八百三十五年五月未來の大勢力たるべき「紐育ヘラルド」は片々たる小新聞として現はれたり、當時彼が奮闘苦戰の狀は實に目覺しきものなりき、彼は自から記者となり、通信員となりて萬般の事務を主宰し、市內の各新聞紙を見ては、金融界の消息を探り、專ら力を財政經濟の記事に致して實業家必讀の新聞たらしめんことを力めたり、されど彼は獨立不偏の主義を守りて金力の爲に節を屈することなく、且つ投機を以て巨利を博せんとするが如き野心なかりしを以て、恰も孤鶴の九皐に鳴くが如く縱横の淸議を逞うするを得たり、彼は新聞紙を以て自己の生命と爲し、之が爲には一切名利の念を斷ち、殆んど寢食を廢して唯其勢力を擴張せんことを期し、編輯、庶務、會計の事務より、發送配達の雜役に至るまで獨力之を處理したり、されば記事體裁頓に異彩を放ち、南は南米の各殖民地より、北は加奈太の僻邑に到る迄多數の讀者を有し、終に少なからぬ資產を作りて模範的大新聞社の新築を見るに至れり。

△果然無冠の帝王たり

譯に從事するの傍、深刻にして遒勁なる詩歌を掲げ、讀者の歡迎する所となりたるのみならず、其事務的材幹に於て記者としては得易からざる有爲の人物たるを示せしかば、先輩の推す所となりて、漸々其地歩を占め、終に自費を以てクリーアを買收したるも、此一擧は不幸にして失敗に歸せり、千八百二十六年デモクラット黨の機關紙「ナショナル、アドヴォケート」の寄書家となりしが、故ありて其關係を絶ち、ノアの主宰に係る「インクアイラー」新聞社に入り、大に名聲を發揚したり、國會開設の期間、彼は同新聞の紙上に於て盛に深刻直截なる議論を發表し、中央論壇に於ける一重鎭たるの觀ありしが「クリーア」と合同するに及び、銀行問題に關して主幹と意見を異にせし爲め、終に退社するの已むなきに至れり、是に於て彼は更に壘を高うして一方に雄視せんと欲し、當時强弩の末微々として振はざりし「紐育プレス」の再興を圖りたるも、聊か意に滿たざるものありしかば、其方針を一轉して終に理想的大新聞の創立を企てたり、

然れども少許の資產は既に蕩盡して餘す所なく、且つ知己先輩の之れを援助するものあらざりしを以て、彼の苦心は尋常ならざりき、唯其不屈の精神と非凡の材幹

き彼は深くフランクリンの人物を崇拜し、一たび米國の地を踏んで偉人の面影を偲ばんとの志切なりしかば、千八百十九年斷然意を決してポートランドに赴き、更にボストンに轉じ、多大の希望を前途に描きて、茲に新生涯を開くに至れり、彼は米國の雄大なる光景に接して壯心轉た抑え難く、暇ある時は即ち山村水廓を跋涉してフランクリンの遺蹟を探り、或は米國をして今日あるに至らしめたる大革命の慘劇を弔ひ、左なきだに青春燃えんと欲するが如き熱情は、更に一段の活氣を加へ來れり、されど彼れ本と天涯の遊子、身に餘財あるにあらざれば忽ちにして衣食の途に窮し、饑寒並び至る若境に陷れると一再ならず、後一紳士の紹介を以て一小新聞の校正兼記者となり、時々得意の散文詩歌を掲載するに及び、ベンネットの名は辛ふじて一部の讀者間に知られたるのみ、是れ彼が新聞事業に於ける經歷の第一歩なりき、千八百二十二年即ち渡米後三年にして紐育に赴き、再び新聞事業に關係することゝなりたるが、彼の長所は言論にあらずして事業の經營に在り、彼れ幼時嚴肅なる舊敎の感化を受けたるを以て平生敝衣粗食に甘んじ、只管理想的新聞設立の準備に苦心せり、彼は『チャーレストン、クリーア』の一記者として外報の飜

ふべからず。

△新聞事業の大成功者

《ジェームス、ベンネット》

曾て有名なる英國の探撿家スタンレーを亞弗利加に派遣して、リヴイングストンの消息及白人の足跡を印せざる暗黑世界の實況を明にし、歐米の讀書社會をして驚歎せしめたる『紐育ヘラルド新聞』は今尙米國の言論界に大勢力を有し、觀察の奇警なると報導の迅速なるとに依り朝野の耳目を聳動しつヽあり、『ヘラルド新聞』は今を去ること七十餘年即ち千八百三十五年五月ジエームス、ベンネットの手を以て始めて發行せられ、爾來幾多の難關を打破して、今日の如き盛運を見るに至れり、其創立者の奮闘的經歷亦一讀の價値なくんばあらず、彼は蘇格蘭の人なり、父母は熱心なる舊敎信者なりしかば、彼をして牧師たらしめんと欲し、十五歲の時アバーデイン神學校に入學せしめたるが、彼はデー河畔の學窓に在る事三年なりしが一朝飜然悟る所ありて、從來の硏究を廢し同神學校を退學したり、是より先

造家に就きて廉價に購入し得るが爲のみ、其他旅店敎會堂內の設備も亦海陸軍の用達も總べて同樣の方針に依りて處辨す而かも其業務の大部分は彼自から之を擔當して敢て他人に依賴することなく、孳々として劇務に鞅掌し曾て困憊の色を顯はさず、深夜ブロードウェーを通過せし者は、巍然たる大理石の高樓より燦爛たる燈火の洩れ來るを認めむ、是れ彼が萬事を裁決する事務所にして、一日の業務結了する迄は決して退出せざるを常とす、殊に其注意の周密にして記臆の强健なるは驚嘆の外なく、物品の名稱數量及定價は悉く之を記憶し倉庫內の一梱包と雖も彼が眼より逸することなかりき、されば賣買の際にも帳簿若しくは送り狀等を點檢することなく、平然として即座に契約を結ぶが故に、店員は唯其員に備はるに止まり、利益配當の立會人たるの觀ありき』と、吾人は彼が絕大の成功と奇拔の商略よりして二個の敎訓を學び得たり、一に曰く『事業家たらんと欲する者は、如何なる塲合にても務めて債務を負はざらんことを期すべし』二に曰く『品質を精撰し價格を低廉にし、以て顧客の信用を博すること』是なり、人若し此二個の敎訓を遵奉し、不屈の意思を以て熱心事業の經營に從事せば、豫想外の好結果を收めんこと疑

の鉅富を擁するに至れり。

△商業經營上の二大教訓

米國の一記者曾つてスチュワートの營業方針を說明して曰く『スチュワートは他の商人の如く、信用上所謂懸け賣をなせども、購入に至ては必ず現金を支拂ふを常とす、而して約束手形を受領する時は期間滿了迄之を保管し、絕えて割引を以て銀行より取付くるが如き事を爲さず、從て假令不渡となるも毫も何等の影響を蒙らざりしもの丶如し、彼は物品を仕入るゝに當りて自から產地に就き、其品質を撰擇し、必ず現金を支拂ふ、賣品はレース、手袋、毛皮等の雜貨より衣類、裝飾品、室內什器に至る迄上下精粗の各種を網羅して洩す所なし、若し旅行中の貴婦人にして市中に二日を費すの餘裕あらば相當代價を以て好みの衣服及附屬品を調製せしむることを得べく、劇場、舞踏場又は旅行先にありても、迅速に流行品の送達を受くるの便あり、絨氈、鏡、陶器、金銀細工、刄物、リンネル、ナプキン等の模樣形狀も注文次第機敏に製造せらるべし、彼は毫も競爭者を恐れずして紐育市場を獨步せり、是れ彼が直接製

充て、生活の費用を節して只管資本の増殖を圖れり、殊に彼が創業當時に在りては金融機關の設備充分ならず、商業家は唯顧客より收むべき正金に依賴するの外、資金調達の途なかりしかば彼は事業の經營上少なからぬ、困難に遭遇せり、一日彼は巨額の現金を支拂ふの已むなき事情に迫りたるも、調達の途なきに窮し、所持の賣品に對し、悉く割引を行ひ、普く顧客を招いで一時の窮迫を免れんと欲し、各處の店頭は勿論、滊船、旅館、乘合馬車、地下室内に至るまで無數の割引券を貼付し、店頭の物品には正札を付して何人にても割引券引換に交附すべき旨廣告したるに、幾何ならずして店前人の山を築きたり、彼は自から店頭に出でゝ物品の交附に從事したるが、二六時中寸暇なく、數日間殆んど眠食を廢するに至りだるが、顧客は其約束の正確にして物品の廉價なるに多大の信用を拂ひ、期限内早くも店頭一物を留めず、悉く正金と化し去りたれば彼は之を以て債務の償却に充てたり、其機敏大膽概ね此の如し、されど彼は此時よりして決して信用上の債務を負はずと決心せり、爾來市況沈靜を極め、金融頗る緩慢なるに際しても、彼は務めて正金を以て品質精良なる物品を仕入れ、以て顧客の信用を博し、着々其業務を擴張して、晩年には約一億圓

架設して實驗に供すべき費用十二萬圓の支出を議決せしかば、彼は天にも昇る心地して研究に從事し、成功名譽金牌、總ゆる賞讃の辭を受けて千歳不朽の美名を遺したり、裁縫機械の發明者ジャクソン亦略ぼ之と其經歷を同うず、思ふに奮鬪的生活は此新進國民の特長にて、剛健なる精神と遠大なる志望とを懷き、萬難を排して前途の運命を開拓したる者枚擧に遑あらず、されば米國の富豪が世界各國の市場に放下せし資本は實に莫大の額に達し、鐵道船舶鑛山等の大富源を有すること驚くべきものあり、米國富豪の脚一たび歐亞の政治圈内に入れば、各國の帝王將相亦蔭に鼻息を窺ふの觀あるもの偶然にあらず。

△現金主義の勝利

曾て世界第一の富豪と稱せられたるアレキサンダー、スチュワートは愛蘭に生れ、少時大西洋を横斷して米國に航し、其親戚より贈られたる僅少の資本を以て紐育市に一小雜貨店を開きたり、當時彼は自から丁稚となり、運搬夫となり、書記となり、店番となりて一日必ず十八時間の勞役に服し、狹隘なる一室を以て廚房、寢室、客間に

第七章　貧兒より立身せる勝利者

△米國人の向上的精神に富める理由

米國は理想的共和國にして自由平等の精神國内に充溢するが故に、階級的軋轢又は黨派的分立の弊少く、實力次第立身の見込比較的確實なれば、人民皆向上發展の精神に富み、利器を抱いて不遇を歎ずるの徒殆んど其跡を絶てり、フランクリンは活版職の徒弟なりき、ブットナム大將は其初め一農夫のみ、シャーマンは靴工より起り、ジャクソンは路傍に彷徨せし一貧兒のみ、大雄辯家パトリック、ヘンリーも年少田舍旅店の傭人となり、稀世の偉人アブラハム、リンカーンも亦寒村の陋屋より起り、近くは銅鐵王と呼ばるゝアンドリュー、カーネギーも、少年の時一徒弟として掃除番の賤役に從事したることありき、されど榮達の速なる米國と雖も、獨力一事業を成就するは決して容易の業にあらず、磁石電信機の發明者たるモールスは貧窮困阨と戰ふこと多年、事毎に資本家をして莫大なる損害を招がしむるに止まり、終に失望の極自殺を企てしが、恰も好し國會はワシントン、バルチモア間に電線を

往々一家屋内に數百人の同居を見ることあり、而かも其設備に至ては完全なるものなく、殊に獨身の婦人に對しては多大の不便不快を感ずるの場合頗る多ければ彼は此點に注目して同情の念禁じ難く、終に工女合宿所の設立を企つるに至れり、同合宿所内には訪問者の爲に八個の宏大なる應、接所を備へ監督者の許可あるにあらずんば外來者は彼等の居室及應接所に出入する能はず、合宿者は室内に於て洗濯すること及び裁縫其他の機械を取扱ふことを禁ぜらる、後者に至ては少しく嚴酷に失するの嫌なきにあらずと雖も、是れ不愉快なる音響を以て他人を妨ぐるを避くるの趣旨に出でたるものなり、而して世話人としては素養あり品性高き婦人を選んで其任に當らしめ、夜は必ず十一時に各室の出入を禁ず、犬猫其他可憐の鳥獸を虐待することなからしめ、食物其他内外衛生上の設備亦完備せざるものなく、收容せられたる多數の婦人は各自安んじて幸福なる生活を樂みつゝあるなり、彼は合宿所の完成を見るに至らずして歿せりと雖も、此種の事業の唱首たるに於て千歳不滅の光榮を負ふものと謂ふべし。

△富豪の名譽ある紀念

紐育の有名なる織物商スチュワートは大都市に於ける勞働者の生活狀態を憐み、殊に婦人の境遇に同情を表し、完全なる工女合宿所を設立して、美しき博愛心の名殘を留めたり、是より先き紐育市の發展は年々激甚を加へ、商工業の勃興に連れて人口は年々非常に增殖を見るに至り、市內は殆んど工場、事務所若しくは中流以上の邸宅を以て占領せられ、可憐なる勞働者に對しては、其眠食の塲所だに供給し得ざるの光景を呈せり、而して相當の資產を有する者も雜沓喧囂を極むる市內の生活を避けて、近郊に居を移すもの多きを以て、勞働者は市街を距る數哩の僻邑に住居せざるべからざることゝなり、風晨雨夕工塲への往復に少なからざる時間と勞力とを要するのみならず、生活上の困難は日一日と加はりて底止する所なきに至らんとす、されば商工業の著るしき發達は貧民に壓迫を加ふるの奇觀を呈し、殘念なる地主家主の意氣揚々たるに反し、彼等は困憊の極に達せる四肢をすら安んじて横ふべき所なきもの少なからず、是に於てか生計の便宜上共同生活の必要を生じ

の意を表はせりと云ふ、彼曾て成功に關する青年の謬見を道破して曰く『青年の前途に關して憂ふべきものは彼等が成功なる意義を誤解することと是なり、彼等の多數は富を致すを以て成功の極致と信ずるものゝ如し、されど富豪は必ずしも幸福にして滿足なる生活を送るものにあらず、眞正の幸福は良心の滿足なり、所謂富豪等は少壯時代より一意貨殖に急なりし結果、良心の本能を發揮するの機會を失ひたるものなり、エマーソン言はずや、「幸福は唯道義の勝利にのみ存す」と、金錢は手段にして精神は命なり、故に人は金錢を使用する事奴隸の如くならざるべからず、然る 世間の富豪多くは却つて金錢の奴隸となり、其權力に服從するが故に其兒女も亦生活上何等の目的を有する事なく、人生の何物たるを解せざる者多し、吾人は生活せんが爲に富を求むべく、富を求めんと欲して生活すべきものにあらず、人生をして眞の價値あらしむるものは門地にあらず全力にあらず將た又高等敎育にもあらずして、 唯職分の爲に努力するに在るのみ』と、是れ當に青年の三省すべき所、カーネギー翁の所謂「富豪の兒女に恥多し」と、同樣の意義を說明せるものなり。

りと雖も、此種高潔なる人生觀を抱ける實務家に對しては、吾人は轉々尊敬の念を催さゞる能はず。

△所謂成功の本意義

斯くて彼れは勞働者並に一般市民の調和を圖るが爲に全力を盡せしかば上下の信用日に加はり進んで彼が爲に力を致さんことを冀ふに至れり、彼曾て日曜の公會に臨み語て曰く『勞働者は言ふに及ばず、苟くも一事業の爲に努力する者は、社會より相當の尊敬と待遇を受くるの權利を有す、余は路に襤褸を纏ふ一少年に逢ふ毎に、溫言を以て之を慰籍せんと欲するの情禁ずる能はざるものあり』と、以て彼が如何に同情の念に富めるかを知るべし、先に石油事業に一頓挫を來たせしことありしが、彼は自個の損失を顧みず、勞働者の動搖不安の念あるべきを慮り、百方慰安の法を講ぜしが如き其襟度の大尋常資本家の企て及ぶ所にあらず、數年前歐洲を巡遊して歸國の際彼を乘せたる列車のブラットホームに近くや幼兒の慈母を迎ふるが如き幾千の勞働者は手を擧げ、帽を振りて彼の健康を祝し、熱心なる歡迎

に左の法則を制定し之を亞鉛板に大書して工場の壁間に掲げたり、曰く、

本工場出入者心得

汝若し他人をして自個の好む所を行はしめんと欲せば汝亦他人の好む所を行へ

千八百九十五年以來クリスマスには勞働者全般に利益の配當を與ふるを例とせり元來富の使用に對する余の觀念は他の資本主と異り、人は皆平等なるが故に之を以て公益事業に投ぜよと云ふに在り、余は其理想を實行するの一手段として市外の適當なる地區を開きて公園と爲し、運動場を設け、欝葱たる綠林の間水淸き泉の邊に打集ひて各其健康を誇る兒女の活潑なる嬉戲を眺め或は三々五々手を携へて社交上の問題を討議するなど、娛樂の間に利益を求め、平和と健康に滿てる一個の樂天地を現出せんことを務めたり、此結果として市民の利益と幸福とを增進すべき協同保險會社、共同石油會社、社會硏究俱樂部、平等俱樂部等は設立せられたり、斯の如くにして市民は利益目的の共通を感じ、精神の慰籍を得ると同時に物質の豐富なる供給を受けて生活の狀態正に一變せり』と、等しく致富上の成功者な

る生活を爲し得るやを疑ひ、進んで其生活狀態を研究したる結果、彼等は實に悲慘の境遇に沈淪し、日々墮落の生活を送りつゝあるの事實を發見し得たり、是に於て余は奮て勞働問題解決の急先鋒たらんと欲し、余の管理に屬するアクム會社に於ては彼等の生活狀態を一變するに足るべき賃銀を與へ且つ子女をして自由の一市民たるに適すべき相當の便宜を與ふるの制度を設けたり、加之余は社會上平等の觀念を懷かしめんが爲め、相互間に意思の疏通を圖り、屢々勞働者及家族を主賓とし他の一般市民を招待して園遊會を開き其品性を陶冶せん事を力めたり』と。

△慈眼愛腸の資本家を見よ

ジョンス又曰く『余は一方に於いては業務の擴張に伴うて人員を增加するの必要を生じたるが『余は彼等を採用するに當り其習慣性癖乃至信敎の如何等は深く之を吟味せず、一旦就業の上は種々奬勵の方法を以て彼等の向上心を鼓舞し或は給料入れの袋に處世上の格言を記入し、或は時々同情に富める書信を贈りて其心を慰籍するなど周到の注意を以て平等の觀念を鼓吹するを怠らざりき、余は更

の貧なき一貧兒にして、唯正直勤勉の力に依り以て最後の成功を博するを得たるのみ、其自叙傳中の一節に曰く『余はウエールスの一寒村に生る、三歳の時余の兩親は家族を拉して一移民會社の帆船に搭じ、三十日間に亘る長途の航海を經て紐育州に上陸し、玆に新生涯を開きたるも、父母は極めて貧しかりしより、余は種々の勞働に從事したるが、過度の勞働はいたく身體の健康を害したり、十八歳の時ペンシルヴアニアに於ける石油業の有望なるを聞き、直に該地方に赴きたるが、囊中枯渇し盡して僅に三十錢を餘すのみ、且つ一人の知己をも有せざりしかば、到着後三日間は饑渇を忍びて只管職業を求めたりしが、幸にして製油事業家に傭はるゝを得たり、千八百七十年以來余は些少の資本を以て製造業に從事し、爾來幾多の經驗を積みて石油製造の機械を發明せしが、當時之を採用する者なかりしを以て、余自から一工場を設け、之を實際の用に供して世人の注意を牽かんことを怠らざりき、是れ余が勞働問題と接觸せし第一着の事業なりき、元來石油產地に於ける勞働者の賃銀は、他の一般勞働者に比して低廉なるを常としたるが、余はトレドの勞働者が一日一圓餘の賃銀を受くるに過ぎざるを知り、如何にして彼等が大共和國市民た

リング家は辛ふじて破綻の災厄を免れたれども、生來始めて大打撃を受けたるアブラハムは坐ろに金力の恃むに足らざるを悟り、過去を回想して餘生を悲觀するの極、終にピストルを其咽喉に擬して自殺を遂げたり、吾人が今特に富豪ゴールズミット一家の不幸なる末路を叙するは、必ずしも富其ものゝ恃むに足らざるを歎ずるの謂にあらず、貧兒の富豪たり得るが如く、富豪も亦時に產を失ふを免れざるが故に、人生苟も致富を念とするものは一朝の失敗を悲しむ事ゴールズミッドの如くならず、悠々として一時の失意に處する事猶ほ得意の時の如くなるべし、此に至て富豪も亦精神の修養を要す。

△米國勞働者の恩人

アクム石油會社長サミユル、ジョンスは卓越なる技術家たるのみならず、オハヨウ州トレド市の市長として市政社交並に工業界に於ける一大改革者なりき、彼は壯年の時石油田の喞筒に使用すべき特殊の吸管を發明して政府の特許を受け、鋭意石油業を經營して巨萬の富を重ぬるに至りしが、其生涯の首途に於ては、身に儋石

し、以て縱橫の手腕を揮へり、ニューランドは麵麭商の一子にして獨力自個の運命を開きたる程の人物なれば、ゴールドミッドと意氣相投合し、同兄弟は終に彼の推薦に依り千七百九十三年以來政府の財政顧問となり國家重要の施設に對して盡す所少なからざりき、當時國家の財政はナポレオン戰爭の後を承けて頗る窮迫を告げ引續き國債を起すの已むを得ざる場合なりしかば、兄弟は此時機に乘じて莫大の利益を得たるは勿論其觀察の鋭敏にして手腕の卓越なる、常に危機一髮の際に處して禍を變じ福と爲すを得たり、殊に事業家たるベンジャミンの特長は、商業に關する觀察鋭利にして英國內の事情は言ふ迄もなく、世界各國の商況に通ぜると驚くべきものありき、其運動の活潑々地なる亦怪むに足らず、されば千七百九十年の大恐慌に際し內外一般多大の打擊を受けて復た起つ能はざるの不幸に遭遇せしもの多かりしに拘はらず、彼は僅に五百圓の損害を蒙りしのみ、十九世紀の劈頭に至ては一家の繁榮其極に達したるが、其後不幸踵を接して來り、弟ベンジャミンは千八百八年三月其寢室に縊死を遂げ、二年の後兄アブラハムはバーリング家と共に一億四千萬圓の國債に對して大部分を負擔したるが全然失敗に歸し、バー

したるに商勢活氣を帶び來りたるの際なりしかば、價格は意外の暴騰を示し忽にして二百五十餘萬圓の資産を作り、爾後十五六年にして一千萬圓に達したりと、其事業上に於ける手腕概ね此の如し、猶太人の着々財界に勢力を張る所以なり。

△富豪も亦精神の修養を要す

商業界に馳騁するは猶ほ軍を戰場に行るが如し、不幸にして一朝敗績を招げば、其結果は慘憺たる光景、五尺の身を容るゝの餘地なきに至るを記憶せざるべからず、如何にして其逆境に處すべきか、用意は即ち平生の修養に在り。

十八世紀の中葉、ギデオンと時を同うして商業界の明星たりしゴールズミッドはハンバーグに生れ、少時倫敦に出て身を商海に投じ、奮鬪の後終に屈指の資産家となりしが、同一族の家運の最も隆盛を極めたるは、彼が歿後四子共同の經營に移りし時なりき、當時業務の大部分は主としてアブラハム及ベンジヤミンなる二兄弟に依て管理せられたるが二人とも業務の擴張に全力を盡して資産の增殖を圖りたる上、英蘭銀行の重役たるニューランドと懇親を結び、相提携して事業界に活動

ワルポールの如き傲岸にして辣腕なる政治家にても、財政問題の難局に當りては猶太人の金力の前に膝を屈せざるを得ざりき、由來歐洲人は猶太人を目して拜金奴と爲し、社交上之と相接觸するを屑とせざるの風あれども、退て彼等が致富の方法如何を研究すれば、大に彼等より學ぶべき敎訓あり、克己節制は彼等の長所にして、沈毅自重一旦機熟するを見るや星馳電擊優に機先を制す、其莫大の資本を歐米の市場に投下して財界を左右するの勢力ある亦偶然にあらざるなり。

猶太人として致富に成功したる者を算する時は、先づ指をロスチャイルドに屈すれど、吾人は又ジェームス第二世時代に於けるギデオンの驚くべき大膽なる態度を一瞥せざるべからず、時恰も叛亂に際し、商業界は之が爲に大打擊を蒙り、市場は恐慌の聲高く、公債の暴落甚しかりしが故に、價格の高下を問はず、先を爭うて賣却せる者多き中に、ギデオンは獨り買ひ手となり、資産の全部を傾け盡して尙ほ足らず、負債を起してまでも買收に從事せしは十一月の事なりしが、翌月に至りて商況少しく回復の氣配ありしも、人心尙ほ喜憂半ばするの境遇に在り、彼は舊に依て泰然として動かず、翌年三月に至り、叛徒平定の報あるや、彼は始めて之を市場に賣出

るの際、有名なる事務家にして數學者たるガンペルッ倉皇闖を排して入り來り、憤激の色面に顯れて唯事ならずと見へしかば、流石沈着のロスチャイルドも少しく驚き、其故を問へば、ガンペルッは豫て一保險會社の支配人に推薦せられたるに、社長は彼が猶太人たることを知るに及び、斷然之を拒絶したりと云ふに在りしより、ロスチャイルドは之を聽て大に色を作し、突如双手を以て卓を叩き、聲を厲まして曰く『宗教を異にするが故に足下を斥ぞけたるか、然らば余は足下の爲に大會社を設立せん』と、彼を擧げて創立委員と爲し、鋭意新事業の經營に着手し、幸にも成功して保險業中の白眉と稱せらるゝに至りたるが、斯の如きは金力材幹兩ながら備はれる者と雖も亦往々失敗し易きものにしてロスチャイルドの成功は眞に偶然の事といはざるを得ず、事業家の頭腦は極めて冷靜なるを要す、輕擧忘動は必ず大蹉躓を招ぐの基なれば、血氣の靑年實務に從事するに當りては須らく一段の工夫を凝らすべきなり。

△猶太人より學ぶべき教訓

△事業家は頭腦の冷靜なるを要す

人或は一時の感情に激して所謂面當ての事業を企つることあり、かゝる動機より起れる事業は、到、底完全なる發育を期し難く、又行懸り上他人の事業を妨害するを目的として之と同一事業に着手する者の損失を蒙むるは當然の結果なりと雖もかゝる人物の通弊として一二の失敗を以て反省することなく、痩我慢にも全力の續かん限り砂上に家を建つるの愚を演じて、終に見苦るしき失敗を招ぐもの少なからず、曾て繪入ロンドン新聞を買收せんとせし一紳士あり、社主ハーバート、イングラムと交渉し、價格其他の商議略ぼ決せんとせし際、社主は他に思ふ所ありて斷然讓渡を拒絶せしかば、紳士は其目的を達せざるを憤りて競爭上打擊を加へんと欲し、更に繪入世界新聞を起したるが案の如く失敗して全く資産を蕩盡したりといふの類なり。

ロスチャイルドも亦之と同樣偶然の動機より新事業を計畫したることありき、千八百二十四年の春彼れ取引所の一室に在り、身を長椅子に橫へ暫時默想に耽りた

黄金と化するの觀ありき彼は其本業たる織物、羊毛、染料品に於て少なからぬ資産を作りたれども、向上の念飽くまでも强きが故に、小成に安んずるが如きことなく終に銀行家として財界に活動を始めたり、彼は一面に於て大事業家たるの資質を備ふると共に、他の一面に於ては一國の財政家として專門家を壓倒するの見識と學力とを有せしかば、一方東印度商會の實權を握りて民間に雄飛しつゝ、セルボーン卿の顧問として重要なる財政問題の解釋に參與せり、後エクセターより選出せられて國會議員となりたるが、遠大の識、公平の見、一頭地を抽んじて天晴れ政界一方の雄鎭と仰がれたり、セルボーン內閣の繼承者たるピットも亦彼が財政手腕に信頼し、財政上重要の問題に接する每に、彼か意見を徵するを常とせり、晩年功を以て貴族に列せられ、二千萬圓の巨富を擁する商業界の帝王として上下の尊重する所となれり』と、富巨萬を積んで英國々政の樞機に參與せるもの、是れ當年一商店の書記たりしを思へば、丈夫志を成すの機會は適くとしてあらざるなきを知るに於て餘りあるべし。

るは、既に其利子を計算して元利共に回收するの見込確實なる場合のみならむ、此の如き慈善は施與と掠奪と合せ行ふものにして、其事業の大成功を見る能はざるは勿論、往々勞働者の激昂を買ひ、所謂同盟罷工の忌はしき大打擊を蒙らん事當然の結果なり。

△貧少年の驚くべき成功

一貧兒より蹶起して一代の富豪となり、英國財界の大立物となりたるバーリングの一生亦多大の敎訓に富めり、彼は十六七歲の頃獨逸ブレーメンより英國に渡來し、數年間一商會の書記を勤めたるが、其間辛酸具さに嘗め盡くして多少の資本を作り始めて織物店を開き、後羊毛及染色料品輸入業に從事するに及んで巨萬の富を致せり、フレデリック、マーチン曾て彼が實歷を叙して曰く『彼は年少時代より一代の富豪たらんとするの壯心勃々として抑ゆる能はず、其刻苦砥礪多少の財產を作るに及んで彼は猛然として事業界に突進せり、其堅忍不拔の精神と表裏に徹底する觀察とは、事每に其功を奏して曾て失敗せしことなく、一時は手の觸るゝ所皆

ず、且つ其出納事務管理の法に至ては、頗る簡單にして、賣買契約の要務は總て之を代理人に委托し、自から其決算報告を一見して大體を監督するに過ぎざりき』と、其傭人の凡流に卓絕せる此の如し、成功は自ら之に伴ふべし、彼の品性下劣なる事業家は自己の利益を圖らんが爲には何事をも犧牲に供して顧みず、殊に其傭人を遇する冷酷を極め、加ふるに多大の勞力を要求して已まざるの風あり、事理に通ぜざるも亦甚しと謂はざるを得ず、サウゼー曾て吝嗇家マッセー、ローブスに關する珍談を傳へたるが、就中最も守錢奴の面目を發揮したる一事件あり、破產に瀕せる一傭人曾て傭主ローブスを訪うて焦眉の急を救はん爲め四百圓の融通を申込みたるに、彼は之に應じて手形を交付し且つ曰く『某銀行に赴きて現金を受け取らるべし』と、暫時頭を傾けしが『されど足下は定めて多忙なるべければ、余は便宜支拂ひ置かん』とて現金を出せるを見れば、既に普通の割引額を控除したる殘額なるに一驚を喫せりといふ、然るにローブスの平生を見れば時に一擲千金の豪遊を試み、毫も之を吝しむの色なしといふに至ては、品性の卑劣、言語に絕せりといふべし、かゝる性質の資產家にして往々慈善事業の寄附金中に其名を列することあ

しと雖も、意思極めて鞏固なるにあらずんば功を一簣に缺くの悔を貽すを免れず、彼曾て事業經營上活動の必要を語て曰く『人は活動の機關たり、二六時中一定の職業なくして其日を送らん事は到底不可能なり、紳士たるの面目と實力とを保たんと欲せば、始終特定の業務に對して活動せよ、人動もすれば半生を無意味に空費するもの多し、老後の悔恨皆之より生ず、余は如何なる事情ありと雖も、公生涯及特定の一事業界より退隱せざるべし、活動は余の生命なればなり』と、以て其意氣の當るべからざるものあるを見るべし、收入金額以内にて生活するは、固より消極の手段なれば、一方に於ては活動を以て生命とし、向上發達の途を開かざるべからず一記者曾てブラッセーの性格を敍して曰く『ブラッセー成功の基礎は生活費を節約して蓄財に力めたるに在るも、更に彼が人物をして活動せしめたるは、之を以て悉く事業の擴張に投じたるに在り、彼は金錢の價値幾何なるを知ること常人に過ぎたるものありと雖も、其品性高潔にして富を致すの術に汲々たらず、彼は其傭人の待遇を厚うし、充分に努力せしむるを成功の要素なりと信ずるが故に、事業は自から三分の利益を收むるを以て滿足し其他は當事者の勞力に酬ゆるに躊躇せ

して天下に匹儔なからしめし所以なり、千八百五十八年中クルップ人に語て曰く『余若し單に金錢を得るを以て目的とせんか、余は決して我が獨逸の爲に銃砲を造らざるべし、之を埃及波斯其他の半開國に販賣せば檢査粗漏なるが故に莫大の利益を占むるを得ん、されど余が專心工夫を加へて利害を眼中に置かざる所以のものは、一片愛國の至情あるが爲のみ』と、クルップ工場が今日事業家の巨擘と稱せらるゝに至りしもの此熱心と此抱負ありしに由るなり。

第六章　大事業家の踏むべき徑路

△事業の成敗と品性の高下

自己の生活費を節減し、其餘力を以て業務擴張の資源に加ふるは成功の秘訣にして亦處世の要道なり、米國の富豪ブラッセーの成功亦此主義の實行に外ならず、彼は勤儉力行を事業經營上の第一義とし、外見を飾る事を好まず、夙に一定の費額を定めて生計を質素にし、假令不時の收入あるも、決して豫算を超過することなく、悉く得る所を以て事業の擴張費に充てたり、斯の如きは一見頗る容易の業なるが如

かを知るべし、即ち國內に於て約五百の鑛山を有し、其他百十キロメートルの鐵道、機關車四十四輛貨車千九百輛、消防夫百人を使役し、一日平均五千五百九十噸の石炭を消費し、傭人總數四萬三千八十三人の多きに上れるなり。

クルップは工業家としては實に絶大の力量を有したり、獨逸をして鋼鐵業を以て傑出せしむるに至りたるはクルップ與て力あり、彼は先人の遺志を繼ぎて、勤勉力行一意事業の完成を期したるが、抑も彼は如何にして斯かる大成功を見るに至りたるか其平素事業經營上の敎訓として服膺怠らざるもの二あり、曰く『善良なる鐵を用ふるにあらずんば善良なる鋼鐵を得る能はず』曰く『自家の使用する材料は自から之を供給せざるべからず』と、是れクルップの家憲にして、大規模の事業經營上固より必須の用意なり、千八百五十一年倫敦の萬國博覽會に出品せる巨大なる鋼鐵片は觀客をして驚嘆の聲を發せしめたると共に、其品質の精良無比なるは列國專門家の公認する所となれり、以て彼が如何に業務の擴張に全力を盡せしかを知るべし。

彼は品質精良なる鋼鐵を作るが爲には毫も費用を吝まず、是れクルップ式銃砲を

は明敏にして創造の才に富みしかば、種々工夫を凝らして鍍銀スプーン、ロール器等を發明し、其專賣特許權を英國人に賣りて少なからぬ資本を作り、之を以て鋼鐵業の擴張を圖れり、彼は千八百四十四年伯林に開催せられたる獨逸工業博覽會に巨大なる鋼鐵板を出品して好評を博し、千八百四十七年始めて大砲及小銃の鑄造に從事したるが、獨逸政府をして之を購買せしむる迄には多大の時間と勞力とを費し其困難名狀すべからざるものありき、爾來十年一日の如く銃砲製造の改良に全力を盡し、其威力に於て天下に敵なからしめんとを務めたり、斯くて精力無比なるクルップは武器の製造を以て足れりとせず、車輪用の一枚鋼鐵タイヤーを作りて平和的事業の改良を圖り、着々として發展したるが千八百五十九年に至り普魯西亞國王ウイリヤム一世より大砲三百門の注文を受くるに及んで始めて世界的發展の端緒を開きたり普佛戰爭に於てクルップ式を用ひたる獨軍の大勝利を獲たるよりクルップの名は天下に轟き、獨逸は勿論伊太利、墺太利、匈牙利、及露西亞の各國亦爭てクルップ式を採用せしを以て千九百二年迄にクルップ會社の鑄造したる大砲は四萬門の多きに達せり、左に掲ぐる統計に據るも其規摸の如何に大なる

△大鑄砲家クルップの成功實歷

世界に於ける事業經營者中、其の資本の多き、規模の大なる蓋し獨逸のクルップ鑄砲工場に若くはなかるべし、現今のクルップ工場創立者にフリードリヒ、クルップと呼び千七百八十七年に生れ、千八百十年に至り、始めて鋼鐵製造業を開き、當時天下に覇たりし英國シェッフィールドの工場と競爭を試むるを以て其目的とせり、クルップの製造に係る鋼鐵は、其品質良好にして、小道具を製造ずるに適するも、シェッフィールド工場の大勢力に壓せられて其販路を擴張する能はず、千八百二十六年十月彼は無限の恨を懷いて、歿したるが、之が繼承者たりし其子アルフレッド、クルップこそ父の壯志を繼ぎ雄名を世界に馳するに至りたるクルップ大工場の建設者其人なれ、彼は十四歲の少年を以て父の遺業を繼ぐに至りたれども、其受けたる遺產としては唯小規模の一工場ありたるのみ彼は一方に於て父の遺業を經營すると共に慈母及稚き弟妹を養育せざるべからざるの責任を負ひたる其勞や察すべし、彼が第一着に苦心せるは自家製造の鋼鐵を如何にして販賣すべきかの問題なりき、元來彼

はしむるに在り』と、されば博愛平等は此大學の特色にして、職工も辯護士も美術家も志ある者は共に其好む所の專門事項を研究するの便あり、要するに創立者の目的は生活上必要なる專門學藝を修得せしむると同時に、人間生活の本分を盡さしめんとするに在るものゝ如し、スタンフォード夫人先に此偉大なる創立者の眞意を語て曰く『彼は學生をして個人的成功を爲さしめんことを希望せり、茲に成功と云ふは單に金錢上の成功を意味するに非ず、彼が所謂成功なるものは高遠雄大なる人格の修養なり、彼は奈翁よりはアイザック、ニユートンを偉大なりとするもの、即ち個人として富を重ねんよりは、世界の富に貢献するを尙ぶものなり、是れ彼が少壯時代よりの理想にして、大小千百の事業皆この方寸より打算し來れり、彼が事業の爲に努力したるは單に富を致さんが爲にあらずして成す所あらんが爲のみ、而して一旦巨萬の富を擁するに至るや、彼は之を一已の私有とするの不當なるを信ぜり』と、記して茲に至り、吾人はスタンフォード其人に於て、富に對する理想的人物を發見したるの感なき能はず。

△スタンフォード大學の創立

彼が其財産の大部を投じて大學創立を思ひ立ちしも亦此頃の事なり、彼に一人の麒麟兒あり、幼少ながら穎才煥發天晴れ乃父の後繼者たるべき資質を備へ、父より受くべき莫大の遺産を基礎として、一個の理想的大學を創立せんことを畢生の目的とし、萬般の準備に怠りなかりしが、不幸にも十六歳にして夭折せしかば、父母は其志の成らざりしを悲しみ、英靈を慰めんと欲し、殆んど資産の全部を擲ちてスタンフォード大學を設立するに至れるなり、是れ實に慈愛に富みたるの父母が壯志を齎らして魂魄天に歸れる麒麟兒に對する紀念にして、又能く富豪たるの本分を盡したる千古の美譚にあらずや、思ふに、彼が個人として同胞に寄與したる幾多の慈善的事業は固より枚擧に遑あらずと雖も、平和に滿ちたるパロ、アルトの大牧場を後にして巍然雲を凌ぐ幾棟の建築物は彼が人物を不朽に傳ふべき大功業の一なり、彼曾て大學創立の目的を語て曰く『余が本大學を設けたるは青年男女をして遺憾なく其天分を發揮せしめ且つ同胞相助くるに適するの實力と精神とを養

たるの後、終に勝利を博し、一躍して第一流の商業家となり、富と名譽とを併有するに至れり、是に於てか彼は其妻を呼び迎へて幸福なる家庭を作りしが、其有爲の材幹は長く彼をして牙籌の人たらしめず、移住後未だ十年ならずして彼はカリフォルニア知事に任ぜられたり、元來カリフォルニアは山を負ひ海に面し土地豐饒にして風光明媚將來有望の樂天地なるも落機大山脈の爲めに中央諸州との交通を斷たれて其勢力を東方に發展する事能はざりき、而して彼は實に此難關を打破するに足るの適材たりしなり、就任日尚淺きに拘はらず彼は落機横斷鐵道敷設の意あるを公にし、技師を招いで工事の設計を命じたるに、彼等は天險の如何ともすべからざるを以て答へしかば『成敗は必ずしも問ふ所に非ず、吾人は之を實地に試みざるべからず』と、一喝し、千八百六十一年二月を以て工事を起し、千八百六十九年に至り、桑港を距る八百三十哩海拔四千九百尺のプロモントリーに達して終に東西連絡の大事業を完成せり、彼は之が爲に私費を擲つこと一億圓餘の巨額に達せしも萬古盡きざるの富源を開きて太平洋沿海の地に貢獻したるの效果勝げて數ふべからず。

百四十五年アルバニーに於ける一法律事務所に入り、螢雪の勞を積む事四年、年齢二十三の時、狀師として法廷に立つことを許されたり、彼が尙ほ一法學生たりし時偶然一少女と相知るに至りしが、是れ有名なるスタンフォード夫人なり、彼はワシントンに法律事務所を開設するや、直にアルバニーに赴きて其少女と結婚し「新夫新婦は相携へて玆に活世界の奮鬪場裡に立つことゝはなれり、好逑を得たる靑年法律家は衝天の意氣を以て法律事務に盡瘁せしかば、幾何もなくして世人の信用を博し少なからぬ資產をさへ蓄ふるに至りたれど、好事魔多く、一朝火災の爲め多年心血を濺ぎたる圖書室は勿論、家具一切を擧げて烏有に歸したり、此大打擊を蒙りたるスタンフォードは更に一倍の勇を鼓して新生涯を始めんと欲し淚を呑んで最愛の妻に別れを告げ、單身カリフォルニアなる兄を訪うて立身の策を講ぜり彼れ曾て當時の心事を語て曰く『余は此一時の生別に切なる思の炎を燃しつ、長亭短亭宛がら夢路を辿るが如く、何時となく大平洋岸に出でゝ友なき異鄕に漂浪したるが、一たび希望の光明を點じ來れば骨に徹するの苦痛も頓に醫するを覺えたり』と、彼は堂々たる戰士の態度を備へたり、最初の一個月は堪へ難き惡戰を繼續し

人傑と謂ふべし。

△落機山横斷の大事業家

有名なる米國スタンフォード大學の創立者リーランド、スタンフォードは一農夫の子にして地方小學に於ける初等教育を受けたる後、父を助けて其田畝を耕し、名もなき雜草を芟除して之を市に鬻ぎ二圓の金に換へたるは彼が六歳の時なりしといふ、八歳の時には其兄と共に胡桃及栗等の果實を拾ひ集め之を賣却して五十圓の金を得たるが如き當時既に事業家たるの資質あるを證せり、彼は生來極めて強健にして驅幹長大、剛毅眞摯の精神に富みたりしかば父は望を其前途に屬し、彼れが十八歳の時一小山林を購ひ、木材より得べき利益を彼に與へんことを約したるを以て彼は喜んで之に應じ直に一人の助手を傭ひ入れ、自から斧を揮つて伐木に從事し、數週日を經て其樹木一切を伐り盡し、之をホドソン沿岸鐵道會社に賣却して三千二百圓の利益を得たり、されど彼は遠大の志を懷きしかば、之を資本として直に貨殖に從事せんとはせず、法律家たらんと欲する素志を貫徹せん爲め、千八

界の奇傑は巨資を投じて之を武裝し、相當代價を以て買收せられんことを建言せり、然るに彼は政府と持主との中間に立て不正の行爲をなすものあるを見、斷然手數料の贈與を拒絶せしに、彼等は、自己の要求を容るゝにあらざれば、買收の運びに至らざるべき旨を聲言せるにぞ、彼は怫然として其無道を憤り、單身ワシントン府に赴きて當局者に面會し、國家の大事を救はんと爲め、莫大の資力を費したる『ヴアンダービルト號を寄附せんことを申出でたり、抱負の大實に此の如し。

晩年彼が財産は約一億二千萬圓の巨額に達し、一朝有事の日に臨まば國民の一大後援となりて奮闘せんことを期したり、彼は天空海濶の偉業を企つるを以て自己の本領と爲し、區々たる小利害は毫も其心を動かすに足らずと爲せり、而かも慈善事業に至ては自から進んで莫大の金額を投じたるのみならず、常に其朋友を說いて之に贊同せしめたり、一旦事業を經營するや、敢爲果決毫も逡巡の色なく、注意は極めて精密、殊に經濟的大問題の觀察に至ては公正的確、專門の學者と雖も遠く及ばざるものありき、而して其平生の言動を察すれば、簡明直截人と交るに城府を設けず、八十歲の頽齡に達するも矍鑠として意氣壯者を凌ぎたるが如き眞に稀世の

を舉げて太平洋の航路を開始すべし』と、一喝して別れ彼は獅子奮迅の勢を以て船舶の建造に着手し、其竣工を告ぐるや、政府に建言するに一定の期間無報酬を以て郵便物の輸送に從事するは勿論、結束積載揚陸其他百般の事務皆迅速正確なる方法を以て負擔すべきことを以てせり、是れ實にコリンスに對する大打撃にして、勝敗の决自から明かなり、由來ヴァンダービルトの才幹と勢力とは何人も承認する所なれば、政府は直に認可を與へ、其結果として航海補助費を廢止せしより、コリンスは進退維れ谷まるの苦境に陷り、曾て雄姿を海上に誇りたる幾多の船舶は、あはれ一條の黑烟をも揭げ得ずして風撃雨打に任するに至れり、若しコリンスにして虛心坦懷ヴァンダービルトの申込を承諾し、之と協同して前途多望なる航業に從事せば、其成功の更に大なりしは言を竢たざるなり。

南北戰爭の當時、優勢なる軍艦の大部は外洋に派遣中にて所在內海に碇泊せる者は戰鬪力を失へる老朽艦にあらずんば、暴徒の爲に燒かれたる等海軍の兵力極めて微弱なりしかば、艦艇の供給は一刻を緩うすべからざりしなり、此時に當り滊船ヴァンダービルト號は、米國中最も強大なる滊船なりしを以て、其所有主たる事業

卓抜なる海員を招致して作戰計書に汲々たりしかば、當時大西洋の航路を獨占せるコリンス商會に取ては由々しき大敵の出現なりしなり、されどコリンスは巨大なる船舶數隻を有し政府よりは、巨額の補助を受け、意氣揚々海上の覇王を以て自から任じたれば、卒然之と競爭せんことは到底尋常人の夢想だも及ばざる所なりき、汽船の入港する毎に、コリンスは傲然として甲板を濶歩し衆人爭て路を避くるの光景は、威儀棣々と言はんより寧ろ滑稽の觀なきにあらざりき、曾てコリンスの所有に係る一隻の船舶沈沒の不幸に遭遇せしかば、ヴアンダービルトはコリンスに謀るに自己の船舶を以て一時之を補充し、其條件として一切補助費の分配を受けず、且つ新造船竣工の上は直に撤退すべき旨を以てしたるに、コリンスは斷然之を拒絶せり、是れ蓋しヴアンダービルトの膽略に避易するの極、彼一たび手を外洋に伸ぶれば終に自己の事業を蠶食するに至るべく、且つ彼が性質として政府の補助費を辭退するは必然なれば、政府亦各會社に對して補助費の廢止を要求し來らん事を虞れたるに由る、而してコリンスの態度禮を失するものありしかば、ヴアンダービルトは一方ならず憤激し、聲色を厲まして『然らば余は自から資産の全部

務蝟集するも進んで之を處分し斃れて後已むの意氣を示す、平素汽船及航海の業務に從事するが故に、其來客の種類は頗る多く、世界各國の發明家改良者等一室に會同することあり、是れ皆老商傑の一諾を乞はん爲めなること言ふ迄もなし、其賣買契約を爲すの光景亦頗る興味あり、賣り手は先づ彼を其事務室に訪うて品目數量を告げ幾何にて買ひ取らるゝやを問ふ、彼は例に依て數個の鋭利なる質問を發し、直に價格を決定す、若し其價格に同意し難き旨を答ふる時は、彼れは直に口を開きて余は貴下の物品を購ふを欲せず、貴下は物品を賣らんが爲に訪問せられたるにあらずや、若し他に適當の買ひ手あらば、其方に赴かるべしとて一分も猶豫せざれば一錢も値上げせず、其簡明直截なる概ね此類なり」と。

△商傑ヴァンダービルト　（其二）

彼れは鐵道及び船舶事業に從事し、陸上の運輸と河川の航路と相待て交通の實權を握りたるに拘はらず、飽く迄進取の氣象に富みたるヴァンダービルトは更に進んで歐米の航路に其辣腕を振はんと欲し、先づ自費を以て壯大なる汽船を建造し

論なく、必ず之を引受けて其處分に窮するが如きことなかりき、一記者彼の平生を敘して曰く『彼は午前九時より十一時迄は自宅に於て執務し、午後一時に至りて事務所に出勤す、而して其中間を利用してハーレム及ホドソン河の碇泊塲を巡視するを常とす。年齒方に八十歲の高齡に及んでも、其元氣の旺盛なる宛然古武士の風あり一見丈高く色白く風采溫雅にして頭に雪の如き白髮を戴きたるさま自づから崇高偉大の感を催し來る、是れ實に電光石火の如き活手腕を有する商業界の大人傑なり、彼は數奇を凝らしたる一邸宅を以て常務を執る所と爲し百般の號令皆此處より出づ、其轣轆として大道を軋らす四輪の馬車は美事なる二頭の白馬に牽かれ車上の老將時々巨眼を開いて四方の光景を一睨する狀百戰意氣尙ほ壯んなる老將軍の面影あり、試みに彼が居室を一瞥せんか、四壁は巴里製の練絹を以て蔽はれ、楣間に古今の名畫を揭げ、家具什器悉く美を蒐め粹を拔き、眞に目眩し神驚くの觀あり、就中主人の最も得意とする所は其所有に係る汽船及少年時代の紀念物たる一渡船の扁額なり、其來客に接するや用談の終るまで直立して毫も困憊の色なく客の辭し去るを待て始めて椅子に就くを常とす、早朝より深更に至まで劇

△商傑ヴァンダービルト（其一）

米國の奮闘的事業家中ヴァンダービルトの盛名は一時天下を震動せしめたり、彼は幼時より水運事業に多大の興味を有せしを以て、少年の時ステートン島より紐育に通ずる渡船の水夫となり、漸々其地位を高めてノース河汽船の船長たるに至りしが業務の處理頗る敏捷にして、勇敢不屈の意氣眉宇の間に顯はれ、天晴れ一世の大事業家たるの資格を備へたり、後彼は水運事業の合同を企て、ノース河イースト河の交通を獨占し、少なからぬ資産を作りたるが、更に事業の方針を一轉して、商品仲買人となれり、彼は現金を以て購入し、之を轉賣して多大の利益を占めんことを圖り、何時にても賣買契約を爲し得るの準備を怠らざりき、其敏捷果斷にして且つ營業方法の確實なるは彼が生來の長所なれば、忽ちにして多額の利益を收めたり、要するに現金支拂は彼が生涯を一貫せる商業上の主義なりき、若し破産に瀕せる商人ありて其物品を提供し現金に代へんと欲する者ある時は、彼は適當の用途を發見し、直に購買の契約を爲すに躊躇せず、木材、石炭、其他一切の貨物大小輕重に

うて昇進したる者ならざるはなし、されば天下の青年は秩序的教育なきの故を以て失望すべからず、彼等にして自己の職分を重んじ刻苦精勵有用の材たらんことを務めなば社會は自から其驥足を伸ぶるに足るべき地位を與ふるに至るべし、斯く言へばとて余は教育の價値を無視する者に非ず、唯余は社會の實驗的教訓を絕對の必要とし、學校教育を以て補助機關たらしめんと欲するのみ、殊に專門技術家として成功せんと欲する者の如きは、專門學理上の智識を得んが爲に奮勵努力する所なかるべからず、余は常に劇務に從事するの傍、專門家の說を聽き若しくは書籍を伴侶として廣く智識を收めんことを務め、未だ曾て時間を浪費したることなし』と、以て其用意の周匝堅固なるを知るべし、世人のカーチギー鋼鐵會社を訪ふ者は其天地に響く大鐵槌、晝夜絕ゆる事なき黑烟、山の如く堆積する鐵板を見て驚嘆の聲を發すると共に、各十萬圓乃至二十萬圓と云ふが如き驚くべき多額の俸給を受けて幾萬の勞働者を管理する三十二人の重役中僅に三人を除くの外悉く身を勞働者より起したりと聞かば、處世の要道を知るに於て發明する所少なからざるべし。

るもの少し、人若し事業に精通し經營其宜しきを得んと欲せば、身を其事業の最下級に投じて秩序的經驗を積まざるべからざるが故に、少年時代より早く實務に從事するの必要あり、高等教育を受けたる者は、其年齢學識の上に於て各方面よりの誘惑に魅せられ易く、全力を傾注して事業の大成を期するの熱心を缺き、志望極めて高遠なるが如きも、其實は空想多く、實力に於ては年期養成の徒弟に及ばざるも、流行を逐うて交際社會に出入し、其地位未だ固からざるに、早くも娯樂に耽らんと欲する身分不相當の希望を抱くに至る、斯の如き者は到底鐵火塲裡の奮鬪に堪へざるなり、余の管理に係る傭人中にも高等教育を受けたるもの少なからず、されど有力の地位を占むるものに至ては五指を僂ふるに足らざるなり、曾て澳太利のカーネギーと呼ばるゝウイケンスタインは余の主催に係る土曜會に臨み、列席者を一瞥し、余に問うて曰く『列席の紳士諸君の中專門教育を受けたる者幾何ありや』と、余は秘書に命じて履歴を調査せしめたるに僅に三人のみなりしには主客共に驚かざるを得ざりき、前にも述べたるが如く、土曜會に出席する者は各部の主任にして、會社中の有力者なり、而して此三人を除くの外は、皆職務中の最下級より漸を逐

一般青年に對する頂門の一針なり、シュワップ曾てカーチギー會社の總支配人に擧げられたる時、英國の一大事業家來りて彼を其事務室に訪ひ、若し自己の管理に係る製鋼業の支配人たるを望まば、米國大統領以上の俸給を與へんことを告げたるに、彼れは斷然之を拒絶し、且つカーチギーに對しては此事ありしを告げざりしが、數日の後烱眼なる鋼鐵王何處よりか傳へ聞きて、是れ必ずしも辭すべきにあらざるを語りたるに、彼は簡單に答て曰く『余は之を欲せず』『然らば卿の欲する所は何物ぞ』『余は貴會社の組合員たらんことを望む』と、是に於て彼は直に雇人の地位を脱して組合員となり、千八百九十六年終に社長たるの名譽を荷ふに至れるなり彼曾て致富の秘訣を喝破して曰く『自己の着手する事業の主權者たれ、富は求めずして到らん』と、此一語の中無限の妙味あるを覺ゆ、彼又

△高等教育の價値如何

を問へるに答て曰く『事業家たらんと欲する者に對しては殆んと何等の價値なしと言うて可なり、余の知れる限りに於ては、成功せる事業家中高等教育を受けた

の拔群の努力と熱心は忽にしてカーネギー及其他有力者の認むる所となり、彼等の着實なる推奬の辭に皷舞せられて、余は暗夜に光明を得たらん心地し、前途の難關を打破せずんば已まざるの勇氣と確信とは猛火の勢を以て胸底より迸り出でたり、思ふに知己に感じて奮起せざるものは、社會上無用の長物のみ、余は眠れるが如く死せるが如く唯與へられたる椅子に固着して俸給日のみを待ち焦るゝ青年に對しては殆と言ふ所を知らず、彼等は有力者の注目に値せざるが故に、獨り群を離れて社會の最下層に蠢動せざるを得ざるなり、現今の青年にして成功の機會なきを嘆ずるもの多し、然れども余の所見は全く之に反せり、今日ほど青年立身の機會に富める時代はあらず、現に余の部下に在る一主任は重要の地位を充すべき適當の候補者を求むること三週日の久しきに及べるも、未だ其人なきに窮せり、輓近分業盛に行はれ事務益ゝ複雜を極むるに隨ひ、適當なる人材を要する愈多きに至りたるは事實なれども、之が候補者たるべき青年の修養未だ全からず、熱心未だ足らざる所ありて、傭主を失望せしむること一再ならず、故に青年は機會なきを憂へず、唯志なきを憂ふるのみ』と、是れ彼が多年の實驗より出でたる金石の聲にして

力を盡して自己の手腕を養成し、獨力萬難の衝に當りたるが爲のみ』と。

△化學の應用と大成功

シユワツブ又曰く『當時製鋼事業上科學の應用を必要とするを認め、且つ相當の收入を得るに至りしを以て、余は自宅内に化學實驗室を設け、毎夕各種の研究を試みたり、余が繁劇なる事業に從事するの傍、學生同樣の生活を爲すに至りたるは學術を以て一種の娛樂と爲さんが爲めならず、製鋼事業上一として通達せざるものなからんことを期したればなり、余は從來科學の事に關しては正式の敎育を受けたることとなしと雖も、實驗の結果よりして一般化學上の智識を得、殊に製鋼事業に應用すべき部分の研究に關しては、自から造詣の深きを信ずるに至れり』と。是れ事實なり、米國製鋼鐵が戰鬪艦及巡洋艦建造の絕好材料として世界の市場を獨占するに至りたるはシユワツブに負ふ所頗る多し、されど彼は自己の成功の未だ足らざるを明言し且つ語て曰く『青年は其與へられたる常業の外絕へず思慮を費して事業の改良に貢献し、以て自己の價値を示さんことを務めざるべからず、余

如く、聽て自己の頭上に一大鐵槌の落下せんとするを知らざるに似たり、余の經驗に據れば、事業に成功すべき青年は必ず事業の得失を以て自己の利害となし、傭主の爲に努力するは即ち自己の爲に盡瘁する所以なるを覺りて勇往邁進する者なり、炯眼なる傭主は常に其傭人の成績如何を注視し、其功勞に酬ゆるに吝なる者に非ず、されば余が一工場の主宰者となるや、土曜日毎に各部の主任者四十餘名と一室に會して卓を圍み、會食中は一切事業上の談話を避けて、社交上の快樂を共にし、食器を撤するを待ちて當面の諸問題を討議し、何人も忌憚なく事業上の意見を發表するを得しめたりしが、事務の進捗を圖り、機關の運轉を圓滑ならしむるに於て莫大の利益あるを認めたり、先輩カーチギー翁は洽く世人の知る如く、精力絶倫にして峻巖無比且極めて性急にて毫も假借する所なき人物なれば、翁をして滿足せしむるには事毎に非常の苦心を要したり、余は何人よりも務めて敏速に事務を所辯し、翁が一顧を購ふを以て當初の目的と爲し、鋼鐵業の外眼中一物なきに至りしかば、翁は余が有爲の青年たるを認めたるものゝ如く、就職日尚淺きに拘はらず、事實上翁が唯一の顧問たる位置を占むるを得たり、要するに余が最初の一成功は全

エガートムソン鐵工場の支配人となり、少しく自己の手腕を伸ぶるを得たり、是れ余が今日の地位に達せし經歷の大略なり、余が成功の要素は他なし、

△自己の力量を恃む

即ち是れのみ、余は常に立脚地を固うして活動の根據とし、敢て他人に依賴するの陋を學ばざりき、而して其業務の何たるを問はず、獨力之を經營して完全なる成功を見たる時の愉快は實に言語の外に在り、勇氣も之が爲に一倍し、向上心も之が爲めに鼓舞せられて、事業の爲に全力を注がんと欲するの外他に心を動かすべきものなきに至れり、思ふに『自己の手腕を恃め』と云ふの外余は成功の秘訣なるものを認むる能はず、自任、確信、希望、努力等男子の面目を發揮する所以のもの皆此覺悟より出づ、余は又往々にして前途有望なる青年事業家が、執務中の時間を偷んで安樂椅子に其の身を横へ、或は退出時間の早からんことを欲して時計を凝視する者あるを見る每に、其何が故に事業界に手を觸るゝやを解する能はず、彼等は事業の完成を目的とするにあらずして、一分時たりとも傭主の目を逃れむとする者の

運命を開拓し、累進してカーネギー鋼鐵會社の管理者となり、後ちステートン島に於ける一大鐵工場の主任として幾千萬圓の巨富を擁するに至れり、彼は如何にして微々たる少年職工より斯くの如き有力なる地位に達したるか、是れ恐くは讀者の知らんと欲する所ならん、彼一日成功の秘訣を説て曰く『余の經歷も亦事業家たらんと欲する少年に對して多少の教訓たるべきを信ず、余はペンシルヴァニアに生れ、十五歳の時小學を卒業して直に自活の道を求めんとし、郷里ロレット及クレセント間を往復する郵便遞送人となれり、一年の後更にブラドックの一雜貨商に傭はれて一個月二十圓の給料を受け、終日雜役に忙殺せられ、夜間は監視人として店頭に臥するを常とせり、當時一週僅に二三時間の休暇を得るに過ぎざりしも、余は之を利用して、ブラッドックの製鋼所に赴き生來特殊の嗜好を有せる鐵工作業の狀況を見るを唯一の快樂とせり、千八百八十年カーネギーの大工場に入るの機會に接せしかば、余は天にも昇る心地して私に自己の幸運を祝せり、最初の七年間は鍛鐵工として熱火の如き鎔爐に親みしが、後一工場の機關長となり、幾何もなく規模雄大なるホームステッド工場の設計及監督を命ぜられ、留まること二年にして

し為め、容易ならぬ大事を惹起するに至れり、斯の如きは固より極端の例に過ぎざるも、事業に從事する專門家が、社會よりは常に迂濶なりと罵られ、技術上の一顧問たるに止まるが如きは爭ふ可からざる事實なり、されど是れ決して學術の罪にあらずして其失は人に在り、吾人の智力吾人の意思を以てして學術以外に發展の餘地なきを憂へず、要するに智識は飽くまでも求めざるべからず、第一に一般に亘る智識を求め次に專門の事項を研究せよ、是れ最も安全なる方法なり』と。

第五章　活世界の活人物

△熱火の如き奮鬪家。シュワップの風骨

世界の鋼鐵王として將た無類の大慈善家として盛名を世界に轟かせるアンドリユー、カーネギーの幕下に一偉才あり、シュワップの名廣く實務家の間に喧傳せらる彼は殊に青年にして早く既に事業界に於ける活動實に驚くべきものあり、抑も彼は如何にして斯かる大偉才を發揮したるか。

彼は生來特殊の敎育を受けたることなく、身を職工の群に投じ、鐵槌を揮て自己の

△專門技藝修得の必要

テムプル又曰く『近時分業の盛んに行はるゝに從ひ、專門の技倆を要する事一段の深きを加へたり、是れ今世紀に於ける生活狀態の激變より生ぜる現象にして、社會自然の趨勢なれば、時代の要求に應がん爲め一個專門の學藝を修むるは極めて必要なり、彼の二兎を追ふ者は一兎をも得ざるが如く、限ある時日と能力とを以て限りなき各般の事業に應ぜんことは到底不可能の事に屬す、故に少壯の時より一個專門の技藝に熟達せんことを務め、以て活動の本源と爲すは何人に對しても急務なるも、動もすれば事務の一小區域にのみ屛息して生活上絕對の必要ある各般の事情に通ぜざるに至るは吾人の往々見る所なり、殊に熱心なる專門家の通弊として自己の研究事項と關聯せる業務あるに拘はらず、冷淡なる態度を取るが如きに至ては決して輕々に看過すべからず、余曾て印度に在りし時、政廳の高官に、專門學者を壓倒する一數學者あり、彼は幾何學の圓に關する事項を研究して其佳境に達し、殆んと萬事を放擲したる結果自己の所管區內に暴徒の蜂起するを知らざり

意すべきは『克己心の養成』に在り、己れに打勝つものは一國を征服するよりも偉大なりとは希臘時代の俚言なり、青年は大事業家となりて大機關を運轉するに先ち、自身の完全なる管理者たらんことを期せよ、古來感情の人を殺せしは干戈の禍よりも甚しきものあり、殊に忿恚の念程人間の活動力を殺ぐものはあらず、己れに克つは勝利中の最も大なるものなり、是れ先哲の其身を完うし其力を展べたる所以の道のみ、青年は宜しく之を座右の銘として感情の奴隷たらざらんことを期すべし、成功の根本は血氣尙壯んなるの時、自己の目的を一定し、全力を注いで充分なる準備を爲すにあり、人生失敗の原因は一樣ならずと雖も、才能なきが爲に蹉躓する者至て少く、其大部分は『元氣若しくは注意の缺漏』又は『遲疑して決せざる爲め好機會を逸し去る』に由る、ロバート、ピールは大政治家なり、彼が常に青年を戒むるは決して時を失ふ勿れと言ふに在りき、千百の失敗は必ず無爲より生ず、されば有爲の青年は其目的の那邊に在るを問はず、常に活動の姿勢を以て事件の如何に論なく、必ず之を利用せんことを務めよ、されど無分別なる冒險は言ふまでもなく失敗を招ぐの原因なれば、平素實力を養ふに全力を盡すべきは勿論なり』と。

會の一書記よりして終に印度大守の顯職に昇りたるサー、リチャード、テムプルが、曾て逆境に沈淪せる一青年に與へたる、奬勵の辭なり、斯語一見他の異なきが如しと雖も、斯人の口より出づれば即ち活氣あり生命あるを覺ゆる所以のものは、彼亦社會の下層より蹶起したる奮鬪的生活の成功者なればなり、彼が後進者を鼓舞するの言に曰く『人生は遺傳門地、敎育を各邊とせる三角形内に發育するを通例とするも、自から發憤努力するあらば、優に此範圍を超越して絕大の發展を期することを得べし、世上の青年動もすれば自から活動の區域を制限し、掌大の天地に跼蹐するの愚を學ぶもの少なからず、余は余の力の有らん限りを盡して天地間の一偉物たらんとは余の一生を貫ける主義なり、遺傳も敎育も或程度までは其勢力を逞うするを得べきも、人生をして大飛躍大活動を爲さしむるものは、『不斷の努力』即ち是なり、余は十二三歲より實務に從事し今日に至るも未だ曾て靜止したることあらず、人生は二十五歲前後に於て一大責任を負ふの必要あり、世の實業に志す青年の爲す所を見るに、中には偉大なる發達を遂ぐべき才能を有しながら、勉强して之を助長することを務めず、碌々其生を終る者頗る多し、要するに彼等の須らく注

終に萬國郵便會議の議題に上りて、各國の同意を經、今日の如き低廉なる信書料金の基礎を爲せり、彼は長官の職に在ること十個月にして退き、紐育に歸來するや直にリンカーン銀行の頭取に推擧せられたり、彼曾て現代青年の前途多望なるを說いて曰く『意思鞏固にして性質善良なる少年に對しては、何れの時期、何れの場所にても立身の途あらざるはなし、殊に商工業の發達非常にして、益機械の應用を必要とする今日に在りては、何れに適くとして不可なるものあらんや、余の信ずる所に據れば、成功の要素として算すべきものは熱心、勇氣、忍耐、の三者のみ、余は天才なるものゝ現世に存在するを認めず、世人の所謂天才とは凡人の少しく一方面に發達したる者を云ふのみ、余未だ生れながら曲藝を能くする馬匹を見ず、彼等は訓練せられたる良馬に過ぎず、余が銀行家としての成功亦此理に外ならざるなり』と。

△活動して好機會を捉へよ

『現時の世界程青年出世の機會に富めるはなし、絕頂には常に一室ありとは古人の敎ふる所、今尙有爲なる青年を容るゝの巨室は到る處に存せり』とは東印度商

頼する所となれり、彼は當時の經驗を語て曰く『余は務めて事業の微細なる點に注意せり、事業の成績は命令規則の如何に關せずして、之を運轉する人物の能力に依る、且つ經營宜しきを得んと欲せば決して人に對して過重の負擔を課すべからず、要するに彼等の一擧一動は總て重大なる事業の得失に關す、故に其服務上の勤惰は直に國家の生產力を增減するの力あることを知らしむべし』と、彼は大統領ガーフィールドの下に驛遞長官に榮轉し、職に在ること久しからざりしも、卓拔なる行政的手腕を揮て事業の刷振を行ひしこと枚擧に遑あらず、就中最も異彩を放てるは郵便の收入を增加せしめたる事是なり、彼が長官の職に就くや、千八百六十五年以來郵便事業の經營に於て年々國庫に約四百萬圓の缺損を生ぜしことを發見し、銳意之が善後の策を講じ、從來國家の法令に背いて信書の逡達を營業とせる海陸運逡業者に大打擊を加へんと欲し、一方に於ては司法部と力を協せて犯罪者の檢擧を勵行すると共に、他の方面に於ては郵便稅に多大の輕減を行ひ、以て民業を樸滅せんと試みたるが、首尾能く偉効を奏して歲入の增加を見るに至りたるのみならず、人民は新制度をペンニー、ポストと稱し、普く社會の各階級に歡迎せられ、

健となり鞏固なる道義の觀念を懷いて生活の奮闘場裡に馳驅するを得べし、加之斯の如き風習は終に資本家と勞働者の意思を疏通せしめ、利害得失を共にするの極、彼の忌はしき同盟罷業の弊習を一掃するを得べきは余の確信する所なり、余が常に一般傭人の爲に我居室を開放し、一身上と職務上の事故に論なく、彼等の來り談ずるに任ずるも亦是が爲のみ』と。

△成功は訓練の結果のみ

彼が新聞記者より驛遞長官となり、更に轉じて銀行頭取たるに至るまでの經歷中、常に此開放主義を實行して事業の圓滑なる運轉を期したるは如何に彼が幼時の記憶に動かされたるを知るに足るべし、彼はリバーテー、プレスを出づるや、多年辛苦の結果に成れる資本を投じて紐育社會黨の機關紙たりしマヂソン、カウンテー、ジョーナルを買收し、穩健着實の議論を以て雄を一方に唱へたるは今尚世人の記憶に新なる所なり、後グラント將軍大統領となるに及んで、彼は紐育の郵便局長に任ぜられたるが、彼は能く政爭の外に卓立して、交通機關の發達を期し、一般社會の信

して諸般の業務に從事せり、曾て幼時の經歷に就き語て曰く『余の父母は兒女の敎育に就ては寧ろ放任主義を取り、自から啓發するに任ずるの風なりしが、是れ余に取ては却て多大の幸福を與へたるものにして、余は幼時より獨立自營の精神に富み、進んで責任の衝に當るの好習慣を養ふを得たり、余のリバーテー、プレスに入るや最初新聞紙を折り疊むを本務とし、一週二圓の給料を受けたり、暫時の後三圓の增給を見るに至りしかば、余は直ちに銀行通帳の交付を受け、殆んど其の大半を貯蓄するを常とせるが、當時余の滿足は實に言語の外にして四圓の給料を受けにる當時は我鄕里を以て樂園と爲し、此間に逍遙するの外。他に何等の野心とてはあらざりき、時に一般の風習として年期極めの徒弟は皆傭主の家に同居し、傭主は之が監督者となりて良友及良習慣を得しめんことを務むるの傍、將來有用の學業を修めん事を奬勵せり、されば可憐なる少年も孤影煢然街頭を彷徨するの不幸を喞つことなく、暖かき家庭生活の趣味快樂を感じ且つ紳士淑女の言語應對を學びて社交上の智識を得ること少なからず、身斯かる境遇に在れば自から飮酒喫烟其他品位を失墜すべき諸種の遊戲に遠かり、此家を辭するに及んでも心身兩ながら剛

利益配當を爲し、市場に於ては一株九千圓の高値を稱へらるゝが如き、其信用の厚きを知るべし、眇たる一私立銀行をして斯の如き大成功を得しめたるものは主としてウイリアム其人の企畫經營其宜しきを得たるに由らずんばあらず、彼又天性俠氣に富み、他の銀行業者の如く、金庫室内に踟躕することなく、幾多の事業家を助けて財政の危機を救ひしこと一再に止まらざるなり。

△青年立身の秘訣は如何

『青年立身の秘訣は唯收入以内に生活するに在り』とは曾て米國驛遞長官の職を奉じて令名あり、後リンカーン銀行の頭取となれるトーマス、ジェームスの喝破せし所なり、彼は軀幹長大にして眼光鋭き一個の大丈夫、元氣頗る旺盛なれども其態度は極めて眞率にして毫も邊幅を修めず、身を一新聞社の職工より起して銀行の頭取に終るまで終始質素なる田舍風の生活を持續し、曾て豪奢の風なかりしを見れば、彼亦尋常事業家の匹儔にあらざるを知るべし、彼は紐育の高等學校を卒業したる後、印刷事業見習の目的を以てリバーテー、プレス新聞社に入り、職工等と伍

り如なる大工場の支配人たりとも、其人の平素にして分外の驕奢を事とする時は貸出若しくは支拂の際多大の注意を怠るべからず、自己の收入以内に生活する能はざるものは危機に瀕すること多ければなり、大規模の商事會社を對手とする時も亦然り、銀行家は常に一般經濟界の風潮に留意して不測の損害を防ぐの用意なかるべからず』と。

ウイリアムは千八百二十六年コン子ーチカット州に生る、地方の小學を卒業して後大學に入り、法律事務に從事せんと欲せしが故ありて其志を果さず、十五歳の時ヶミカル銀行の現金出納掛となり、終に累進して頭取となりたるは千八百七十八年彼年五十三歳の時なりき、然れども彼は事實上の主宰者たること四十年の久しきに及べり、該銀行は千八百二十三年中藥品製造會社として設立せられ、創立二十年の後之を改めて資本金六十萬圓の銀行組織となせり、最初の五年間は純利を擧げて準備金に繰込み、毫も配當を爲さずして世人の信用を博せんことを務めたるが、六年目には一株に付二個月毎に壹割五分年末に一割、一年合計拾割の配當を爲すに至れり、千八百八十八年以來常に千二百萬圓以上の準備金を有し、年々拾五割の

度量とを有せざる不具者なりと云ふの外なし、苟も男兒の眞骨頭を發揮せんと欲する青年は、かゝる狹隘なる徑路を撰ばずして、堂々たる人道を濶歩し、路傍に横はれる幾多の弱者失敗者を救助するの勇氣と實力とを養はざるべからず。

△人物の鑑識と成功の要素

以上は彼が青年に對する教訓の大要なり、商工業の中心たる紐育に於て而かも黄金の出納を職業とする銀行家の口より斯の如き大教訓を聞かんことは、聊か意外の感なきにあらずと雖も、是れ彼が實業家として内外の尊敬を受くる所以なり、彼曾て人に語て曰く『銀行業上の最も主要なる注意は人物の鑑識是なり、余は割引の事務に從事するの際、諸種の約束手形を取扱ふの困難なるを認め、各方面よりして其人の信用如何を知るの必要を感ぜり、通常の教育ある者は、銀行事業に通曉すること頗る容易なりと雖も、人物の鑑定法に至ては亦特殊の經驗を積まざるべからず、雲に聳ゆる大厦高樓も山爲す金銀財嚢も、所謂槿花一朝の榮に過ぎずして、賴む所のものは唯之を管理する人物の品性如何に存す、如何なる大事業の管理者た

の習慣を養はんことを勸告す。

（四）、成功の根本は職分を盡すに在り。

人道を尊んで自己の本分を盡すは成功の根底なり、造化は人間に與ふるに無限の精力を以てす、然るに其百分千分萬分の一をも費さずして我事足れりとする者あるは人生の弱點なり、世間自己の榮達を圖るに急にして毫も他を顧みざる者あり彼等は自己の目的を達せんが爲には、他人の利害得失を眼中に置かず、其狀恰も患者の唯己れのみ疾苦を免れんとするに似たり、人生の行路は此の如く險惡にして又此の如く狹隘なるにあらず、人は自己の發展を圖ると共に其父母妻子兄弟朋友より延いて國民全躰に對する諸般の義務を盡さゞるべからず、抑も人は社會を組織する總員中の一人なるが故に、絕對的獨立の態度を保つ能はず、見易きの例を擧ぐれば、若し自己の不注意懈怠に由り家內に傳染病患者を出すか又は火を失したりとせむ、其影響は己れ一人に留まらずして四隣は忽ち損害と危險とを受くるに至らん、國民相互間の關係は猶隣保の關係の如し、故に吾人は利己一偏の成功者を以て眞誠の成功者と爲さず、彼等は自他共に利するの手腕と

きは明白たり、されば有爲の青年は斷じてか丶る不健全なる希望を懷くべからず。

(三)、誘惑に打勝つべし。

社會上各種の誘惑亦青年の品性を墮落せしむるの動機なり、時に誘惑と戰うて自己の意思を錬磨するは强ち無用の業にあらずと雖も、巖墻の下に立たざるは君子の用意なるが故に務めて之を排斥すべし、仔細に人間の生活を觀じ來れば、場所の如何に論なく時の如何を問はずして誘惑必ず其身に及ぶ、是に於てが意思薄弱なる青年は、不知不識惡風に感染して、自から其然るを知らざるに至る、彼の飮酒喫烟の習慣の如き即ち是れなり、殊に大都會に出で來りたる地方の少年は、其孤獨の境遇に在りて轉寂寞の感に堪へず、終に誘惑の爲に魅せらる丶者多し、思ふに彼等の失敗は其天品の不適當なるに依るにあらずして、誘惑の然らしむる所なり、都會の少年が比較的健全の狀態に在るは家庭の快樂あるが爲のみ、故に余は意思鞏固ならざる地方少年の濫りに都會に出で來るを好まざると同時に、都會の少年も亦四圍の不健全なる氣風を排し高潔なる家庭の淸樂を樂む

の時、須らく勉強して克己節制の精神を養ひ、收入の多少に拘はらず必ず幾分かの貯蓄を爲すべし、是れ頗る困難なる事業には相違なしと雖も、此方法を外にしては他に適當の途なきなり、壯年の生活中には往々無用の金錢を投ずることあるが故に、少しく注意して血氣の慾望を愼まば、生計上餘裕を生ずること決して難からず、是れ人生成功の大本にして、世間事業に成功する者の大多數は皆此道に由らざるはなし。

(二)、暴富を望むべからず。

有爲の青年動もすれば着實なる事業に從事するを屑とせず、赤手を以て一攫千金の巨利を博せんと欲する者あり、彼等の智能材幹は以て大成を期するに足るものありと雖も、一たび斯かる法外の野心を抱くに至りては、其品性の墮落到底拯ふべからず忽にして貪慾の惡魔となり、無分別なる冒險家となり、暴戾なる人道の蹂躪者となるべし、彼等は僥倖にして暴富を得ることあらん、されど富を維持するの道は之を得るよりも困難なるのみならず、豺狼の慾を逞うして飽く事を知らざるの結果一頓挫を招ぎ、其末路に於て慘憺たる悲劇を演ずるに至るべ

△老銀行家の與へたる教訓

一般青年の通弊として空理空論に走り、思想徒に高遠にして實行之に伴はず、事毎に蹉躓するの極、終に人生を悲觀するに至ることあり、殊に金錢に關しては恥るに足らざる世俗の非難を恐れて冷淡に看過し、若しくは故らに無頓着の風を装うて得たりと爲すが如きこと珍らしからず、彼等の本領は男子の意氣を尙び、獨立獨行するに在るべしと雖も、獨立の基礎は金力に在り、精神物質兩ながら他人の援助を必要とせざるにあらずんば、未だ以て眞正の獨立と云ふべからず、彼の白日昂然として大道を濶步し、暮夜私かに憐を權門に乞ふが如きは往々才子の末路に見る所なり、されば將來有爲の青年は須らく生活の眞相を究め、實驗家の說に耳を傾け、天の未だ雲雨せざるに先ちて牖戶を綢繆するの策を講ずべし、前項に掲げたる老銀行家ウィリアムは實業に志せる青年を戒めて曰く

(一)、青年は須らく勤儉貯蓄の美風を養ふべし。

人若し紳士たるの態度と實力とを備へて幸福なる生涯を送らんと欲せば、少壯

滿足と信用とを購ひたるを信ず、而して余の應接したる人物には、貴族あり勞働者あり、學生あり軍人あり農夫、投機師、商業家、技術家等社會の各階級を包有せりと雖も、服裝質素にして態度の着實なる者は漸々其資產を增殖し、言動倨傲にして萬事豪奢を競ふの風ある者に至ては人品の卑陋なるは勿論其富も亦久しく蓄ふる能はざるの事實あるを發見したれば、余は勤儉の美風を養ふと共に正義の觀念を强うし如何なる場合と雖も嫻雅なる辭令と慇懃なる態度とを備へんことを務め、且つ傭人に對しても亦之を服務の一條件となせり、元來傭人の態度驕慢なるか若しくは無作法なるに依り、重要なる顧客を逸し去りたるの例少なからず、是れ獨り銀行家のみならず、一般事業家の三省に値すべき問題なるに拘はらず、人往々之を目して些末の事と爲し、輕々看過し去るの傾向あるを免れず、余未だ斯の如き者の成功したる例あるを聞かず、余の管理に屬する銀行に於ては上は重役より下給仕に至るまで、務めて言語應對を丁寧にし毫も高慢の態度なきを以て、之に接する顧客又は其傭人も自然儀容を修むるに至りたる事は余の屢々見聞する所なり』と、事業家の事業に對するの用意は當に此の如く周到なるべし。

すに至りたるは約四十年間該銀行管理の任に當れる頭取ウィリアムの努力に依る所頗る多し、彼曾て往訪の一新聞記者に語て曰〳〵『世間銀行業を營むに特殊の才能を要すと信ずる者あるは過てり、高尚なる學術を修めたる者の却て銀行業に失敗すること多きは余の實驗せし所にして、唯普通の敎育を受け、事務に通曉する能力を有し思想緻密にして克己心に富める者は何人にても成功の機會に接するを得べし、されど一般少年は智識の開發にのみ力を致し、意思の鍛練を怠るが故に功を一簣に缺くの憾あるを免れず、余輩の人を採用するや、先づ其資質の正直にして意思鞏固なるや否やを精査し其他は假すに歲月を以てして彼等の自から啓發するに任すを常とす、余をして今日の地位を占むるに至らしめたる成功の第一步は『慇懃なる態度』是なり、余の現金出納掛となりて各種の人物に接するや丁寧親切を旨とし、待遇に厚薄なからんことを務めたるが、余が家庭の敎訓は此時に及んで多大の價値あるを認めたり、余の父母は性質極めて嚴格にして品性の陶冶を敎育の第一義と爲し倨傲驕慢の態度を憎むこと甚しく、殊に表裏二樣の言動と卑怯の振舞あるを許さゞりき、余は常に此觀念を以て公衆に接せしを以て、多少彼等の

三百人の候補者を有する旨を告げたれば彼は『然らば余は千三百一番にて可なり』と稱し首尾克く之を一手に受負ひ、尚外に門番、案内人を供給し且つ觀客用の雙眼鏡百二十五個を備へ付け、豫想外の利益を得たりしは、是れ彼が獨力經營に係る事業の第一着なりき、後彼は多數の乳牛を飼養して牛酪の製造に從事せるが、是れ亦實に目覺ましき成功にして、毎朝搾乳人の行列は數哩の長きに達し、牧塲の廣さは二百五十萬エーカーに及び傭人の總計は五萬五千人を算し、牧塲工塲の内外は馬車と人夫とを以て滿たされ、其喧囂奔走の狀一見戰塲に異ならず、而して一年産出する所の牛酪の量は實に七八百萬封度に上れり、彼はかゝる大事業を管理するの傍、教育及商業局長として其辣腕を振ひたり、十數年前一週六圓の給料を得て將來の榮達を夢みたる一少年は、終に米國事業界の大立物として一般社會の尊敬を受くるに至れり。

△銀行業に成功すべき資格

紐育のケミカル銀行が千二百萬圓の準備金を有して年々十五割以上の配當を爲

事業に忠實熱心なりしが爲め大に主人の信用を得たれども、彼は終に自己の手腕を揮ふに足らざるを歎ぜるの時、恰も彼の伯母に當るロバート、ピンカートン夫人加奈太より來りて米國事業界の目覺ましき活動の光景を語りしかば、彼は渡航の雄心禁じ難く、伯母の承諾を得て終に米國行の滊船に搭じぬ、其市俄古に着したるは千八百五十九年十月にして南北開戰前約一年半なりき、當時商工業の中心はランドルフ及レーキ、ストリート地方にして殊に全盛を極めたりしはロス、アンド、フオスター及ポッター、パルマーの二家なりしが、其懸引競爭の激烈なるに驚きながらも此英國少年は己れ亦他日商業界に縱横の奇才を揮はんとの野心を抱きたり、彼は到着當日の午後直にパルマーを訪うて呉服部に採用せられんとを求め、一週六弗の給金を以て傭はるゝことゝなりたるが、先に三年の經驗を有せるを以て就業日尚淺きに拘はらず非凡の手腕を顯はせり、パルマーも亦其實力を認め、漸々昇進の途を開きたるも、彼は自から事業を經營せんと欲するの念盛んにして、一日も小康に安んずる事能はず、後クロスビー、オペラの創立に際し彼は好機逸すべからずとなし其座内の飾裝一切を受負はんことを申出でたるに、クロスビーは既に千

士に選出せられ同地住民は大いに彼れの徳を高しと爲し、銅像を鑄造して其功業を表彰せるに見るも、彼の成功の如何に偉大なるかを察するに餘あり、男子若し實業家たらんと欲せば、光榮を擔ふことソールトの如くせよ、富を蓄ふる事幾千萬、而して人格の高潔能く一代の師表たるものにして、始めて眞に實業家の本領を發揮すと謂ふべし、意思の在る所必ず道あり、意思茲に存せざるが故に目的の地點に達し得ざるのみ。

第四章　致富上の實際的教訓

△牛酪王ニューマンの奮闘實歴

米國に於て最も成功せる牛酪營業者ジョン、ニューマンの英國より米國に渡航せるは十七歳の時にして、一呉服店の店員となり、一週六圓の給料を受くるに過ぎざりしが、今や米國の牛酪王と稱せられ一日約三十萬石のクリームを製造するに至れり、彼は千八百四十二年英蘭に生る、其郷里は山間の一小村落にして將來發達の見込なかりしかば彼は十四歳の時三年間の約束を以て一呉服商の丁稚となり、其

に耳を傾くるものなかりしも、彼は毫も失望する所なく、其意見の決して誤らざるを證せん爲め、單に織物材料の販賣に止まる事なく、進んで機業家となり、其同業者と競爭を開始せり、彼の意見は果して實際上に多大の收益あり、此一擧は晩年に於ける光榮ある成功の端緒とは爲れり。

△光榮ある實業家たれ

彼の事業は着々其規摸を大にし、率先してアルパカ織を販賣し、僅々數年間にして驚くべき巨利を占めたるが、事業の基礎益々確實となるに及んで、第一期活動の舞臺たるブラッドフォードを去り、エイル河畔に好位置を卜して大工場を建築したるが、是れ有名なるソールテイルの工場と稱せらるゝものなり、此新工場の落成は千八百五十三年にして、開場の當日には代議士、市長、學者、實業家等を始め朝野の紳士來會せる者無慮數千名、其使用せる職工三千餘名はブラッドフォードより列を組んで新工場に赴く等非常の盛觀を極めたり、彼は千八百六十九年を以て勳爵士（ないと）を授けられたるが、先是ブラッドフォード商業會議所會頭に推擧せられ、又同地の代議

奮闘の用意を教へて曰く『砂漠に道なし、然れども勇往邁進すべき希望あり意思あるものは必ず、自己の目的地點に到着するを得べし、其經過せる所は即ち道なり前賢皆此の如くにして大業を遂げたり』と、商業界の奮闘者は必ず須らく此覺悟あるべし。

英國ヨークシャーの富豪タイタス、ソールトは決して初めより大人物として生れ若しくは特殊の幸福なる運命に際會したるの人にあらず、亦是れ意思の思る所必ず道あるの理を躰して奮勵黽勉、行くべきの地に行きたるに過ぎざるのみ、彼は千八百三年九月を以て生る、其父ダニエル、ソールトは彼の出生後、幾何もなく、ブラッドフォードといへる地に移轉して大規摸の羊毛商店を開業したり、彼は長ずるに及んで家業に從事し、出資社員の一人と爲れり、時尚ほ一青年に過ぎざりしも其意氣極めて壯んにして、總ゆる羊毛業者を壓倒せんとするの概ありき。當時ソールト、商會の最も多量に取引せる露國ドンスコイの羊毛は單に織物用に充つるに過ぎざりしも其品質毛糸用としての商品に適せるを見、同地の各機業家に對して直に其意見を發表したるに、何れも露國產羊毛の需要少なしと爲し、其言

食物を命じ殆んど手を觸れずして多類の金を拂ふ人に接する毎に、余は其面を見るを欲せざる程嫌惡の情を喚起するを常とせり、かゝる人は決して社會有用の材となるものにあらず、少年を敎育するの際先づ其衣服、食物、金錢に關する質朴の美德を養成せしむべし、世人皆富豪となるは不可能の事なりと雖も、相當の資産を有して獨立の生活を樂むは何人も之を能くすべきものなり』と、彼が事業上の成功は決して奇異とするに足らず、是れ人生の勢力に對する自然の報酬のみ、天下に乘ずべき好機會なしと云ふ者あらば其愚や及ぶべからず、機會は何時にても勤勉正直なる靑年の來り捉ふるに任するものなり。

△意思の在る所必ず道あり

英國綿絲業界の盟主として名を得たるカーショーはマンチエスターの一貧兒として夙に運命の弄ぶ所となりたるが、年少ながらも、漫に空想に驅られて希望すべからざるものを希望し、無爲にして好運の到來を待つが如き愚を學ばず、飽く迄自己の力量に信賴し、進んで其運命を開拓したるの人なり、彼れ曾て商業界に於ける

を得たりしなり、されば其業務擴張の勢亦頗る目覺ましく、千八百七十八年には僅に五十輛を製造するに過ぎざりしが、未だ數年ならざるに、資本金一千萬圓を有し、コンチカット州に在る四大工場は總建坪十八エーカーに達し三萬人の職工と三千八百人の代理人を有し、一日六百輛以上を製造するを得たりと云ふ、亦驚くべき進歩にあらずや、彼は一方其販路を擴張せんが爲め、代議士及政府の當局者を促して道路の改築を實行せしめんとし、一時事業界の問題となりたる如き亦以て其勢力の偉大なりしを察すべし、彼は斯の如き大會社の主宰者たるのみならず、米國貸金及信託會社の社長を兼ね、ポトマック陸軍協會の副總裁にして、米國政治社會學協會の終身會員たり、其他彼が直接關接の關係を有するは米國發明及製造組合、ハートフォルド商業局、ウエレスレー大學及ハーヴァード大學等にして、其天賦の才幹を揮つて如是の信用を博するに至れるなり。

要するに、勤儉貯蓄の美風は彼が實業上の成功を促したる唯一の原因なり、彼は生來無用の費用を嫌ふこと甚し、彼は外見を飾るが爲め金錢を費すを以て一種の罪惡と爲すものゝ如くなりき、曾て一記者に語て曰く『余は旅館に宿泊の際無用の

△自轉車製造の大成功

千八百七十六年の大博覽會に於て彼は始めて自轉車を一見し、其構造の巧妙にして効用の大なるを認め、種々研究の結果、將來の需用益多かるべきを確信して自轉車製造業を創始せんことを企て、先つ千八百七十七年ポープ自轉車會社を起して英國品を輸入し販賣し始めたり、翌年春コンチチカット州の一會社に於て自轉車を製造したるが、是れ米國品の嚆矢なるが、後ポープ會社も亦種々苦心の結果完全なるものを製造し、趣味と實益とを一般に普及せしめんが爲め、自轉車乘りの選手を傭うて遠乘を試み之が爲めに十二萬圓の費用を要したれど其効果顯著にして公私共に之を利用する者日に增加するの勢を呈せり、創業當時に於ては自轉車を目するに大規模の玩具を以てするの傾向あるを免れざりしも、ポープが實驗を以て其効用を吹聽せしより、馬車若くは其他の交通機關と同樣の觀を爲すに至れり彼は自轉車全躰若しくは附屬品に付改良を試みたる者あるを知る時は直に相當の報酬を以て其權利を買收するを常とし、之に依りて少なからぬ利益を壟斷する

從事すると同樣の熱心を以て從軍の用意を爲せり、彼は軍隊に關する規則を熟讀し且つ戰術の一班を研究して時機の到るを待てるの際、翌年の夏リンカーンが三十萬の兵を要する旨を布告するや、この十九歲の少年は中隊付の少尉として從軍し、累進して大尉となりたるが、彼は每に聯隊長以上の實力を發揮したりと稱せらる、されば彼の力量は長官の認識する所となりたるが、殊にワシントン府防備の任に當るべき砲兵一個聯隊を十二時內に組織せるが如き其技倆驚歎するに堪へたり、彼はテンネッシー州、ウィクスバーグ、ミッシッピーの各地に於てグラント、シャーマンの諸將軍に從ひ勇名を轟かしたるが、フレデリックスバーグの戰功を以て少佐に任ぜられ後ノックスヴイル及ポプラー、スプリングス、チャーチに戰うて偉勳を奏し累進して大佐となれり、かくて彼は前後十回砲烟彈雨に暴露せしも、幸にして隻脚に微傷を負ひしのみ、彼は戰場に於ける好箇の指揮官たりしのみならず、少年時代に於ける勤儉貯蓄の習慣は兵馬倥偬の際にも其本領を發揮し、他の將官若くしは佐官の輩が一錢の貯蓄もなく却て一種粗豪の陋習を得て歸鄕したるに拘はらず、彼は六千圓の貯金を得て再び事業界に健鬪するの人となれり。

個月僅に一圓二十錢を以て生活せしことあるも、飲食費の外必ず若干の準備金を有せりと云ふが如き、如何に彼が克己の精神に富めるを見るに足るべし、晩年に至る迄彼は此習慣を恪守し、慈善其他公益事業の爲には數百萬圓を擲つことあるも無用の事物に對しては一錢をも與へず、是れ彼が能く其大を成せる所以なり、千八百五十八年彼年十五にしてクインシー市場に於ける一商人の助手として傭はれ、朝は未明より起き出で、夜は深更まで傭主を乘せたる市場廻はりの馬車に鞭ちて風雨砂塵の中を往來しつゝ毫も懈れる色なかりしかば、傭主も其精神に感じて豫定外の報酬を與へたりと云ふ、後彼は一週八圓にて製革業者に傭はれたるが、荷物の運搬、荷作り工場内の掃除一切に從事するものにして、勞力を要すること甚しかりしも、彼は平然として其任に當れり、其頃彼は馬車賃を節せんが爲め十哩餘の道を歩みたること一再ならざりしが如き奮鬪の狀想ひ見るべし。

△從軍中に何を利し得たるか

千八百六十一年開戰の風說頻々として傳はるや、ポーブは少年時代の冒險事業に

成し得べしと云ふ、彼が半生の經歷亦頭腦と手腕とを唯一の財産とせる少年の爲に萬丈の氣焔を吐くものと云ふべし』と、彼は十歳ならざるに自から生計を營まざるべからざる境遇に陷りしかば、毎日午後及休暇日はボストンに近きブルークリンの一農家に傭はれたり、彼は天性極めて强健にして元氣飽くまで壯んなりしかば、時々其伴侶を苦しめたることありしも、其擧動堂々として毫も卑劣陰險の嫌なかりき、彼が少年時代より他の儕輩と異なれる所は下の三點に在り、即ち彼は天性の指導者にして天性の商業家を兼ね且つ天性の貯蓄家たる資質を備へたることと是なり、彼は十三歳の時より青物及菓物の販賣に從事したるが、是れ全く學校の餘暇に行ふものにして、午後農家に赴きて品物を仕入れ、翌朝出校前得意先に配達するを常とせり、當初は大形の籠を肩に懸けて賣り歩きたるも、需要高增加するに隨ひ、彼は父の馬と車とを借り來て往來繁き場所を選びて青物店を開き、一人にては手不足を感ずるに至りしかば、一少年を傭うて其助手と爲し、一季節に二百圓以上の負債を辨償せり、勤儉貯蓄は彼が生涯を一貫せる主義にして、彼は生活上信用を得ると同時に品格を維持するに務めたり、彼が困窮の極に達せる時に於ては一

技術に通ずる者は社會の常に要求する所なるが故に、立身の階梯となる場合多し又外國語の智識に至ても輸出入に從事する者は勿論一般に之を研究せざるべからず、要するに一旦自己の職業を決定したる上は全力を注いで其事業に通達せんことを務むることを是れ人間處世の第一義なり』と、オーブリンの生涯は逆境に在る少年の模範として實に如是の教訓に富む其一馭者より起て一大會社の全權を握るに至りしも亦偶然にあらず。

△ポーブの少年時代

有名なるボストンの事業家ポーブに關し、一將軍之を評して曰く『余はポーブを知ると四十年の久しきに及べり、軍人としてのポーブは十九歳の少年にして中尉より、マッサチュセッツ州の一聯隊を指揮するに至りたる目覺ましき功名譚を有し、事業家としては剛健なる身躰、善良なる習慣、明快なる判斷力及不屈の意氣を資本として活動し世界有數の大工場を有して中年既に米國中の富豪と稱せらる、聞く所に據ればポーブは何時にても其使役せる人員のみにて優に一個旅團を編

に余を推奬鼓舞して已まざりき』と、彼又自己の成功に就て語て曰く『成功を保證すべき法則を立つる事は困難なり、されど正直にして黽勉に、勇敢にして決斷に富まば假令大望の決勝點に達する能はざるも亦決して人後に落つるの不幸を見ることなし、亦如何なる種類の職業に從事すべきやに迷うて躊躇するは少年時代の通弊なれども、余の見る所に據れば、成るべく早く自己の嗜好に適する職業を選び一意之に粘着して一時の小利害の爲に動搖す可からず、少年の立身策は之を措て他にあらず、且少年は常に向上心を有して其地位を高めんことを務めざるべからず、かゝる目的の爲に發憤努力するは是れ即ち成功の基礎となるものなり、敎育の力は固より偉大なりと雖も、經驗亦決して侮るべからず、殊に自己の職業に對して如何なる微細の點と雖も通ぜざるなきに至るは極めて必要の事とす、傭主の利益を圖らんが爲め常に忠實なれ、實行し難き事を約束する勿れ、又假令高地位に上りたりとするも曾て賤役に從事したる時の艱難を忘るべからず、寧ろ屢々之を語りて逆境に在る少年の興奮劑たらしめよ、思ふに今後事業界の最下級より立身せんと欲する少年は須らく速記術、電信術、及タイプライターを學ふべきなり、此等の

りの書記と爲し、ニューオルレアンに赴きて會計事務を擔當すべしとの事なるに余は雀躍して之に應じぬ、是より先きメンフイスに於ける銀行會社、商業家の重なるものは種々の條件を附して余を招致せんと試みたるも『轉べる石の苔蒸すことなき』道理を知れるが爲め、余は斷じて之を聽かざりき、赴任後未だ半歲ならざるに南北戰爭起りしかば、余は南軍に投ぜんが爲め、バルチモアに向ひ、出發の途上に於て當時事件の爆發と共にワシントン府に於けるアダム運送店の業務は非常の繁忙を極むるに至れるより臨時補助の依賴を受け、約六ケ月は同府に滯在し、後ルイスヴイルの戰線を通過して南方に出で一砲艦に乘組みたるも不幸にして沈沒せしかば、余が海軍の經歷は極めて短日月にして且つ毫も活氣なきものなりき、後戰局に當れる一運輸長官はリッチモンド戰線間に物資運送の業務を開かんことを要求し來りたるに依り之に從事するの傍、捕虜交換委員たりしロバート、オールドに知られて其幕僚とはなれり、戰爭結了するに及び余は南米運輸會社の檢査役となり、總支配人となり、以て千八百六十八年に及びたるが、南米運輸會社とはアダム運送店の變躰にて、社長プラント余を以て有爲の材と爲し、待遇懇切を極め常

て宿泊所と爲すの契約を結び之が爲め四十圓を貯蓄するを得たり、今少しく貯蓄に關する余の經驗を述べんか、余が生來始めての貯金は三圓なりき、是れ余の一生忘るゝ能はざる所なり、而して漸々增加して二百圓に達したる時は恰かも一大富豪となりたる如き感ありき、單に二百圓と言へば極めて容易なる如く聞ゆるも、必要なる生活費を除いて二百圓の餘財を蓄ふるは少年に對して困難なる事業と言はざるを得ず、余は收入額以內に生活して必ず若干の貯金を爲すを一生の方針とし、不慮の事件あるにあらざれば此法則を破りたることなかりき、天下一般の青年は徒に大言壯語を事とし、金錢に關して無頓着なるを尙ぶの風ありと雖も、是れ大に誤れり、少壯獨立の計を爲すは何人に在りても必要なりと雖も、殊に實業に志す青年は根本的法則として必ず勤儉の美風を養はざるべからず』と。

△如何にして成功の途に上りしか

オーブリン更に語を繼で曰く『余が馭者たりし間は終始一貫其位地を高むべき機會に注目せり、既にして傭主は余が馭者以外の長所を認め、余を撰拔して船舶係

又自己の教育に關し語て曰く『余は七歳にして孤兒となり、剩へ一人の妹を擁して自活の方法を講ずるの悲境に陷りしかば、教育の必要を感ずること殊に甚しく、八歳の時晝間の勞働を終へて夜學校に赴き、小學教育の初步を學で後教會の監督に屬せる一學校に轉じたり、余にして若し少年時代の生活を繰返すことを得べくんば大學の専門教育を受けんこと余が第一の目的なり、余に教育の大部分を授けたるものは學校にあらずして社會なり、學問にあらずして經驗なり、其教師は殘酷に近き程嚴重なりしも、一度教を受けたるものは其腦裏に徹底して忘るゝこと能はず、メンフィスに於て運送馬車を驅りたる時は、假令學校教育の力なきも、奮勵一番儕輩を凌駕するの成績を得んと欲して一方ならぬ苦心を要したり、當時余は滊船の到着を待ちて一夜を馬車內に過ごせしこと珍らしからず、先づ第一に余の肝膽を碎きしは六十圓の債務に對する辨濟方法なり、一ヶ月六十圓の俸給より下宿料五十圓を支拂ふが故に餘裕幾何もあらず、されば余が金錢上何人にも負ふ所なく大道を濶步し得る迄には意外の長日月を要したり、當時便船の到着每に乘員組と會食するを例とせしかば、食料付下宿の不得策なるを感じ、唯若干の室料を拂う

して店を開き家屋の内外を掃除するを常務とせるも、余は長く此處に留まるを欲せず、偶々店前を疾驅せるアダム運送店の赤馬車を見て余が心頓に動き、爾來運輸事業者たらんと欲するの希望を抱くに至れり、數年の後余は意を決してアダム運送事務所に赴き、運送業に從事せんとする志を述べ、相當の職業を與へられんことを請求し、斷乎たる決心を示して一歩も動かざりしかば、アダム店主も余の頑固なる態度に避易したるが如く、已むなくテンネシー州メンフィス支店詰の一馭者として採用すべき旨を語り、明後日を以て出發せよとのことなりき、彼は此條件を提出して余の辭退を豫期せしもの丶如くなりしも、余は喜んで之を承諾し、旅費其他の準備として六十圓を借り受け、直にメンフィスに向へり、最初余の最も苦心したるは此新事業に關する智識の缺乏是なり、例へば駄馬の絡頭、尾帶等の如き簡單なる用語さへ余に對しては耳新らしく聞えたれば、其他の困難推して知るべきなり、余は此時僅に五十錢を有したるが、是れ余が何人にも負ふ所なく貯蓄せる唯一の財產なりしを以て、余に取ては千金の價値あるものなりしも之を一故參者への贈物を求めんが爲に費やし、以て諸般の指導を受くるの已むを得ざるに會せり』と、彼

るものあらん、されど黄金を渇仰するの極は往々社會の品位を失墜す、黄金の光に眩惑して紳士たるの職分を忘るゝが如きは畢竟金錢が人生の目的にあらずして一個の手段たるに止まるを知ざるが故のみ』と、彼が如きは致富に雄なる君子人といふべきものなり、曾て成功の三要素を擧げて曰く『一に曰く正直、二に曰く熱心、三に曰く應用の才、是なり、此三者を有せば決して失敗することなし』と、彼の閲歴は自ら此教訓を實行したるものなり。

△貯蓄主義の偉大なる成功

南米運輸會社長エム、ジエー、オーブリン曾て自己の經歴を語て曰く『世間不幸の青年少なからずと雖も、薄倖余の如きは蓋し天下稀有の例にして、世人の想像し得ざる逆境に呻吟せしなり、余は七歳にして父母を喪ひ一人の妹を養はんが爲に自活の途を求むるの必要に迫られたるより、最初ジヨン、マーフィー印刷會社に傭はれ一週五十錢の手當を給せられて輪轉機の傍に勞働したるが、當時の五十錢は余に取りては實に數十金を價せるものなりき、後一藥種問屋に傭はるゝや余は早起

る能はざりしが、財界の不況に逢うて其株式は頓に暴落しブーアマンは終に破産の悲運を見るに至れり、スロアン人に語て曰く『余は其失敗の後を承けて善後の策を講じたるが、是れ余が事業界に於ける新局面を開きたるものにして、余は新事業經營の指導者となり、百方苦心して之が整理擴張の任に當りたるが、幸にも昔年にして收支相償うて餘あるに至れり』と、千八百六十四年其地位をヴァンダービルトに讓りて引退したる時は、其財産既に驚くべき巨額により事業界の大偉人を以て目せられたり、其引退に際し社員及株主は贈るに數萬弗に値する銀器を以てし且つ感謝狀を添へて曰く『會社が事業の根底を固うし今日の盛運を見るに至りたるは一に貴下の熱心なる努力と卓拔なる才幹に由るものにして余等一同茲に深厚なる感謝の意を表せんと欲す』と、人あり曾て彼が管理に係る鐵道の日曜日毎に休業するの理由を問へば、答て曰く『余は安息日の意を解し、自から欲せざる所を以て人に絶ゆるに忍びざればなり、之が爲に一年數百萬弗の收入を減ずることあるも、余にして管理の任に在る間は依然之を實行せん、人は單に金錢のみを目的とすべきものにあらず、日曜日休業の爲に我が傭人の被れる利害は又莫大な

務所中最高の給料を受くるに至れり、彼れ曾て當時の光景を語て曰く『余は務めて困難なる事務を引受けたり、之が爲に余は天下の人材と接して智見を廣め且つ資本としての金錢の價値に就て學ぶ所少なからざりき、余は給料の多寡に係はらず、必ず其幾分かを貯蓄して事業の資本に當てんと欲し、總ゆる誘惑を排し情慾を制して之が實行に務めたりしかば、最初の千弗を得るに左までの困難を感ぜざりき余は本業に從事するの傍此資本を投下して少なからぬ利益を收め五年を出でざるに、余の貯蓄は早くも五千弗の多額に上り、主家を辭して獨立の商業を營むを得るに至れり』と。

彼が幼時より養ひ來りたる勤儉の美風は常に彼をして好機會に乘ずべき餘力を有せしめたり、後彼は居をブルークリンにトしたるが、其事業家としての卓越なる手腕は市民の尊信する所となり、終に選ばれて上院議員となれり、當時彼れはホドソン河に沿うて鐵道を敷設するの必要あるを見るや、得意の勉强と熱心とを以て之が實行に着手せり、是より先きジエームス、ブーアマンはホドソンの東岸より市街に通ずる單線式鐵道を敷設したるも資力充分ならざりし爲め好結果を奏す

失ふ以上は巨萬の富も何の樂かあらんと、晩年に及て力を慈善事業に注ぎしかば幾多の不幸なる青年男女にして彼が有力なる後援に依り獨立の人となりたるもの枚擧に遑あらず、彼が到る處世人の信用と尊敬とを得たるは、紐育に於ける南部婦人協會が其銅像を寄贈して其名譽と感謝の紀念と爲たるに徵して明かなるべし』と、事業界に雄飛せんと欲するものは實に此用意、覺悟、意氣、精神なかる可らず。

△鐵道業者スロアンの奮鬪實歴

米國鐵道業者中の傑物として一時ヴアンダービルトと其聲名を等うせる者をサミユール、スロアンとす、彼は幼にして紐育の公民學校に入り、十四歳の時コロムビア大學豫科に入學せしも其父不幸にして歿せしかば已むなく學校を退き、一輸入商の事務員となれり、是れ彼が事業界に於ける經驗の第一歩にて、爾來遺憾なく天賦の才幹を發揮し得たり、其事務に對するや熱心忠實曾て事務室の安樂椅子に靠れたることなく又給料日若しくは退出時間を待ち兼ねたるが如き態を爲す事なく全力を盡して只管主人の利益を圖りしかば、上下の信用日に加はり、忽にして同事

中の最大なるものなり。
一、勤勞、正直、節儉、敏捷は名譽ある成功の要素なり。
一、德義は成功の商標にして品性は價値の試金石なり。
一、成功は時期、場處及境遇に存せずして人に在り、而して規摸大なるだけ結果も亦大なり。
一、何時購ふべきか、如何にして購ふべきか、何處にて購ふべきかを知れ。
一、現金を以て購ひ現金にて賣却すべし。
一、若し手形を以て購はゞ手形にて賣却すべし。
一、小利を以て速に賣却するは販路を擴張して大利を博するの基なり。
一、大利を貪つて少しく賣らば終に顧客を失うて大損失を招ぐべし。

以上は一端を掲ぐるに過ぎざるも以て其營業振りの如何を察するに足るべし、彼がブロード街に於ける商店は常に國內各地より來る幾百人の商人及顧客を以て滿たされ皆現金を以て賣買しつゝあり、是れ彼が大成功の一原因たる明白なる事實なり、其兩眼を患ひて到底全治の見込なきを宣告せらるゝや嘆じて曰く、視力を

一、任俠にして正直なれ。
一、少壯努力して老後の計を爲せ。
一、少くも一週一回以上の格言を復誦すべし。

彼が座右の銘とする所のもの一として青年男女の三省に値せざるものあらず、殊に最後の一句は彼が如何に精神修養に熱心たるかを證するものなり、彼は午前六時に事務所に出勤し、午後七時迄執務するを常とし、各地より書狀の到來するもの一日一千通以上に及ぶも、彼は一々之を通讀せしめて其回答事項を指示す、而して毎夜二十八部の主任は彼が居室に來集して業務の狀況を報告し、其指揮監督を仰ぐ、是れ其營業方法の大體なり、彼れ不幸にして兩眼明を失ひたりと雖も、元氣は老境に入て益々壯んなり』

△ルースの商業に關する座右銘

『彼亦事業家として成功するに必要なる心得を示して曰く
一、勞働者たるの品性は品性中の最高なるものにして、事業家たるの資質は資質

一、人と談話する時は其面を視よ。
一、良友と清談とは德行の保護者なり。
一、善良なる性質は何れのものにも卓越するが故に、自己の行爲に因するものゝ外決して人に害せらるゝものにあらず、人若し自己を譏る時は實行を以て間接に其惑を解くべし、無邪氣は幸福の母なり。
一、決して酒精を含める飮料を用ふべからず。
一、不慮の事件を除くの外自己の所得以內にて生活せよ。
一、就眠前必ず一日の出來事を回想すべし。
一、無益の遊技を避けよ。
一、各種の誘惑を排斥すべし、然らずんば終に外物の奴隷たるに至らん。
一、費さんと欲するに先ちて儲けよ、返却の見込確實なるにあらずんば借財すること勿れ、出來得る限り苦痛を忍んで債務を負はざるに若かず。
一、妻子を養ふに充分の餘裕を生ずる迄は結婚すべからず。
一、何人をも誹ること勿れ。

信用を博せんとするに在り、故に販路は日々に擴張せられて店頭顧客群を爲すの盛況を呈せしより、彼は終に一銀行家の信用を得、資金の調達に毫も困難を感ぜざるに至りたるが、此機運に乘じて縱橫の手腕を揮ひ一躍して大事業家とはなれるなり、人若し紐育のブロードウェー街を通過せば、巍然たる大厦の天に聳ゆるを認めん、是れ其建築に係る事務所にして、世界各國を販路とせる大規模の商戰は、此中に座せる盲目老人の指揮に依りて行はるゝなり。』

△ルースの精神修養に關する座右銘

『彼は自己の生涯の指導者たりし敎訓十數箇條を示せり、彼が成功の決して偶然ならざるを知るに足る。

一、良友を選べ、然らずんば離群索居するを可とす。
一、決して怠惰なる勿れ、手足を動かすべき業務なき時は思想を訓練せよ。
一、人を欺く勿れ、濫りに約束する勿れ。
一、若し秘密あらば嚴重に之を守るべし。

しも其目的を達する能はず、紐育に着したる時は嚢底十數仙を餘すのみ、而かも當時彼の負債は實に十二萬弗の巨額に達せしなり、彼は直に資金の出處を求めたるも亦徒勞に屬し、一人の之を補助する者あらざりき、晝は街上を彷徨し、麵麭と水とを以て饑渴を凌ぎ、夜は巡査派出所に冷かなる夢を結びたるが、終に一老友に遭うて商品の販賣を依托せられたるより、忽ち蘇生の思を爲して專心賣却に從事し、之に依りて少なからぬ利益を得たり、斯の如きもの一年餘にして彼は六千弗の資本を蓄へしかば、更に其業務を擴張し漸く宿昔の志を伸べんとするに當り、端なくも千八百七十五年の恐慌に遭遇し、一日にして又資産の全部を失ひ剩さへ五萬弗の負債を生ずるに至れり、彼が僅々十年間に二回の大蹉躓を見たるは亦不幸の極と言はざるを得ず、若し彼にして意志薄弱の青年ならんか、忽ち元氣沮喪して復た起つ能はざるは必然なるも、彼は毫も失望する所なく直に一日五十仙の家賃を支拂うてウィリアムスバーグに小商店を開きたるが、數日にして其商品全部を賣却し、其利得を以て漸々業務を擴張し、三個月の後には資本に六倍する商品を有するに至れり、彼が營業の方針は、現金を以て比較的廉價の物品を仕入れ、薄利を以て顧客の

を開きたるが、六年の後にはウヰンチスターに於ける有數の商業家となり、其の資本六萬弗に上りたれど、好事魔多く、彼は意外の事變に遭うて其資産全部を失へり、されど彼は決して畏縮し、落膽し、退嬰するものにあらず。

△第一期失敗後のルース

南北戰爭の起るや彼亦奮起して軍に從ひ各處に轉戰したるが、平和克復の曉には既に兵燹の爲めに資產の全部を失ひ、再び赤手を以て自己の運命を開拓せざるべからざるに至れり、當時ヴァジニア州も亦戰亂の影響を被むり、商勢微々として振はざりしかば、彼は幾何もなく其鄉里に歸りて田畝の間に勞役したるが、千八百六十五年の秋、彼は農園生活の自己の嗜好に適せざるを知り、紐育に赴き商業を以て其身を立てんと欲する旨を發表したるに、彼の父母は其計畫に反對の意を示したるも彼が斷乎たる決心を飜さしむること能はざりき、彼は自から成業に必要なる才幹を有することを認めたれば、囊中僅に一弗八十仙を有するのみなれど、自若として紐育行の列車に投じぬ、彼は途中バルチモアに下車して資金の調達に奔走せ

を其事務室に訪うて會談せる一記者は記して曰く『余は一人の事務員に迎へられて應接所に導かれたる時、其工場及事務室の頗る盛大なるに驚きたり、この山の如き貴重なる商品全部が三十年前其嚢中に一仙の蓄なくして紐育街頭を彷徨せし一貧兒の所有なりと思へば坐ろに意外の感を催さゞるを得ざりき、かくて余は應接所に在りたるが、時を移さず盲目の大事業家は其支配人に導かれて出て來れり、余は立て彼と握手を交換したる後其來意を告げたるに、彼は徐ろに口を開きて其來歷を語り出でたり、彼はヴァジニアの一農夫の子なり、家貧しけれども父は極めて正直にして、農夫としては相當の敎育ある者なりき、十五歲に至る迄父を助けて農業に從事するの傍ウィンチスター專門學校に通學して常に一級の首座を占めたり、されど彼は單に智識を收むるのみを以て滿足せず、一たび起て事業界に雄飛せんと欲するの希望を抱きしかば、十五歲の時意を決してウィンチスターに赴き一商店の事務員となれり、最初受くる所の給料は一週一弗に過ぎざりしも、其才能は直に主人の認むる所となり、漸々昇進して十八歲の時には早くも五百弗の餘財を有するに至りしかば彼は之を資本として一家屋を借り受け、形ばかりの商店

んと欲する者は極めて此點に注意すべきなり、又都會生活に於て成功せんと欲せば其二十歳前後に於て一二外國語の修養を必要とす、其業務に對して直接の應用を見ること少しとするも、外國語の素養ある者は好機會に乘じ得るの場合多ければなり、其他速記術、タイプライターの如きも亦少年時代に於て研究し置くべきものたり。』

第三章　奮闘的人物の好典型

△盲目の事業家チャーレス、ルース

盲目を以て成功せる者東西其の人に乏しからず、而して米國には實務經營最も繁劇を極むる時計商として驚くべき成功を爲せるチャーレス、ルースなるものあり、彼の紐育に於ける商業取引の活潑にして顧客の多きは米國一般人士の驚歎して止まざる所にして、多數の競爭者は如何にして無一物の境遇より斯かる莫大の資產を作るに至りしやを解する能はず、ルース自身も亦斯の如き結果を豫期せしものにあらざりき、彼は唯獻身的努力を以て時計製造に從事せしといふのみ、一日彼

次に來るべきは良習慣を作るの必要是なり、殊に十五六歳より二十歳に至る間は多様の誘惑に遭ひ空想に耽り、一生の方向を誤るべき惡習に感染し易ければ、其意思を鞏固にし、斷乎として此傾向を排斥せざるべからず、飲酒喫烟は組織未だ發達せざる少年の身躰を害すること甚しきも、彼等は他人の爲す所に倣ひ此種の有害物を用ひて談笑するを堂々たる丈夫の常態と爲すもの多し、誤れるも亦甚しからずや、故に賢明なる傭主は飲酒喫烟の惡習ある青年を抜擢するを好まず、他に適任者あらば是を棄て彼を採るの勇斷に出づるを常とす、是れ事業の整理擴張を圖るの點に於ても將た人才を推奬する點に於ても當然の處置と謂はざるを得ず。

（第六）社交上の辭令を學び且つ各種の技藝を修むべし

幼にして其家庭を離れ、父母親戚の感化を受くること少きものは、動もすれば擧動野鄙言語粗暴に失するの嫌あるを免れず、假令地位金錢に於て成功するも沐猴の冠するに等しく社交上他の笑を招ぐ事少なからず、殊に其先輩傭主に對して毫も尊敬の意を表せざるは米國少年の通弊たり、世間紳士たるの態度を養は

に拔擢せられて一商店の販賣係となれり、主人は充分に彼の長所を認めたるが故に、彼に多大の便宜を與へんことを務め、彼亦其厚意に感じて業務に從事するの傍、書籍を繙いて藥劑學を修め、且つ其營業方針を研究せり、是れ彼が最後の勝利を博したる原因なりとす、されば、有爲の少年は如何なる事業に關係するも常に其地位と時間とを利用して自己の向上發達を圖らざるべからず。

（第四）傭主を誤解すべからず

逆境に立てる少年は不幸にして偏見邪推の弊あるを常とす、彼等は時として其主人を目するに壓制家を以てし、己を利せんが爲に他の發達を妨ぐるものとなせども、是れ思はざるの甚しきものなり、若し主客地を換へて一考する時は忽ち釋然として悟る所あるべし、即ち品性高潔にして正直勤勉なる少年は其傭主たると否とに論なく一般世人の同情と尊敬とを博すべし、されど何人に對しても自己の助言者たるべきを期する勿れ、唯少年は有力なる先輩の好意を表示するを見、進んで彼等の間に來往し、以て雄飛の機會を捉へんことを務むべきなり。

（第五）善良なる習慣を作れ

にして是を捨て彼を取り以て職業を轉換すること最も不可なり、曾て一大事業家は都會の少年を諭して曰く、苟も堅忍不抜の志だに存せば職業の如何は問ふ所にあらず、且つ事物の表裏を洞察する時は何種の職業にても畢竟一轍に出づ、例へば鐵器、織物、藥種、皮革の諸業皆其成功の經路を一にして其間に何等の輕重優劣あるものあるにあらずと、目的は自活に在りて如何なる職業も最下底より着手せざるべからざるが故に、其右よりすると左よりするとは決して重大なる問題にあらざるを知るべし。

（第三）發憤努力して先輩の注意を牽くべし

紐育市に藥種問屋を業とせる有名なる資産家あり、彼れ年少早くも青雲の志を抱きて都會に出づるや、最初は曹達を以て玻瓈を洗ふを業とし僅に糊口の資に供せり、彼は書法に妙を得たるのみならず、數學に長じて容易に二次方程式を解し、且つ拉典語の初歩を學びつゝ依然賤業に從事するを恥ぢざりき、彼は身躰強健にして勵精無比、炎暑沍寒と雖も夙に出て夜に歸り、一日も曹達を手にする事を忘れたる事なかりき、彼は總ゆる方面に於て才幹と熱心とを顯はせしかば、終

地方少年は何等の準備なくして飄然都門に入るべからず、余がこゝに謂ふ所の準備とは技藝職業等の準備にあらず、都門に於ける無用の人たらざるを期するの決心を云ふ、地方少年にして一個確定せる目的なきか若くは自己に同情を寄すべき知人への紹介狀を有せずして都會に出で來るは最も危險なり、苟くも父母の許諾を得るに於ては、大都市に於ける一二知人への書狀を齎らし來らんこと極めて容易ならん、即ち地方の商人は直に同情を表して常に往來する大商店への依頼書を認むべく、學校長も亦之と同樣の勞を執るを辭せざるべし、要するに大望を抱く少年は必ず質朴正直なるが故に先輩は好んで之を推奬するものとす、而して紹介を受けたる事業家若くは知名の紳士にして直に少年を適處に置く能はざることありとするも、彼等は社會上相當の地位を有するを以て交遊亦廣く、結局少年の爲に適當の職業を授くるに至るべきは余の信じて疑はざる所なり、都會の事業家は常に有爲の少年を歡迎す。

（第二）徒に職業の種類を是非すべからず

獨立自營の道を立てんこと是れ都會生活の第一歩なり、徒に好惡愛憎の情を縱

とせり年々グレースの恩澤を蒙れる卒業生は五百人の多きに達し、何れも社會に出でゝ獨立自營の人と爲れり、感化の大なるを想ふべし。

△地方少年に對するクリユーの訓誡

株式仲買人として數百萬弗の資產を有するヘンリー、クリユーは本と一商舘の傭人として紐育市中を奔走せる貧少年なりき、彼は地方少年の大都會に於ける成功の秘訣に就き語て曰く『凡そ我合衆國の地方少年中一たび大都會に出でゝ大成功を博せんことを希望せざるもの極めて少なからん、彼等は自己の技倆才能の以て大事を成すに足るべきを信ずるが故に、其鄕黨に於ける事業界の規模總て狹小なるに堪へず、而してかゝる野心は十二三歲より十七八歲の間に起るを常とす、然らば彼等は如何にして其目的を達するの手段を講じ大都會に於ける富豪となり法律家となり醫師となり政治家となり技術家となり以て宿昔の志を伸ぶべきか今余の經驗に據りて信ずる所を擧げんか

(第一) 大都會に入るの準備

先づ合衆國及南米西海岸間の直通航路を開きたり、其延長浬數は世界を一周するに等しきを以て、彼は遠洋航海に適すべき特別の船舶を造りて其目的を全せり、造船及航海術の進步せる今日に於ては敢て異とするに足らざれども、當時に在ては破天荒の快事として世人の耳目を聳動せしは當然の事といふべく、彼が如何に大膽にして進取の氣象に富みたるかを察すべし、彼は天性複雜せる商事機關を管理するの能力を有し、其智見の廣大にして各方面の事情に通ぜる亦驚くべきものあり、彼は本業に對して怪手腕を揮ふの傍、ナイヤガラ運河會社の首腦として意外の成功を博し、且つ紐育生命保險、中央及南部亞米利加電信會社の經營者たるのみならず、リンカーン銀行の頭取及紐育信託會社の社長として到る處世人に信用せられ、公人としては兩回選ばれて紐育市長の職に就き、英斷を以て市政を刷新せしが如き亦以て一世の傑物たるを證するに足らん、晩年彼は繁忙なる業務に鞅掌するの傍、熱心に慈善事業に奔走し、父母の追憶の爲め、併せて其成功の初舞臺たる紐育市に感謝の意を表せんが爲めグレース敎習所を設立し、不幸なる少女を收容して料理、洗濯、裁縫、速記術、タイプ、ライター、等婦人の自活に適する職業を授くるを目的

り累進して組合員となり、支配人となり終に管理者たるの地位を占めたり、斯くして有名なるグレース兄弟商會は旭日冲天の勢を以て崛起し、一擧して秘露の航運を左右し、居然事業界の雄鎮を以て覇を南海に唱ふるに至れり、彼は秘露に於ける根底の漸く動かざるを見るや、紐育を以て活動の根據地と爲し、支店を倫敦、桑港、智利等の各地に設け、四海の航運を獨占せんとするの大計畫を企てたり。

△成功後のグレースの活動

グレースは進取の氣象に富み、時代の急先鋒を以て自から任じたり、彼は好んで智謀膽略に富める有爲の青年を用ひ、常に胸襟を披いて彼等と議論を上下し、廣く智識を求むるを以て成業の要素となせり、彼は自說を固守するとなく、喜んで他の忠言に耳を傾くと雖も、之が採否は一に其機敏明快なる判斷力に待つが故に、常に正鵠を誤らず、其平生最も愛誦する敎訓は『如何なる事業を爲すべきかを知らざる時は何事も爲すと勿れ』と云ふに在りき、されば若し一朝着手せんと決心するや獅子奮迅の勢當るべからず、彼は滊船を以て遠洋貿易に從事するの利益なるを見、

れる商品見本は室内に堆積して殆んと立錐の地なきさま飽く迄奮闘的なり、彼れ本と愛蘭の由緒ある名家に生れたるも、父は不幸にして事業に失敗し其財産を蕩盡せしかば、彼は孤立の貧兒となつて自己の運命を決すべく米國に渡航せるなり、紐育に在るや彼は一靴工の家に寓して印刷業者に傭はれたるも其志に酬ゆるに足らざるを覺りて、一旦歸國し、更に秘露に航したもの是れ其大成功の端緒なりき、秘露に上陸するや偶然の事件より處世の方針を一定するに至れり、一日英米兩國水夫の間に紛議を生じ終に兩々拳闘を以て勝敗を決せんとするに至りしが、米國水夫の形勢頗る危險なりと認とめ彼は血氣の勇を揮て之を援助し、薄暮に及んで漸く其局を結べり、かくて彼は其寓居に歸り身を床上に横へたるも良心の呵責に堪へ難く、自から戒めて曰く『はる〳〵秘露に來りしは水夫の紛議に關係するが爲ならず、世人の目覺ましき活動を見よ、今より後我は再び無益の業に力を費さゞるべし』と、是に於て彼は其一生の目的に對する執着心と精細鋭敏なる注意力を養ひ以て其生涯を一貫するに至れり、當時秘露は萬事創業の時代にして、有爲の青年が其手腕を試むべき餘地少なからざりき、彼は直にさる航運會社の事務員とな

が一生の事業を説明するものにして、一旦心に決する所あれば斷乎として之を曲げず、故に猛鷲の如き彼が眼中には殆んど大事と稱すべきものゝ存在を認めざるに似たり、彼れ年十四歳にして飄然紐育に出で、孤燈影暗き逆旅の中貧苦と寂寥の感に堪へざりし當時に於ては、生來剛毅の少年も、流石に故園の生活の懷しく、他日此大都市の市長たるべき名譽を擔ふに至るべしとは豫想せざりしならん、されど彼が功名心は年と共に加はり來り、巨富を擁して商業界に雄飛せんと欲するの念切なりしかば、彼は苦戰奮鬪を事ともせず、能く幾多の難關を打破して終に南北兩米間に於ける事業界の大勢を指導するに至れり、途上彼と邂逅する者は、其歩調の緩かにして態度の極めて悠揚なるを認め、一見地方商人の散策に出でたるものゝ狀あるも、一たび彼と卓を圍んで談事業の經營に及ぶ時は言々肺腑より出で、直截簡明、奇警の語能く寸鐵人を殺すの妙あり、彼は自から自己の經歷を語るを欲せずと雖も、靑年の士氣を鼓舞するに足るものありと信ずる時は敢て之を公にするを辭せざりき、試に彼れが事務所内の光景を一瞥すれば、雄々しき風采を有せる幾多の事務員は其上着を脱き棄てゝ左右に打交りつゝ活動し、世界各地より送付し來

幸福なる生活を送り居れり、余は曾て同盟罷工の打擊を受けたることなときのみならず、恐らくは將來も斯の如き不祥の事變に遭遇することなからむ、何となれば余は彼等に滿足を與へんと欲して全力を盡せばなり、余は人を採る苟もせざれども、一旦使役する上は傭主傭人の關係を打破し、務めて懇親を結び、彼等をして熟練なる事務家職工たらしむると同時に、其品性を高うせしめんことを期せり、是れ余が成功の一要素たりしを確信する所なり』と、世間リプトンの機敏、リプトンの勤勞あるもの固より多からむ、されど其傭人を待つの懇切彼が如きもの幾何かある、事業を經營する者の三省すべき所實に此に在り。

△航運業者グレースの成功實歷

北米合衆國及南米の西海岸に航運の便を開き、兩米大陸間通商貿易の發達に資したるグレースの功業は世界の航運史上に不滅の名譽を留めたり、彼れ天資明敏にして大膽果決其事業を經營するや一氣邁往、必ず之を貫徹せずんば已まざるの風あり、曾て成功の秘訣を問へる者に對し、答て曰く『唯執着心あるのみ』と、是れ彼

も必ず機敏の處置に出でゝ、頽勢を挽回するの餘裕を存せり、彼れ曾て自から商船に乘り茶及其他の商品を積載して大西洋の南方を航海中、偶々颶風に遭うて航路を失ひ、一巨巖に衝突して將に沈沒せんとするや、彼は神色自若として其傭人を指揮し、茶罐の外部に『リプトン販賣の茶を賞翫せられよ』と記して之を海中に投ぜり、而して瀛船は終に難破の災厄を見るに至りたるも、乘客は幸に無事なるを得たり、後右の漂流物各地の海岸に漂着して、リプトンの名は忽ち四方に傳はり、瀛船難破の記事と共に期せずして其聲價を高めたり、其大膽敏捷機宜を誤らざるもの概ね此類なり、彼は漸々其事業に成功して世界一流の食料品販賣者となり、其支店の數は四百八十の多きに達し、倫敦市内のみにても六十を算するに至り、牛肉を除く外如何なる飲食物も、之を網羅せざるなく、印度錫蘭島には數千エーカーの土地を有して盛に茶、珈琲、椰子等を栽培し、耕作及荷作りに從事する土人三千餘人を使役し、亞細亞各地と漢堡、及伯林には大規模の販賣店あり、市俄古に於ける豚の屠殺數一日三千頭に上ることありと云ふ、曾て傭人使役の法に關し語て曰く『余は殆んど一萬人以上の傭人を有せり、余は務めて之が待遇法に苦心せるを以て彼等は一般に

の熱心は實に驚くばかりにて、店頭を自己生存上唯一の天地と爲し、二六時中肝膽を碎きて物品の整理と店頭の裝飾とに注意し、商品の陳列より洒掃應接に至るまで自から其任に當りて只管顧客の信用を得るに務めたりしかば、販路は日に擴張せられ、資金の流通亦自由なるに至れり、かくてリプトンは成功の確實なるを認めたるを以てグラスゴー其他に支店を開設し、盛んに業務を營めり、彼は營業の方針を總て米國風と爲し、商品をば顧客の注意を牽くべき位置に排列し、店頭常に一點の塵をだに留めず、一に顧客の滿足と愉快とを購はんことを務め、且つ熱心に廣告を利用して販路の擴張に全力を注げり、是れ皆彼が在來失意時代の所見に基くものにして、其機敏にして勤勉なる、尋常少年の匹儔にあらざるを見るべし、彼一日成功に必要なる主義は如何との問に對し『余は二個の營業方針を有す、一は即ち周旋人にして他は廣告なり、周旋人は時として私利を貪るの弊ありと雖も、大體に於て之を利用するの頗る利益なるを認む、廣告に至ては其必要なること言を須ゐず、殊に公衆一般に愛讀せらるべき新聞の廣告は、實に豫想外の效果を收むるものなり、余は之が爲に年々百萬弗以上を投ずるを常とす』と、彼は如何なる事變に遭ふ

家に傭はれて菓樹の栽培に從事せしも、收獲の際ならでは給料を手にする能はざる規定なるを知り、更に轉じて紐育に赴き、居ること月餘、偶々一商店の傭人となりしも、自己の嗜好に適せず、終に米國は己れが成功の天地にあらざるを信じて再び鄕里グラスゴーに歸れり、彼曾て紐育に於ける逆境時代の光景を語て曰く『余が落魄して紐育に在りし時、年甫めて十五、一人の友なく一錢の蓄なく、且つ職業の余に適するものなかりしを以て、繁華を極むる大都會も、余が眼には寂寥たる一沙漠の如く映じたりき、今にして之を想へば眞に今昔の感に堪へず、當時余は一日五錢以内にて生活せざるべからず、加之グラスゴーに在る故舊と書信の往復を爲さんと欲するにも郵便錢なきに窮したることありき、されど斯かる經驗は他日余の成功に資すること尠少ならざりしなり』と。

△成功の端緒と營業の方針

リプトンの米國行は一見失敗に類せりと雖、其商業的經驗と手腕とを養ひ得たるは之が爲のみ、彼はグラスゴーに歸りて一小雜貨店を開けり、其業務に對する、彼

して事務に熱中するの快樂を知らず、日中彼等が眞面目に事務の爲に精勵するは一二時間にして、其他は全く兒戯を演ずるに等しきものなり、余の勤勞は日夜殆ど寸暇なく且つ他人に二倍するの効果を收めんとす是れ余の屢青年子弟に語る所なり、余は毫も事業の困難を意とせず、而かも他人の力に賴るは余の最も好まざる所なるが故に、余の成功は單に余が勤勞の結果なりと斷ずるに躊躇せず』と、彼れ本と貧しき勞働者の家に生れ、父母と共にグラスゴーに住みたるが、十歳の時學校を退き一商店の丁稚となり、一週僅に數十錢の給料を得て家計の不足を補ふの傍夜學校に通學して勉强怠らざりしかば、其進境著しく、爲めに有望の少年と認められて店主の信用を博するに至れり、されど彼は前途に多大の希望を有し、區々たる一商店の傭人を以て一生を終るを屑とせざりしが故に、幾何もなくして飄然鄕關を辭し米國行の滊船中に其身を潜めたり、彼自から語て曰く『當時余の兩親は余の遠く膝下を離るゝを好まざりしを以て、余は其意を告げずして家門を出でたり、斯の如き決心は余に取ては成功の原因たりしに相違なかりしも、一般少年の爲めには頗る危險なりと云はざるを得ず』と、斯くて彼はサウス、カロライナに赴き、農

國政府の軍艦四隻を建造したるが如き、其海陸の富力實に當るべからざるものあり、而かも其平生を顧みれば質素純朴營々として業務に從事すること恰も一事務員の如しと云ふ、成功の偶然ならざるを知るべし。

△サー、リプトンの逆境時代

才能德望信用機會等は事業家成功の要素なりと雖も、堅忍持久他年の大成を期するの覺悟を缺く時は、如上の要素を備ふるものと雖も、必ず失敗を免れず、事業經營上須臾も忘るべからざるは唯『勤勞』是れのみ、世間の才子若しくは富家の子弟が好機會に乘じ得べき境遇に在りながら、終世碌々として聞ゆる所なきは畢竟額に汗するの決心なければなり、一新聞記者曾てサー、トーマス、リプトンに問うて曰く、『願くは貴下の成功を博したる秘訣を聽くことを得む』と、彼は忽ち顏色を正うして曰く『世人の所謂成功の秘訣と稱するは實に無意味なる事なり、余は唯全心全力を盡して事業に努力せしのみ、若し心身健全なる青年にして鋭意其事業に努力せば成功せざらんと欲するも得べからず、然れども世間の青年多くは懶惰に

千弗の巨利を博し得たり、後彼は其兄ソロン、ハンチントンと紐育のオチオンタに時計店を開き、一意業務の擴張と顧客の信用とを得るに務めしかば、其名聲は忽ち遠近に傳播して優に同業者の牛耳を執るに至れり、千八百四十九年パナマを經由してカリフォルニアに赴き、大規模の鐵器業を營みしが、是れ彼が有數なる米國事業家の列に加はりたる端緒なりき、幾何もなくして太平洋鐵道創設の計畫あるや、彼は此事業の前途に多大の望を屬し、マーク、ホプキンスと力を協せ更にスタンフォード及びクローカーの徒を語らひて落機山脉を横斷する線路の設計に必要なる事業費を調達し、中央太平洋鐵道會社なるものを創立せり、而して道路開通の困難は實に豫想の外なりしと雖も、ハンチントンの勇敢果決なる能く幾多の障碍を排し、千八百六十九年事業の完成を見るに至れり、彼は此大成功を以て自から足れりと爲さず、更に太平洋の南方に通ずべき鐵道を敷設し、漸々其線路を擴張して着々其効を收め、終に自己の鐵道に依りて兩太洋に出づるを得るに至れり、彼は晩年に至るも元氣壯者に異ならず、殆んと無限の精力を有するものに似たり、彼は陸上にかゝる莫大の資産を有するのみならず、ヴァーヂニアに一大造船所を有して米

動かすべからず、余の行動に就きては從來幾多の批評を受けたれども、余は之を輕々看過し去れり『何となれば事業は余の生命にして何物と雖も之に代ふる能はざればなり、故に余は社交上の快樂に就ては與り知らざるもの頗る多しと雖も、我生命たるべき事業に至りては一として通達せざるなし、余は他人の娯樂を助けんが爲に不得意なる遊戯の伴侶者たることを欲せず、思ふに世人の失敗は自己の長所を犧牲に供して其短所のみを助長せしむればなり』と。

△此奮鬪ありて此成功あり

獨立獨行の青年事業家が少くも千弗の資金を蓄積して自己の手腕を揮はんとする迄には實に名狀すべからざる苦心を要するなり、ハンチントンの青年時代も亦慘憺たる苦心を要したること勿論にして、彼は五六百弗の資本を有するに至るや奮然競爭塲裡に突進し、其天賦の才能と不屈の意思とを以て一擧に多大の成功を博したり、彼は其所得を以て直に千個の懸時計を購ひ之を各地方に送付し、自から行商人となりて販賣に從事し、一個に付き四弗の利益ありしかば、彼は忽にして四

又曰く『余を訪うて職業を求めんとする青年頗る多し、若し余にして其有爲の資質あるを認むるも其要求に應ずる能はざる時は、余は彼に獨立自營の必要なるを說き、時としては五六百弗の資金を與ふるを辭せず、されど勤儉己を持するの美風なき者に對して、余は一仙にても貸與するを欲せず、斯の如き者に金錢を與ふるは之を溝中に投ずると一般なればなり、余に生來務めて質素の生活を爲し、如何なる事情ありとも收支の計算上多少の餘裕を生ずるに至らんことを務め、未だ曾て此主義に背きたることあらず、事業に成功せんと欲する青年を觀るに、其志徒に粗大にして高く、自から標置し、手足を勞し若くは衣服を汚すべき職業をば賤役と稱して之に從事するを嫌ふの風あり、彼等は直に銀行會社の書記となり、ペンを執るを以て自己の嗜好に適するものとなせども、かゝる薄志弱行の徒は終に成功するの氣運に遭遇することなきなり、余の青年に望む所は快樂を後にして專心事務に努力せんこと是なり、余は幾多の事務員に對して服務中は如何なる種類の社交的會合にても之に列席するを許さず、斯の如きは往々社交と本業とを混交し、甚しきは本末を顚倒するに至るべければなり、且つ青年は區々たる世評の是非如何に心を

△勤勞と社交

人は須らく其事業に對して熱心忠實ならざるべからず、銀行家が寢室内にあるも其心常に金庫の側に在るの思を爲して、出納整理の方法に肝膽を碎くが如く、趣味を覺え併せて利益を收むるにあらずんば萬人に傑出するの功業を遂ぐる能はず右に關しハンチントン曾て後進子弟に說いて曰く『余は世界の各地に於て、殆んと壹萬有餘の傭人を使役するが故に、聊か人物の賢愚を識るの機會を有せり、彼等の中には固く勤務時間を守りて出入の際一分一秒も誤りたることなきものあり、其規律に服するの嚴格なるは感嘆の外なしと雖も、余はかゝる人物の事業に成功したる事實を認めず、時計は常に正確なる時間の區劃を示すと雖も、事業は時に、不規則の勤勞を必要とすることあり、彼等の平然規定時間を守り得るは事業に對する趣味の缺乏を表するものならずや、余は固より規定外の勞働を強ゆるにあらざるも、斯の如き人物は未だ曾て大發展を見たるの事實なきを奈何せん、故に余は時計の監視者に就ては前途多大の望を屬せざるなり』と。

紐育の大都會に出て來りたる時は一廉の資力を有するに至りしを以て、彼は直に一商店を開き自己の手腕を試むるの機會に接するを得たり、彼れ自から語て曰く『成功の要素は自己の所得以内に生活せんことを務むると同時に、不斷の勇氣と熱心とを以て自己の發展に資すべき機會を注視するに在り、余は常に此方針を以て活動し、十五歲以來獨立自營の途を開き以て今日に至れり、現今の少年は徒に讀書に耽りて實力の養成を等閑に附するの弊あり、彼等は其一生中實務材幹の發達に適する時期を讀書究理に費し、自から智識の豐富なるを感じて揚々校舍を出づれば、麵麭を得るの困難なるは實に豫想の外にして、經驗なきの身は事每に蹉躓するの不幸に遭遇するも、難關を打破すべき實力を有せざるを以て、終に其意氣沮喪するに至るを常とす、思ふに世路の艱難を嘗め來らざる者は成功者の赫灼たる外觀に眩惑して其成功の經過と由來とを研究せず、一躍して之と比肩せんことを企つるの極、往々自から失敗を招ぐは余の屢目擊する所なり、人は自から其運命を開拓せざるべからず、而して方正勤勉加之人生の本分を盡すの覺悟だにあらば必ずしも成功の難きを憂へず』と、愷　紳に書して三誦するの價あり。

はず、明日は自から明日の事あり、現在に活動せんと極めて緊要なり、余は此一事を以て常に青年を戒む、人は今日の價値幾何なるやを知らざるべからず、明日以後は未知數に屬するを以て、焦慮煩悶することなきは余が一生を貫ける處世の方針なり、されど余は風潮の儘に漂流せよと言ふに非ず、固より最後の目的に達すべき目的を確立せざるべからず、五穀は秋に至らざれば熟せず、其間風雨あり、霜雪あり、是れ當然經過せざるべからざる行程にして人力を以て如何ともすること能はざるものなると同じく、人生亦自然の歸趣あり、血氣の青年動もすれば目前の小利害に齷齪して彼を思ひ是を慮り、徒に其精力を費すが如きは余の解せざる所なり』と、

彼はコンネチカット州の一農家に生れ、幼にして學校敎育を受くるの餘裕なかりしが故に、犁鋤を手にして父を田畝の間に援け、粒々辛苦の經驗を積みたるのみならず、暇あれば近隣の家に傭はれて菓樹の栽培等に從事し、之に依りて得たる些少の給料は皆之を貯蓄して他日雄飛の資に供したるなり、彼は身少しく閑なれば決して時間を浪費することなく、必ず何等かの事業を發見して活動するを常とし、且つ決して無益の物品を求めざらんことを務めたり、されば千八百三十六年始めて

は三要素あり、正直、勤勉、節儉是なり、而して天才は與らず、健康亦事業に欠くべからざるの要素なることは言ふ迄もなし、余は少壯より攝生に注意し、飲酒喫烟は勿論、成るべく無益の嗜好を排し、早寢早起の習慣を守りて全力を事業に注ぎたり、心身兩ながらの勞働は最も健康を保持するに適するものにして、食慾之が爲に增進し消化力之が爲に活動す、凡そ屛居無事なる程人間の體力を減損するものあらず、人を殺すものは事業にあらずして無爲の生活なり、飲酒喫烟其他無益の遊戲に耽るは恰も毒を仰ぐに似たり、曾て人あり余に問ふに事業界より退隱せざるの理由を以てす、余は之に答ふるに事業以外余の健康を維持するの途あらば余は喜んで之に應ずべきを以てせり、恐らくは事業を除いて何物にても余の生活に快樂を與ふるものなかるべし』と、セーヂが老來尙ほ壯者を凌ぐの意氣を以て事業に盡瘁するを得たるは亦大に由る所あるを知るべきなり。

△青年に對する無二の教訓

有名なる米國の富豪コリス、ピー、ハンチントン曰く『余は徒に明日の事を思ひ煩

とは是れ余が常に後進子弟を奨勵する教訓なり、商工業の中心たる大都會に在りては事業の擴張工場の増設日に著しく、有爲の青年來りて其手腕を揮ふべきの餘地到る處に存す、されど世間亦事業に渴せる者頗る多きを以て適才必ずしも適處を得るは至難の業なりと雖も、東に不可なれば西に適き、右に適き、左に適き、剛健不屈の意思を以て到る處其全力を傾注すべし世間逆境に居る青年の前途に關し悲觀する者多けれども、剛健眞摯なる青年に對しては社會は自から其途を開かざるを得ず、世間又正直は最良の手段たるを疑ひ、寧ろ不正を以て成功の捷徑と爲すものあれども、其職業の何たるを問はず、不正は直に失敗を招ぐものなり、若し余にして過去半生の間聊かにても不正の行爲ありたらんには、到底今日の如き社會上の位置を占むる能はざりしならん、大都會に出で來りたる地方の青年は、一般資本家の歡迎する所にして、其品性の墮落せざる限りは成功の見込確實なり、唯憂ふる所は其質朴なる習慣を維持するの困難なること是なり、幸にして都會の悪風に感染することなく、益其本領を發揮して隨處に卓越するの熱心と勤勉とを持續せば、有數の大事業家として傑出すること實に容易なりとす、余の見る所に據れば、成功に

堅忍不拔の志を懷き、微を積み漸を逐うて怠ることなくんば、歳月の久しき終に成功を博するに至るべきは余の信じて疑はざる所なり、何人にても成功の機會に接せざるものあらず、然るを世間失敗に終るもの多きは必ずや自己の過失に依るなり、恐らくは年少にして逆境に沈淪し、進歩發達の途上に非常の障碍を感じたること余に過ぐるものなからん、『努力』は余の生命にして成功の武器なりき、世上の青年を觀るに、少しく餘裕を生ずる時は忽ち劣情の襲ふ所となり、勤勉努力の意氣なきに至るもの枚擧に遑あらず、人或は成功を以て好運の賚賜と爲すものあり、余は其何の謂たるを知らず、余の如きは未だ曾て運命の私恩を蒙りたることあらず、余の資產一切は皆余が努力の報酬に過ぎずして、一弗一仙の微と雖も相當の理由なきものあらず、献身的努力を外にして富を積まんと欲するは思はざるも亦甚だしきものなり、と諄々說き來る所、言々懦夫をして起たしむるの價あり、彼は更に語を轉じて曰く

△富豪たるの機會は到る處に存す

益ありと思惟せらるゝ趣なるも、余の生涯は極めて平凡にして世人の注意を牽くの價値なし、余は年少にして地方の小都會に在り、一雜貨店の事務員を務めたるが是れ余が實業界に乘り出せる發端にして、當時一週僅かに一弗の給料を受け早朝より深更に至るまず業務に從事せり、されど余は何事も他日成功の楷梯なりと信じ、全力を盡して勉强せしかば、主人の信用次第に厚く給料も亦漸く增加せり、二十一歲の時少額の資本を以て自から一商店を開き顧客の信用を得て、莫大の利益を占めたるは是れ余が成功の第一着歩なりき、爾後余は大都會に出てゝ運命を決せんとするの雄心禁ずる能はざるものありしかば、商品一切を賣却し店を閉ぢ意を決して紐育に赴き一商店の傭人となり、刻苦精勵多年の辛酸を嘗め、今日に至ては聊か我意を寛うするを得たれども、余は決して現在の小成に安んずるものにあらず、思ふに青年の短處は功を一擧に收めんと欲して堅忍持久の精神を缺くことと是なり、余の始めて紐育に來るや、二三年の後一躍して富豪たらんことを夢みたるも、是れ全く妄想に過ぎざりき、如何なる境遇に生れ、如何なる才能を有するものと雖も短日月の間に一事業を成就せんと欲するは到底不可能なり、されど身躰强健且つ

△富豪ラッセル、セージの人物

身を一介の貧兒より起し、赤手鉅萬の富を得たる者世間其例に乏しからずと雖も其人格の高尚にして事業の大規模なる吾人は先づ指を米國の富豪ラッセル、セージに屈せんとす、一新聞記者曾て彼を訪問せる當時の光景を記して曰く『ラッセル、セーヂは平素無數の訪客に忙殺せられ、中には種々の難題請托を以て惱まさるゝこと一再ならざるが故に成るべく面會を避けんとするの風ありと雖も、余は幸に好意を以て迎へられ一塲の會談を爲すを得たり、室內の装飾什器等は總て南北戰爭前の遺物らしく現に余輩の相對して座を占めたる椅子及卓子等は氏が二十五年前に求めたるものにして時代後れの色稍々褪せたるものなるも、彼は奮闘的經歷の紀念として之を捨つるに忍びずと爲せり、彼は面長の丈け高き老翁にして半白の髪を被むり、三十年前に流行の服を着けたれど品柄は流石に上等にして仕立も立派なり、澤々と輝き渡れる顏色に躰力の健康と精神の平和とを表する微笑を湛へながら問ふがまゝに語りて曰く　貴下は余の經歷を聞くを以て多大の裨

益を夢想す、其習終に性となりては營々として正業に從事するの勞を厭ひ、奢侈逸樂に耽るの結果、氣力も材幹も年を逐うて凋衰し、碌々一生を終る者多し、彼等私に以爲らく『節儉は往々にして吝嗇と認められて朋友に疎ぜらる』曰く『社交上面目を保たんが爲に是非なき次第なり』と、是れ彼等が身分不相應の贅澤を爲さんとする遁辭なり、而かも斯かる人物の通弊として金錢を欲するの念最も甚しきを常とす、木に緣て魚を求むと言はんか、根をて斷ちて枝葉の繁茂せんことを望むに譬へんか。無謀も亦甚しからずや、吾人は金錢以外何等の望なき吝嗇漢を憎むと共に、黃金の價値を解する能はざる遊蕩兒を憐む、讀者若し本章に於て順次記述する所の各項を熟讀せば、勤儉は立身出世の大本にして克己向上の美德たるを信じ、日常の生計を營み業勢に從事するに當りて、一定の規律を恪守するを喜び、勃々たる生氣を帶び來るべきを疑はざるなり。

第二章　事業經營に要する資格

功者を通じて必要缺べからざるの用意は何れの場合に於ても勤儉貯蓄の美風是なり、之より本書に列擧せんとする事業家の奮闘的經歷を見よ、鉅萬の富を重ねて社會上王侯を凌ぐ勢力を有するに至るも、一塊の麵麭一杯の水をすら太牢の美味に比したる少年時代の精神は磅礴として胸臆の間に蟠まり、公益事業の爲には數百萬の巨額を投ずるも無用の事物に對しては一錢一厘の微を惜み、孳々として事業の經營に全力を注ぐにあらずや、思ふに勤儉貯蓄は克己心の變體なり、人生は諸種の動物的情慾を有するが故に、奢侈安逸の生活は天性の要求に基く自然の傾向のみ、されば大事業家は常に意思の劍を揮て煩惱の慾を斷ち、獨り力を向上の一路に集めて凡流を抜く幾百歩の高きを占む、人間成功の次第を尋ぬれば、勤儉貯蓄を以て不時の要求に應ずるの資に供し、生活上の體面を保つを處世の第一步とし、既に獨立の基礎を鞏うするに及んでは、進んで事業を經營し一切の利益を擧げて之を資本に加へ以て業務の擴張を圖り、五年十年は言ふに及ばず、死に至るまで依然此方針を繼續するにあらずんば以て一世に卓立するの偉業を成すべからず、世上有爲の青年動もすれば貯蓄を以て迂濶の方法と爲し、所謂濡れ手に粟の投機的利

んが爲なり、利用するの時機に到着せば、奮然蹶起して獨力事業經營の途に上るべきなり。

されど何れの事業にても頂點は狹うして幾何の餘地もなし、長日月の奮闘を繼續したるの後にあらずんば茲に達する事能はず、而して遠大の志ありて此奮闘に堪ふるものは唯誠實なる貧家の子あるのみ、富家の子は多く滿足の裡に醉生夢死す、此點に於て貧家の子は深く天の恩寵に感謝して可なり、吾人が次章以下收錄する所は何れも如上天則の實行家にして、極めて貧寒の間に人となり、最後には最も名譽あり富あり斯くて社會に多大の感化を與へたる人物の實歷を叙せるものなり、カーネギー翁の所謂『最下層の地位より最上級に榮進せる者』なり、天は自から助くる者を助くといふの一言は、今に於て尚ほ事實の新なるを覺ゆ。

△勤儉貯蓄は克己心に待つ

人間成功の要素中には、機敏あり、熱心あり、勇氣あり、忍耐あり、其經過の難易成業期間の長短等に至ては固より天分の厚薄に從て其趣一樣ならずと雖も、各方面の成

て其不利を說き、斷じて其計畫に同意するを拒むべし、此種の態度は傭主の信用を博すべき第一着步なり、其位地一級を進めて此の如く、更に一級を進めて又此の如くんば傭主は其熱心忠實なる態度に對し、敢て之を拔擢せざらんとするも能はざるべし。

第二は貯蓄なり、收入を見るに至れる第一箇月より貯蓄すべし、人生最も安全なる生活法は常に其出費を收入以下にするに在り、其餘剩は即ち貯蓄と爲すべし、少額なるが故に之を等閑に附する勿れ、事業家に最も欠くべからざるは此貯蓄心なり、必ずしも貯蓄額の多きを問はずして、先進資本家は其人物の大に用ふるに足るを見るべし、用ふるに足るを見らるゝは是れ取りも直さず成功の第一階段なり、換言すれば貯蓄心は富豪たるべき必須の資格なり、當初の貯蓄額は固より微々たるべきも、其結果は實に自ら驚くに堪へたるものあるべく、之を積む事一年二年五年若しくは十年の長きに及ばゝ、忽ちにして五百金千金に上らん、斯く五百金千金を積まば是れ既に一個の小資本家なり、給料生活を脫却して資本家の班に列するの時機到來せるなり、貯蓄は貯蓄せんが爲めに貯蓄するにあらずして、更に之を利用せ

遇に陷らんこと當然の順序なり、然れども如上の覺悟ありて、カーチギー翁の所謂飮酒、投機、及び證書裏書の三危險を避け、斯くて遠大の志望を有する青年にして最後の成功を博し得ざるの理は決して存せざるなり。

△如何にして機會を捉ふべきか

今一人の貧少年ありて一會社の末席に列したりとせよ、二六時中此貧少年の念頭に往來する觀念は即ち如何にして立身昇級の機會を捉らへ得べきかといふに在るべし、然り、如何にして此機會を捉ふべきか、吾人は此等の少年に取りて最も必要なる注意二則を説かん。

第一は言ふ迄もなく職務に忠實なる事なり、全力を本分の爲めに傾注する事なり飽く迄も其傭主の信用を博する事なり、如何にせば其信用を博すべきかと言はゞ、一に事毎に自己の熱誠を披瀝するに在り、傭主能く機を見るに敏なるべしと雖も、時に千慮に一失あるべく。往々傭主其人の爲に不利益なる計畫を爲す事あらん、斯かる場合に於ては、縱し身は最下級に居るも、確乎たる自己の所信に基き、諄々とし

ーヂギー翁の如きは財界に於ける千古の英雄と稱せらるゝものなるが、尙ほ且つ實務家としては此の如き最下級より其步を進めたるものなるを記憶せざるべからず。

△志望は飽く迄遠大なれ

此の如く當初は最低級の地位に甘んずるの要ありと雖も、其最後の目的は、事業の何ものたるを問はずして最上級の地位に昇進せんことを希はざるべからず、遠大の志望なきものは或は之を夢想と笑はん、されど一代の人傑たるを期する事なく、人傑たるべき修養を積むことなく、人傑たるべき實力を練る事なくして未だ一流の人傑となりたるものなし、カーヂギー翁曰く『其地位を頂點に求めよ、夢想中に王たるを期せよ』と、青年有爲の士は須らく此種の大抱負なかるべからず。志望の遠大なると共に忘るべからざる必要なる用意は、正直なるに在り、忠實なるに在り、潔白なるに在り、處世の首途に於て細心なる此覺悟を欠かば、遭遇多端なる人生々活上、事常に其志と迕ふべし、單に成功し得ざるのみならずして、不名譽の境

△先づ最下級の地位に甘んぜよ

身を實業界に投ぜんとするものは、先づ最下級の地位に甘んじ、歩一歩規則正しく昇進すること猶ほ陸軍々人の如くせよ、見よ如何なる名將にても竹の園生に人となり玉へるやんごとなき御方にても、武官として世に立たんとする其第一着歩は陸軍の一兵卒なり、これより下士となり、少尉となり軍人としての總ゆる階級を經て實際的軍務の何ものたるを學ぶの要ある事を、實業家も亦當に此の如くなるべし今日實業界の飛將軍と稱せらるゝ者は其初小僧丁稚の役に服し番頭となり書記となり軈て支配人ともなり、會社の重役ともなりて一個獨立の資本家事業家たるを得るに至れるなり、カーネギー翁曾て其實歷を語りて曰く『余は曾て少年時代には會社の掃除番たりし事ありしが、當時余の掃除番仲間にして、今日社會に高級の地位を占むるものには、アレガニー、ヴアーレー鐵道會社監督デビット、マッカーゴー氏ペンシルバニア鐵道會社監督ロバート、ピトケアン氏及び市の檢事モアランド氏等あり、余等は二日宛毎朝交替に箒を手にして掃除に從事したり』と、カ

實務社會に於て造次顚沛も忘るべからざるは精力の集注なり、徒らに多きを求めて資本を八方に散布するは畢竟其戰鬪力を薄弱ならしむる所以なり、戰鬪力薄弱とならば總ゆる周圍の競爭者に對して一籌を輸せん事當然の結果なり、資本は猶ほ腦力の如し、腦力に攝生の法あり、休養の道あり、此の如くにして始めて活動し得るが如く、資本にも亦自ら一種の健康法あり、時を見、場合に應じ、全力を一方面に傾注して始めて偉功を奏するを得べし。

此原則は個人にして然り、團躰にして然り、會社にして然り、商工何れの場合にも之を適用して曾て悖る事なし、眇なる貧寒の一書記も奮勵を以て傑出すれば先進の識拔を受くべく、碌々なる小事業家も一方面に於て活動すれば忽ち儕輩を凌ぐに足るべし、教育なく後援なく資本なきを歎ずる勿れ、自家の力量を撿するの機會なしといふものは是れ自ら其力量を用ひざるものゝ謂なり、自ら用ひて人之を用ひざるなく、人に用ひられて其力量を發揮し得ざるの理なし、豪傑の士は文王なしと雖も興るとは之を是れ言ふなり。

物あらば之を賣り、必要を感ずるものあれば即ち之を買ふ、唯此の如きのみ、余は未だ曾て投機業者にして確實の成功を博し得たる者あるを聞かず、一日富むも翌日は破產するなり、工業者は勞力を用ひて物品を製造す、此一事賞讃すべき經路を履むものといふべし、工業者は物品製造の爲めに必要にして、商業者は物品分配の任に當り、銀行業者は之に對して資本を融通す第三證書の裏面は如何、實業家の資本要求額は不規則なるを常とし、時に少額なるも、時に驚くべき多額に上る、他の實業家も亦同樣の事情あるを以て相互に證書の裏書を爲すの誘惑あるべし、此危險は必ず之を避けざるべからず、……　他人に對しては如何なる事情の下にも、唯自己の信用に危險なき場合に於てのみ之に應ずべし、最も安全なる方法は他に流用せしめ得る金額を現金にて貸與し、決して裏書若しくは保證を爲さゞる事なり』と、健全なる大實業家たらんと欲せば須らく此三禁制を恪守して敢て苟も之を破るなからん事を要す、

△精力集注の必要

たるもの俄然其形勢の一變するを通則とす、されば青年實務家は始めて事業を起すに際して、其種類の如何に心を勞する事なく、自己の從事するに最も便なる事業を撰み其全力を傾注し、徐ろに機運の熟するを待つべし、實務家世に出づるの用意唯此の如くにして可なり。

△眞面目なる青年實務家の本領

青年實務家は飽く迄事業に忠實にして、其品行を方正ならしむるを要す、然らざれば、少しく得る所あるに從て其財を濫費し、折角有爲の人物も何等用ふる所なく、材能却て其身の累となるに至るべければなり、カーネギー曾て青年實務家を戒めて曰く『漸く其頭角を露はさんとする青年實務家の前に横はれる危險三種あり、一に曰く、飲酒なり、二に曰く、投機なり、三に曰く、證書の裏書なり、第一飲酒の其身を誤まるは言ふ迄もなし、如何なる非凡の人物にても飲酒を可とすべき事情なく、飲酒者は其力量非凡なれば非凡なる程、其失望亦從て大なり、第二投機業と商工業者とは全然兩立せざるものなり製造業者は市價に應じて確實に其業を勵み、賣るべき貨

錐の嚢中に在るものは忽ちにして頴脱す、青年の實務社會に立つ者、其地位を高めんと欲せば先づ須らく他の注意を牽くべし、如何にせば他の注意を牽くべきか、其力むる所擔任事項の外に出で、常人の敢てし得ざる所を爲し、其傭主に對して大に信頼するに足るべき人物なるを認識せしむるを第一義とす、此の如くにして先進者の注意を牽かば、是れ處世上第一期の成功なり、既に第一期にして成功せば第二期第三期は順次其目的を達すべく、爾後如何なる程度まで其地位を高むるを得べきかは其人の力量如何に關す。

青年實務家にして此用意ある者尙ほ且つ往々にして世事の不如意を訴へ、其力量を發揮して先進の注意を牽く能はざるを歎す、然れども此種の人物は畢竟奮勵努力に於て欠くる所あるなり、何人も實力ありて夙夜に懈らざる有爲の青年をして、久しく不遇の地に跼蹐せしむるものにあらず、青年亦區々給料の增額如何を深く念とする事なく、自己の手腕の事業に對する進境如何に注意して他日の大成を期するを要す、小不平小不滿の爲に輕擧盲動する者は到底大成功を博する能はず、事業界の狀態として今年利益ありたるもの必ずしも明年利益なく、數年來損失あり

が爲めのみ、實質に於ては毫も前代と差別なし、吾人を以て之を見れば充分の實力を備ふる者に取りては現今は事業を起して之に成功せん事寧ろ前代よりも容易にして、其得る所更に大なるべし、何となれば、實力に富める者は天下何れの社會に於ても歡迎せらるべく、諸般の事業愈々繁劇なれば繁劇なる程取て以て乘ずるの機會は益々多ければなり、高等教育が實務上の障碍たる事は今尚ほ前日の如く、而して最近實務社會の大勢に徵するに、實力ある人物を要求する事今日の如く甚しきはなきなり、斯くても今日の靑年實務家は社會に立て新事業を起すに便ならずといふ者あるか。

今日の實務社會は最も激烈なる生存競爭場なり、實力あるものとなきものとの一日の差は忽ちにして懸隔千里も啻ならざるに至るべし、有爲の士は活機を執へて大事業に成功し、無能の輩は袖手して世態の繁劇を歎ずるの外なかるべく、實力ある者に取りては今日の如く成業に便なるの時代なきなり。

△如何にして其地位を高むべきか

途は皆此の如し。
實務家の學べる智識は實際的なり、其必要とする所も亦實際的なるに在り、致富に成功するは此實際的智識の最も發達せるの人也、大學教育は實務以上の高尚なる思想感情智識を附與するものなるが故に、飽く迄實際を重んずる貨殖家は這中の消息を窺ひ知る能はざるも、其實人間處世上の高價なる實際的智識は學校以外に於て始めて學び得るなり、野の花を見よ深林を見よ、雨に打たれ風に搖られ敢て園丁の培ふなきも、紅なるは最も自然の色を發揮し高きものは參差として天に朝す、以て實務世界に於ける偉人の面影に譬ふべし。

△現今は最も成業に便なる時代なり

今や物質的文明は殆ど其極に達したるの觀を呈し、青年實務家の新事業を開始すべき餘地は寸隙もあらざるに似たり、然れども過去の青年實務家之を成就し得て、今日の青年實務家は之を成就し得ざるの理由は毫も存せず、現今は之を前代に比すれば、一層困難なる事言を俟たずと雖も、其困難なるの觀あるは形式の異なれる

して累ひあること事實の明かに證明する所なり。

△如何なる種類の職業が最も成功するか

貧境に在る者實務上の訓練に多大の利益ありといふと雖も、職業を撰ぶの點に於て自ら材幹を發達せしむるに便なるものと否との別あり、然らば如何なる種類の職業が最も成功し易かるべきか、從來多數事業家の實歷を案ずるに、會社銀行の貧寒なる書記若しくは工業界下級の實務に就きたる者が、後年商工業家として大成するに至るが如し、此等の成功者は其初資本なく、家庭の感化なく、學問の修養なかりしなり、然らば如何にして事業家たるの端緒を開きたるかと言はゞ、實務上の經驗に加ふるに、唯蓆ならねば卷く由もなき決心を以て之に當りたるのみ、斷じて之を爲さば鬼神も之を避くべし、給料生活の時代を脫して獨力事業を經營せんと欲せば、之に伴ふ困難は枚擧に遑あらざるも、嘗て久しく貧境に於て總ゆる困難に遭遇し、且つ之に打勝ち得たる實驗上の智識を以て之に當らば、寧ろ前途の光明に導かれて、困難の中にも多大の快感を催し來るを禁ぜざるべし、成功せる實務家の首

して何れか、其任に堪ふべきや、實務に迂濶なる學究多く簿書堆裏に老い、無學の貧兒却て大業を成就する所以のもの洵に偶然ならざるを思ふべし。

然れども吾人は學問技藝を職とする靑年の爲に大學敎程の無効なるを說くにはあらず、唯實務社會に立て活動せんとするものゝ爲には寧ろ多大の障害あるを言ふのみ、嚴格なる意義よりすれば、給料に依りて衣食する者は之を實務家の班に列せしむべきものにあらず、眞正の實務家とは全力を其事業に投じ、事業の成績より利益を收むるものゝ謂なり、此場合に於て十四五歲の少年にして早くも實務の何たるを學びたるものと、二十餘歲始めて事業に着手したる者と、兩者の成敗利鈍は多言を須ゐずして明かなるべし、大學出身者にして事業界に成功したるもの勿論世に其人なきにあらざるも、此等の人多くは專門技術を學び、其技術を事業に應用して始めて効果を收めたるものゝみ、若し夫れ其身貧にして學業を修むる能はず、又資本なくして少額の給料に衣食せざるべからざるものは、甘じて運命の恩寵を謝し、慘憺たる貧境に彷徨するの際須らく實務上の材幹を訓練し、以て功を他年に期せざるべからず、致富の道より之を言はゞ高等學術の硏究は寧ろ事業に益なく

とすべし、カーチギーの記する所に據れば、現に紐育の大銀行家にして、給仕若しくは書記より起りたるもの三十有六名の多きに上ると、貧兒は或る意味に於て奮然蹶起すべき宿約を有するものなり、此宿約を果たせるもの即ち今日の所謂大富豪なり、大工業家たると大商業家たると、將た大農業家たるとは、唯其人の天分之をして然らしむるのみ。

△大學教育を受くるの利害

今日の成功せる富豪中に共通する最も著るしき事實は、東西符を合するが如く大學教育を受けざるもの其多數を占むること即ち是れなり、驚く勿れ、殆と普通教育の素養なき者、實際に於ては財界到る處樞要の地位に上り社會人文の進歩に寄與する所甚だ多きを、蓋し此等富豪の始めて實務社會に出でゝ職業に就きたるは頭腦養成上最も適當の年齢たる十四歳より二十歳迄の間に在り、然るに此時期間學校教育に其身を委したるものは、徒らに古代死語の類の研究に熱注し、社會の實務に關しては寸毫も學ぶ所なし、將來大資本を運用して大事業を經營するは二者果

業に從事するに於て何の困難あるを見ず、此場合に於ては唯確乎たる決心を持して同階級の同業者と競爭し奮鬪して、自家の運命を開拓せん事を期せんのみ、農業は事業の性質極めて單純なるが故に、其經營も亦容易なれども、商業若しくは工業に至ては其困難は決して農業と同日の談にあらず、然り困難なりと雖も、其困難たるや、決して有爲の士の打勝つ能はざる性質のものにあらず、若し其競爭にして一層困難なりとせば其結果として收むる名譽幸福利益亦一段の光彩を放つべきは是れ當然の報酬なり。

資本なく先進なく後援なく唯遠大なる希望を有し、鐵の如き決心を有したるが爲に、身一寒生より起つて一代の富豪となりたるもの世に其人多く、否今日の富豪と稱せらるゝものは、殆ど貧困の裡に奮鬪したる者の後身ならざるはなきの事實に徵して、愈々資本なきを憂ふるの必要なきを見るべし、試みに之を米國財界の大立者に就て見よ、カーチギーの如き、ロックフエラーの如き、グールド、セージ、フイールドの如き、將たヂロン、セリグマン、ウイルソン、ハンチントン等の如き皆憐むべき一貧兒として人生の行程に上り、最も嚴格なる貧境の訓練を經たるの人々なるは快

なり。

此用意ありて致富を念とするもの動もすれば以爲らく、社會の總ゆる階級は無數の資本家を以て塡充せられ、殆と後進の業を起すに足べき寸隙もなし、自今資本なくして給料に衣食する者は、傭人以上の地位に傑出する事不可能なるべしと、否々、是れ複雜なる意味に於て事業家たるの實力を缺きたる者の謂なり、人間到る處黃金の美田あるを知らずや、之を開拓するは其人の手腕如何のみ、品性美にして人格高き者若し致富に成功する能はずとせば、是れ勇氣に於て缺くる所あり、膽力に於て缺くる所あり、運籌畫策に於て缺くる所あればなり、男子致富に志あらば劈頭先づ斷じて此僻見を一掃し、猶ほ名將の精兵を行ゐるが如く、泰然として亂戰苦闘の間に臨むべきなり。

△富豪多く無資本家より起る

今茲に農業に着手するの人ありとせよ、資本に就ては毫も憂慮する所あるの要なし、即ち其人の貯蓄し得るか若しくば借用し得べき、少額の資本を以て小規摸の農

富豪實驗教訓

英國　リッチー　著
日本　山崎梅處　譯

第一章　如何にせば致富に成功すべきか

△致富場裡に立つの準備

二十世紀の文明は實力を重んじ、品性を重んじ、人格を重んず、致富は即ち富の眞價を發揮する所以なり、彼の粗豪自墮落を快として徒らに王侯將相を夢むるものゝ如きは、之を容るべき一點一畫の餘地をすら有せず、人若し致富を希はゞ宜しく成功すべき實力を有し、品性を有し、人格を有すべし、此準備なくして致富場裡に立たば其人能く征利に敏にして貨殖の目的を達し得たりとも、是れ處世上の大失敗なり、何となれば品性人格の美は全く沒せられて富の眞價を發揮する事能はざれば

富豪實驗教訓目次終

第十五章　投機事業の恐るべき實例

第十四章　致富の目的を誤れる富豪

第十章　青年實務家に對する要求

第七章　貧兒より立身せる勝利者……………………一三二―一五二

第三章　奮闘的人物の好典型……………………四六―七二

富豪實驗教訓目次

第一章　如何にせば致富に成功すべきか……一―一九

むに足るべく、公人としては社會に流せる害毒實に恐るべきものあり、故に曰く「人格を修養して然る後、致富の術を講ずべし」と原著者は吾人と憂を同じうするの士なり、靑年實務家の爲に健全なる致富の要義を說かんとするもの是れ譯者の微意なり。

明治四十年七月

譯　者　識

引

人、財を積むは難し、而して財を用ゆるの道亦實に容易ならず、如何にして財を正當に積むべきか、如何にして財を正當に用ゆべきか、本書這間の消息を說明するに於て遺憾なきを覺ゆ。

財を積む者に要すべき最初にして又最後の用意は如何、カーネギー曰く「其人格を高潔にせよ、其思想を堅實にせよ」と、此教訓を實行せん事決して尋常一樣の苦心を以て能くすべきにあらず、然れども此用意なくして致富に勞する者は、財を積んで光榮ある致富家と呼ばれず、財を用ひて名譽ある成功者と稱せられず、焉ぞ能く富の眞價を發揮するを得ん。

試に此用意なき富豪の運命を見よ、自ら欺き人を欺き、不正不義至らざるなくして能く千萬金を蓄ふるも、個人としては惡德憎

英國 リッチー 著
日本 山崎梅處 譯

富豪實驗教訓

東京 實業之日本社

974 Litty

(Translated by Yamazaki, Baisho)

Fugo Jikken Kyokun, Tokyo,

Jitsugyo no Nipponsha, 1907

307 p.

(Moral Lessons from the Experiences of

Wealthy men) Commerce

Industrial Enterprise.